

第4章 C区の検出遺構と遺物

第1節 縄文時代の検出遺構と出土遺物

調査概要

C区は、B区より比高差が約4mほど高い位置に当たる。現在の市道滝内・孫内線は三内沢部集落のある段丘の尾根筋にのびており、それに近い位置である。D FからD Kラインにかけては急傾斜で、B区西側の沢斜面へ連続する。

検出された遺構は、縄文時代のものとしては竪穴住居跡4棟、掘立柱建物跡1棟、土坑48基、土器埋設遺構1基である。いずれも縄文時代中期中葉から後葉にかけてのものである。DA～DFの斜面落ち際に密に分布する。それ以南では土坑が散漫に分布する。また、時期不明の溝跡としたCSD 02は轍痕である可能性が考えられる。

1 竪穴住居跡

第C 1号竪穴住居跡

[位置・確認] DB～DD-25～26に位置する。第IV層上面で黒色の落ち込みを確認した。

[平面形・規模] 住居南側と東側に搅乱があるため、はっきりとした平面形は把握できないが、不整形な梢円形であると思われる。長軸は6.4m、短軸は削平があり、最長部分で4.52mである。

[壁面・床] 確認面からの壁高が、東側で8cm、南側に12.9cm残存している。南側が緩やかに立ち上がるほかは、壁高が低いながら垂直に立ち上がっている。床は掘り込んだローム面をそのまま床にしており貼床は見られない。東側から西側にかけてなだらかに下っており、凸凹がある。

[壁溝] なし。

[ピット・柱穴] 床面から6個確認され、平面、断面観察でも柱痕は確認できなかった。柱穴の規模は径20～28cmで、深さは21～41cmである。柱穴はPit 2～6の5個が五角形になるように配置され、その配置から主柱穴と判断される。

[炉] 住居中央部より長軸で約280cm、短軸は石囲炉周辺で178cm、硬化面の周辺で134cmの不整形梢円形の落ち込みが検出された。その住居跡中央に近い北側から石囲炉が検出され、その規模は礫の外法で南北85×東西86cmであり、石囲炉の北側は礫は確認されず、「コ」の字状に配置されている。礫は浅い掘方を持ち、設置されている。ただし、北側の礫が無い部分での掘方は確認されなかった。また、焼土は石囲炉内部に約10cmの厚さで形成されており、焼土を検出したのはこの範囲のみである。石囲炉の主軸方向南側には不整な長方形の硬化面、そして西側にも不整形の硬化面が見られる。さらにその南側には壁に接するように55cm×39cm、深さ16cmの長梢円形の掘り込み(Pit 1)が見られる。石囲炉の周辺を見渡してみると、①方形の石囲炉があり、②石囲炉に付属する硬化面が見られ、③その硬化面から壁側に長梢円形の掘り込みがあり、④その3つが直線状に並び、また、それらが床面より低いところに構築されている。

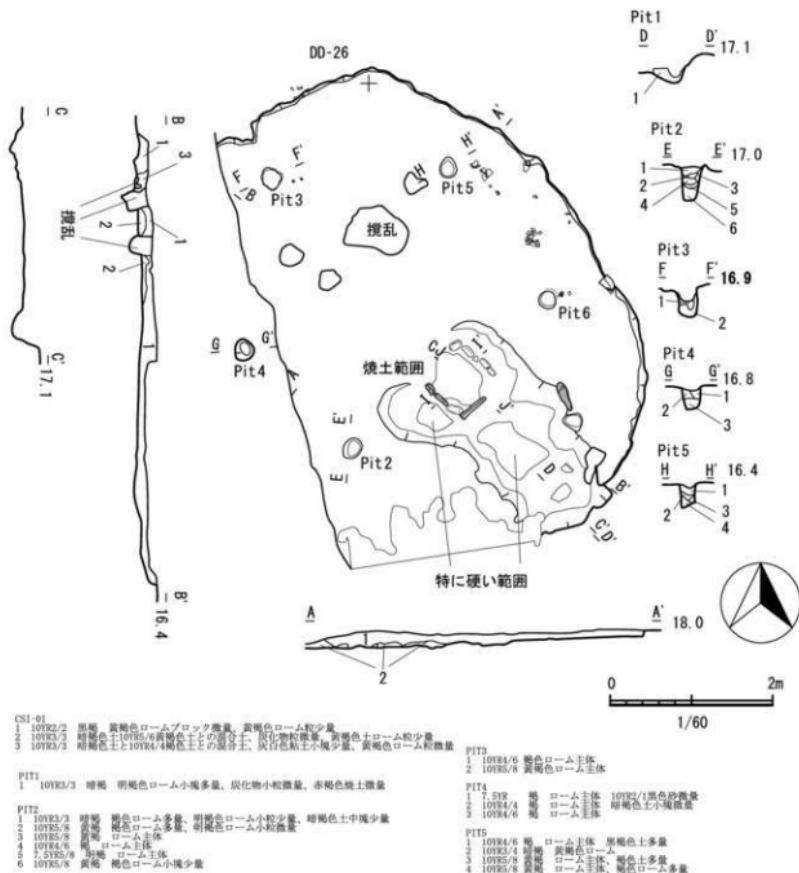


図46 第C1号竪穴住居跡(1)

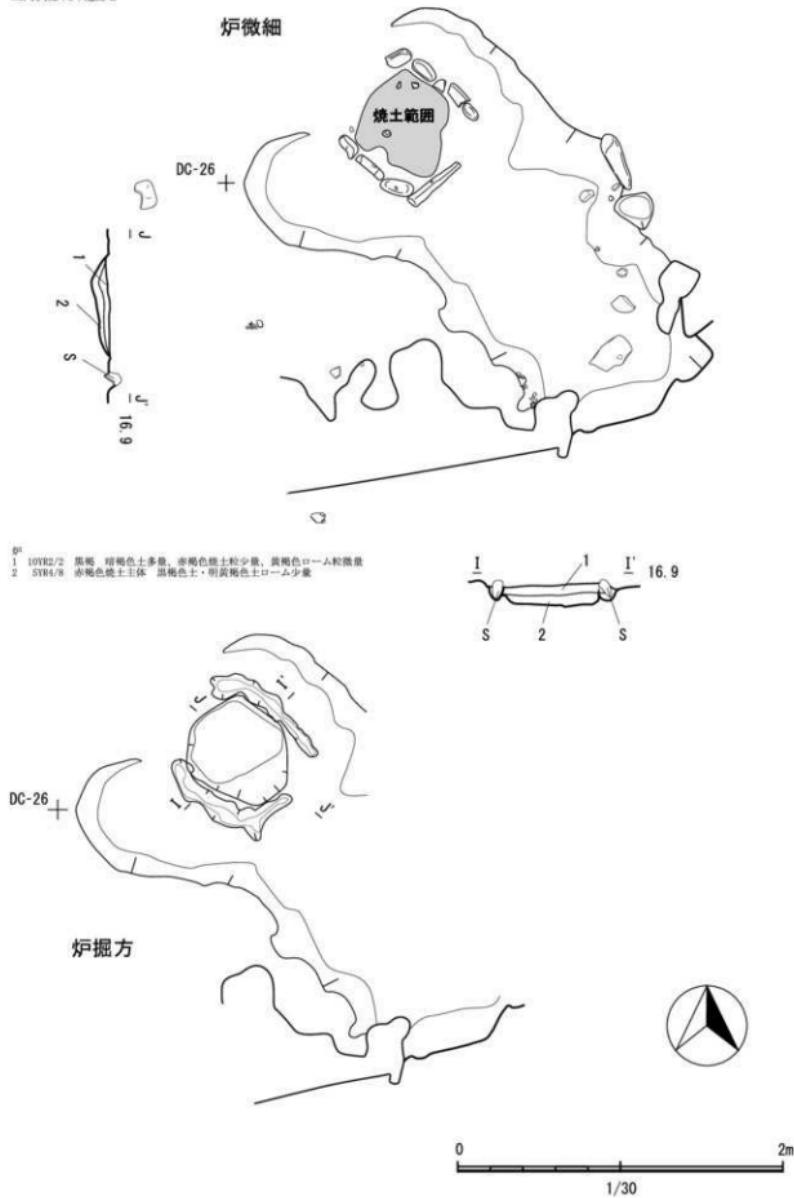


図47 第C1号竪穴住居跡(2)

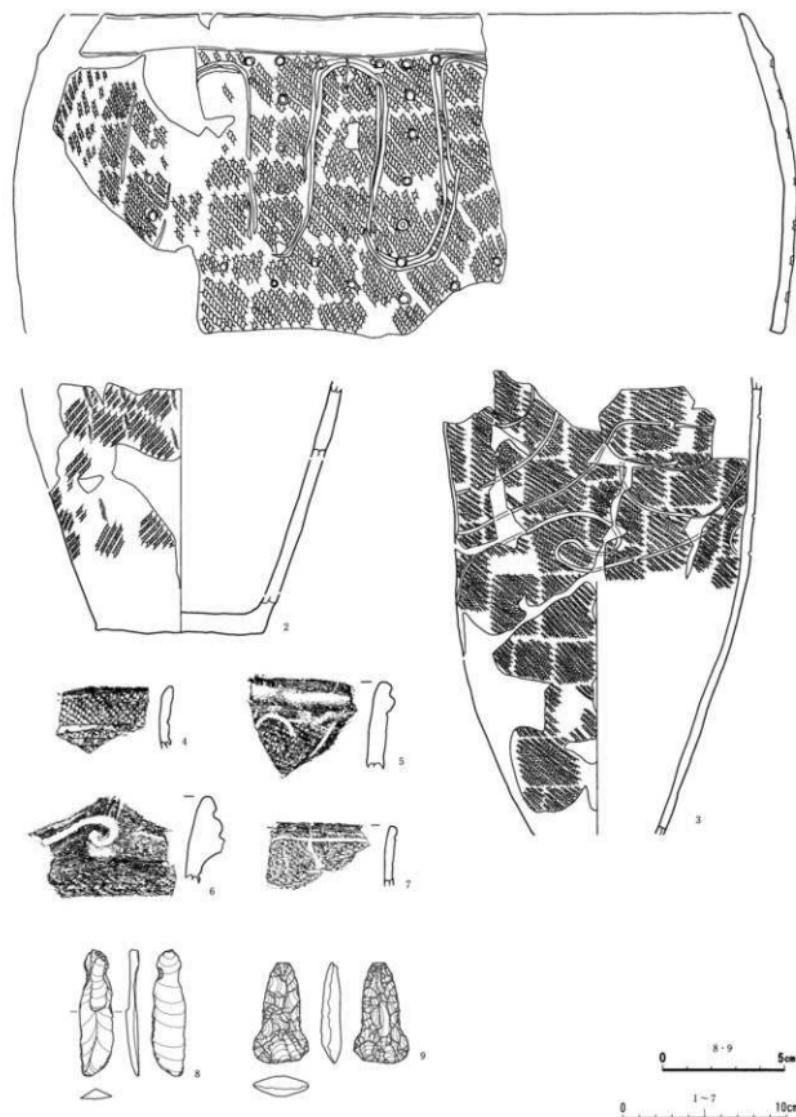


図48 第C1号竪穴住居跡出土遺物(1)

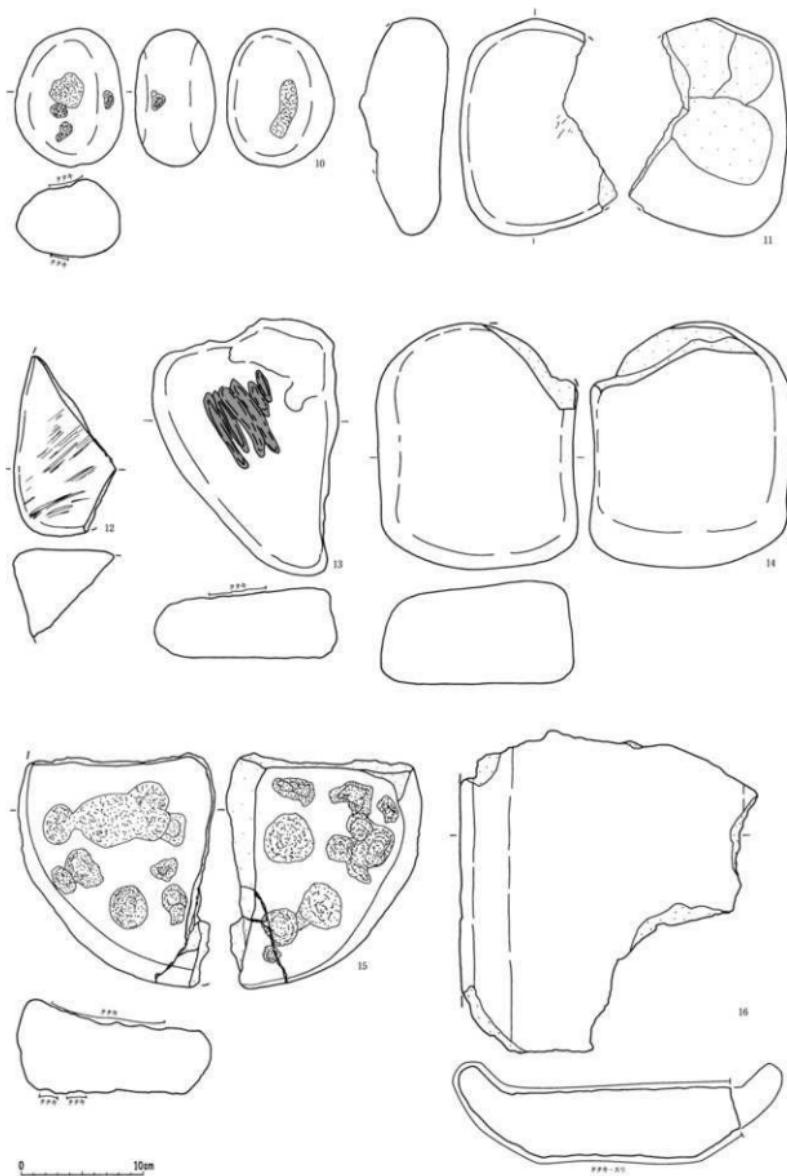


図49 第C1号竪穴住居跡出土遺物(2)

[堆積土] 3層に分層した。堆積土上部は1層は黒褐色土主体で、乾くと白っぽくなり、ぼそぼそしていて10mm程度のロームブロックが見られる。2層は黄褐色土主体、炭化物が少量含まれ、5~30mmのローム粒も見られる。3層は褐色土主体となり、灰白色の粘土がわずかに含まれる。堆積状況より、人為堆積の可能性が高い。

[出土遺物] 土器は、床面から最花式土器、第1層から大木10式併行期の復元可能な土器が出土した。剥片石器は、床直から石匙1点、床面から石鏟1点が出土した。礫石器は、炉から敲石1点、玉砥石1点、台石2点が、床直からは凹みのある台石1点、擦痕のある台石1点、敲きと磨りによって縁が立ち上がるよう整形された石皿1点(図49-16)が出土した。

[時期] 本遺構の時期は、床面出土土器から最花式期と考えられる。

(小山内)

第C2号竪穴住居跡

[位置・確認] DA・B-22・23に位置する。第V層上面で確認した。

[重複] なし。ただし、上面は烟の作付けによる搅乱が激しい。

[平面形・規模] 北側での搅乱がやや激しいものの、平面形は南側に向かって窄まる卵形である。規模は長軸425cm×短軸343cmである。床面積は9.4m²である。

[壁・床面] 確認面からの壁高は、北壁で22.1cm、西壁で17.1cm、東壁で27.2cm、南壁で16.8cmである。掘り込んだローム面をそのまま床にしている。床面は堅緻で、特に炉の周辺はそれが顕著である。

[壁溝] なし。

[柱穴] 床面から柱穴状のビットを1個検出した。Pit2は径25cmほどで不整円形で、深さは30.2cmである。また、竪穴外から柱穴状のビットが4個確認された。Pit3は径30cmほどで、深さは44cm、Pit4は径25cmほどで、深さは43.6cm、Pit5は45×35cmの不整梢円形で、深さは53cm、Pit6は径30cmほどで、深さは59.8cmである。これらの竪穴外のビットも上屋に関連するビットの可能性がある。

[炉] 住居跡ほぼ中央から地床炉が検出された。36×22cmの梢円形に焼土が広がる。厚さは3cm程度である。掘方は42×24cmの梢円形で、深さは7cmである。焼土の下は炭化物が混入するローム主体土である。

[その他] 南西壁際で60×55cmの円形の落ち込みを確認した。底面は鍋底状で、深さは24cmである。堆積土は暗褐色土主体で、ローム粒・炭化物粒が少量混入する。

[堆積土] 2層に分層した。第1層の暗褐色土が主体である。褐色土塊やローム粒が少量混入する。第2層は炭化物主体層である。

[出土遺物] 第1層から中期中葉～後葉にかけての土器片が出土した。図51-6・7(同一個体である)は大木8b式土器そのものとも言える。また8・9は櫻林式土器に円筒上層e式の要素が混在(残存)している。石器も同様に第1層から、基部にアスファルトの付着した石鎌1点、敲石1点、磨石1点、未製品の北海道式石冠1点が出土した。

[時期] 堆積土出土土器から、本遺構は中期後葉に近い時期と考えられる。

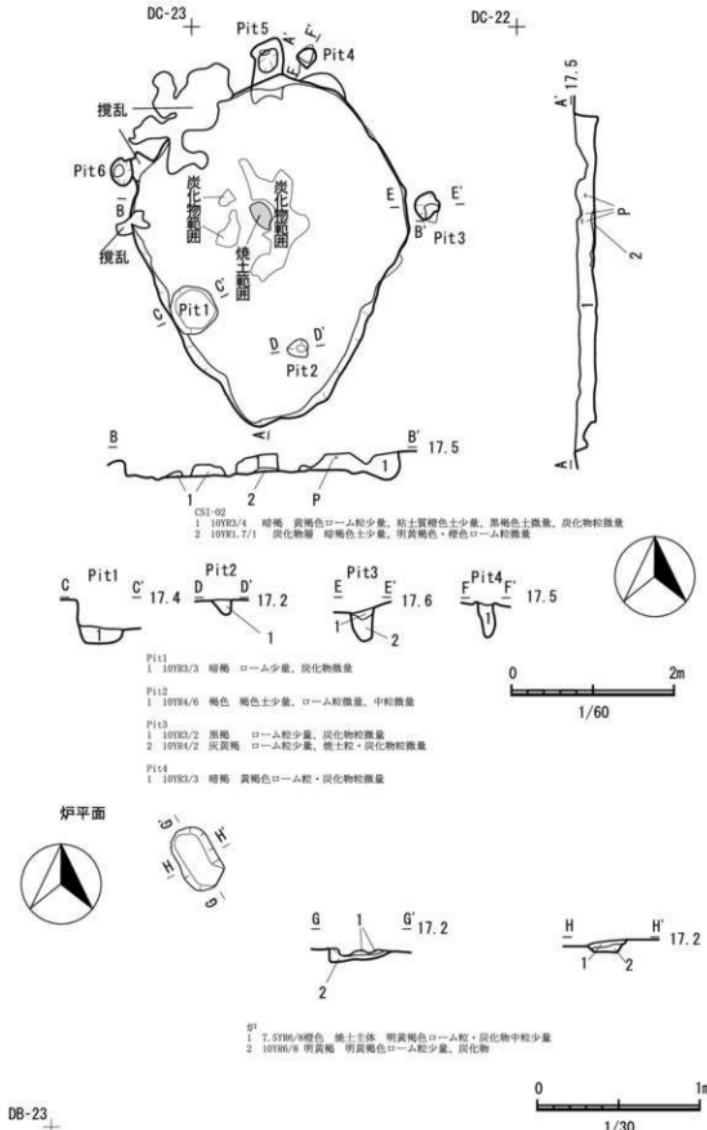


図50 第C2号竪穴住居跡

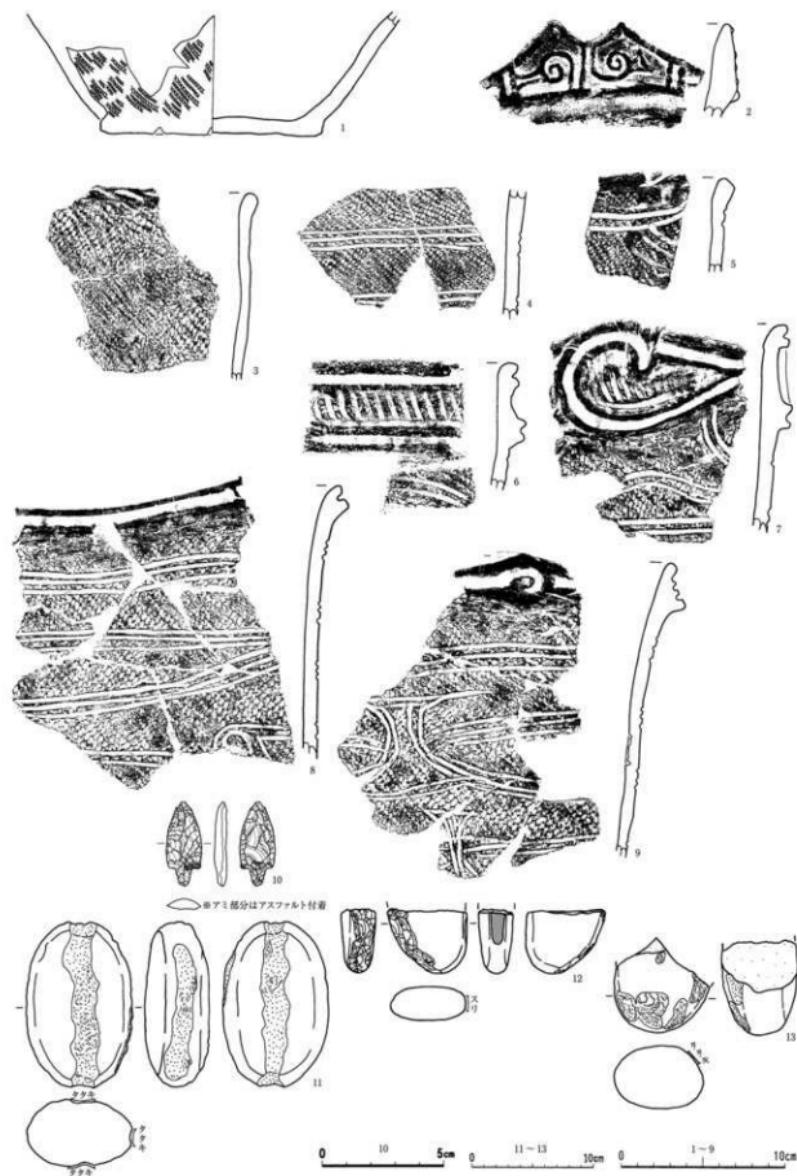


図51 第C 2号竪穴住居跡出土遺物

第C 3号竪穴住居跡

[位置・確認] C Y・D A-22に位置する。第V層上面で炉及び床面の一部を確認した。

[重複] 第C 27号土坑と重複し、本遺構が新しい。

[平面形・規模] 煙の搅乱により、壁は検出できず、半分ほどが調査区外へかかるため、平面形・規模ともに不明である。規模は炉を中心とした南北ラインで3.6mで、それよりは大きい。

[壁・床面] ローム面を床にしており、確認できた範囲では貼床はみられない。床面は堅緻である。

[壁溝] なし。

[柱穴] 床面からピットを3個検出した。しかし、規模から見て柱穴とは考えにくい。

[炉] 床面から土器片・石圓土器片敷炉が検出された。径80cmの掘方下場付近に土器片と礫を立て、その内部にも土器片を敷き詰めている。礫の東側にも楕円形の掘方が確認されたことから、礫の抜き取り痕の可能性が高い。炉堆積土中には焼土層は確認されず、敷いた土器片上面に焼土粒がわずかに広がる程度である。

[堆積土] 7層に分層した。第6・7層は炉堆積土と共通する。全体に黒褐色土主体で、部分的にローム粒、炭化物、焼土粒が微量混入する。

[出土遺物] 土器片敷炉に使われた土器は、地文のみの胴部片である。他に炉からは、磨りのある石皿片が1点出土した。また、第1層中から最花式土器を主体とした土器片や敲石1点、被熱礫1点が出土した。

[時期] 炉出土土器や、堆積土出土土器から縄文時代中期後葉を中心とした時期と考えられる。

(小笠原)

第C 4号竪穴住居跡

[位置・確認] D D～D E-27～28に位置する。第IV層上面で黒色の落ち込みを確認した。

[重複] 第30号土坑と重複し、本遺構が古い。

[平面形・規模] 長軸4.05m、短軸2.6mの長楕円形である。床面積は8.3m²である。

[壁面・床] 確認面からの壁高が、北側で42cm、南側で40cm、東側で45cm、西側で43cm残存している。壁は全体的に垂直に立ち上がっている。床は掘り込んだローム面をそのまま床にしており貼床はみられない。

[壁溝] なし。

[ピット・柱穴] 床面から2個ピットが確認され、径は18～23cm、深さは18～48cmであった。住居外側からは6個確認され、径は20～30cmで深さは18.5～50.7cmである。いずれのピットも平面、断面観察共に柱痕は確認できなかった。ピットの配置を見ると、主軸に沿ったピット1～7～5の並び、そしてピット6～7～8～2～3の並びが先の並びを直行するように見受けられる。これらのピットがこの住居における柱穴である可能性がある。

[炉] 住居中央部より主軸方向でやや北により57cm×41cmの不整楕円形の地床炉が検出された。炉は床面をわずかに掘り下げて構築され、焼土は炉内部に3cmの厚さで形成されている。炉の周辺には197cm×95cmの不整楕円形の硬化面が見られる。

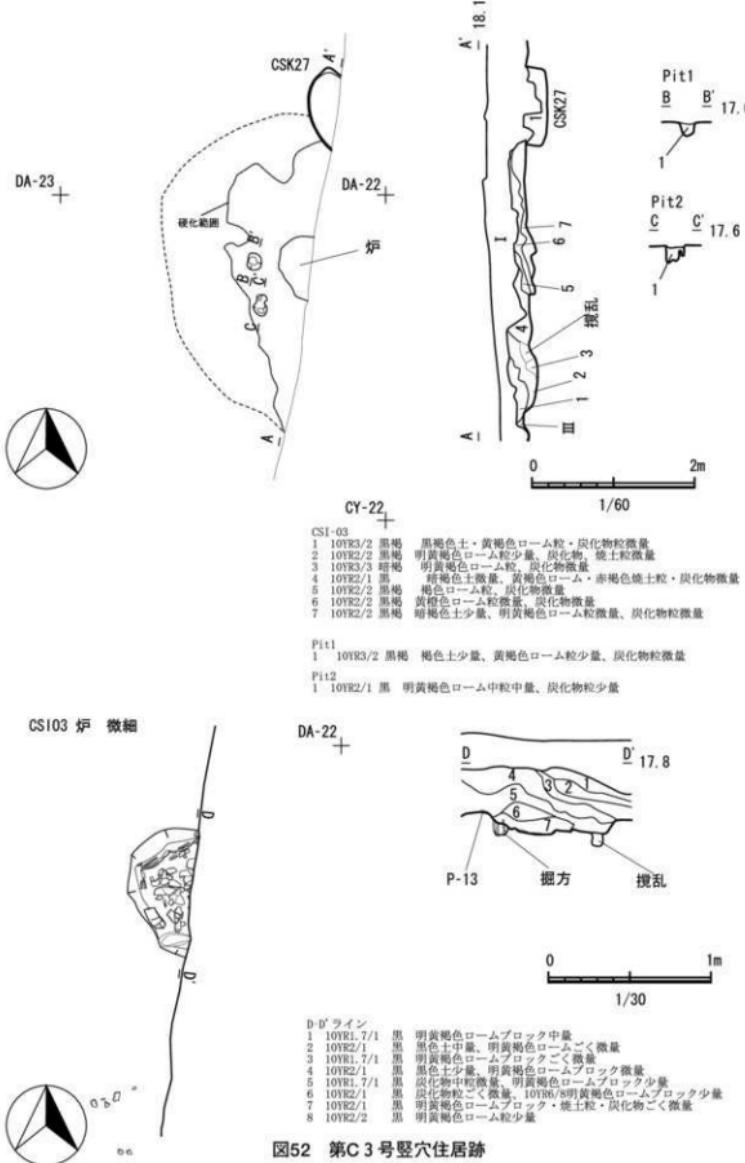


図52 第C 3号竪穴住居跡

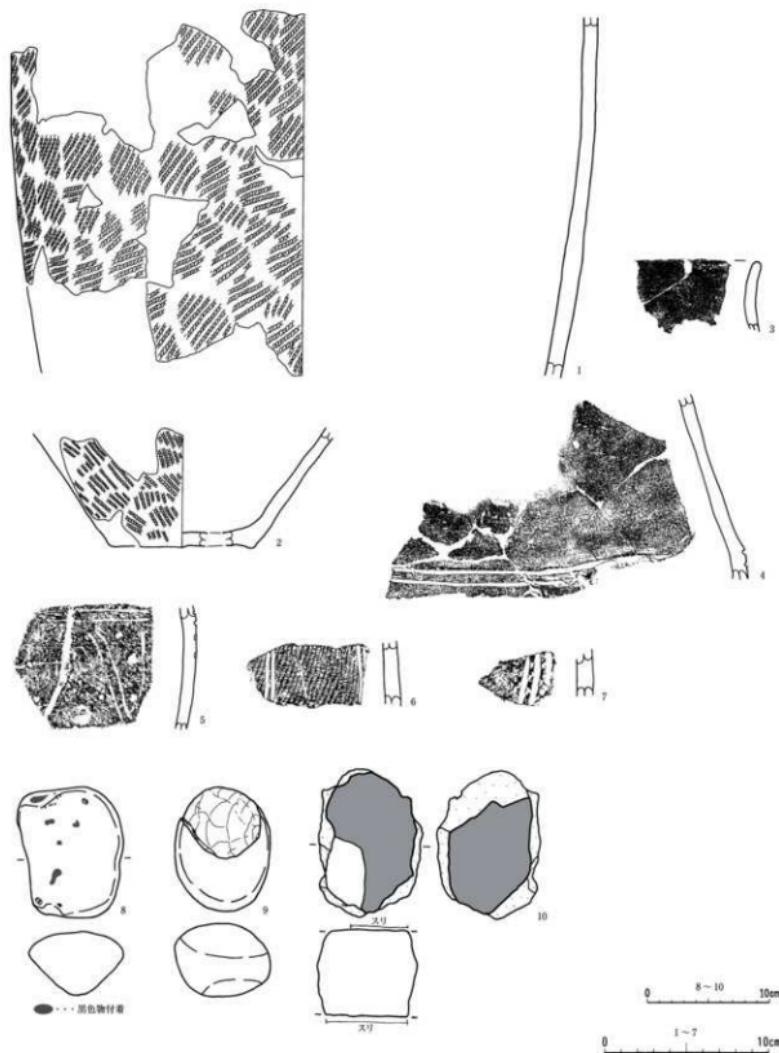


図53 第C 3号竪穴住居跡出土遺物

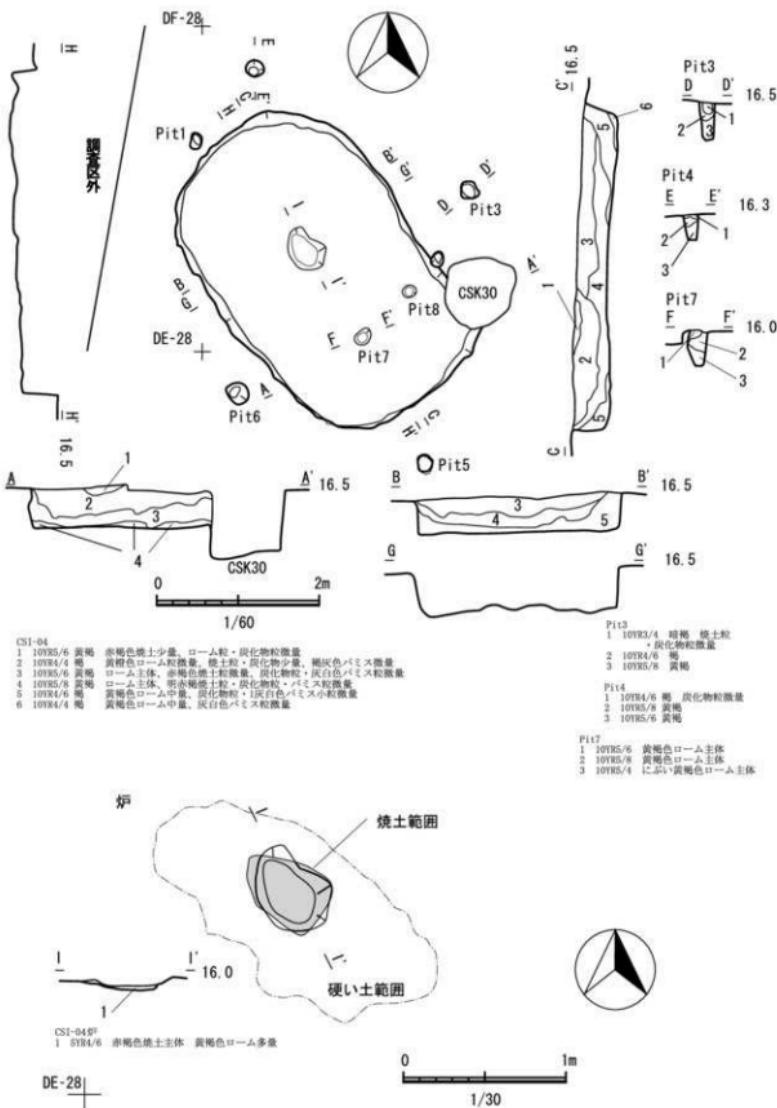


図54 第C4号竪穴住居跡出土遺物

[堆積土] 6層に分層した。全体的に黄褐色または褐色土主体である。第1層は焼土主体で、他の褐色土やロームは少ない。2層は褐色土主体で焼土が少量、炭化物が微量見られる。第3・4層は黄褐色土主体で焼土・炭化物の混入が見られる。堆積状況より、第3層以下が自然堆積、第1・2層は第3・4層を掘り込んだ人為堆積の可能性が高い。

[出土遺物] 床面からは敲石2点が出土した。堆積土中から円筒上層c式やd式土器片が出土した。

[時期] 堆積土出土土器から縄文時代中期中葉に近い時期と考えられる。

(小山内)

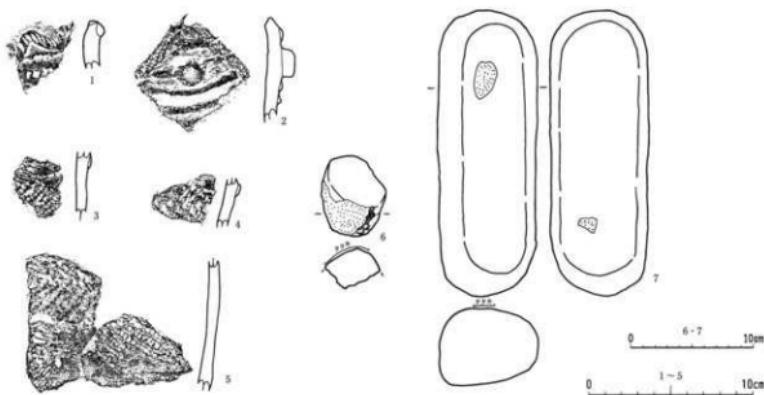


図55 第C4号竪穴住居跡出土遺物

2 挖立柱建物跡

第C 1号掘立柱建物跡（図56）

[位置と確認] C Y ~ D A - 23・24に位置する。第IV層上面で確認した。周辺は現在の畑によるものと思われる耕作痕が著しい。本遺構としたものはそれらに比べて形態が安定し、掘方の規模、深さとも大きく、1間×1間の建物跡としてとらえることが出来た。そのため、他のピット群とは区別して考えることができると思われる。

[平面形・規模] 平面形は梁間1間×桁間1間の正方形である。規模は、掘方芯一芯で計測すると、梁方向では2.3mと2.1m、桁方向で2.5mと2.7mである。個々のピットの規模は径40~50cmではほぼ円形である。ピットの深さは50~70cmである。建物跡の主軸はN-43°-Wである。

[堆積土] 土層を観察、図化したのはPit 12のみであるが、柱痕が認められ、またその周囲は埋め戻し土と判断される。

[出土遺物] なし。

[時期] 遺物がないため不確実な要素が多いが、周辺の遺構の広がりとの関連から縄文時代中期の可能性が高いものと思われる。

(小笠原)

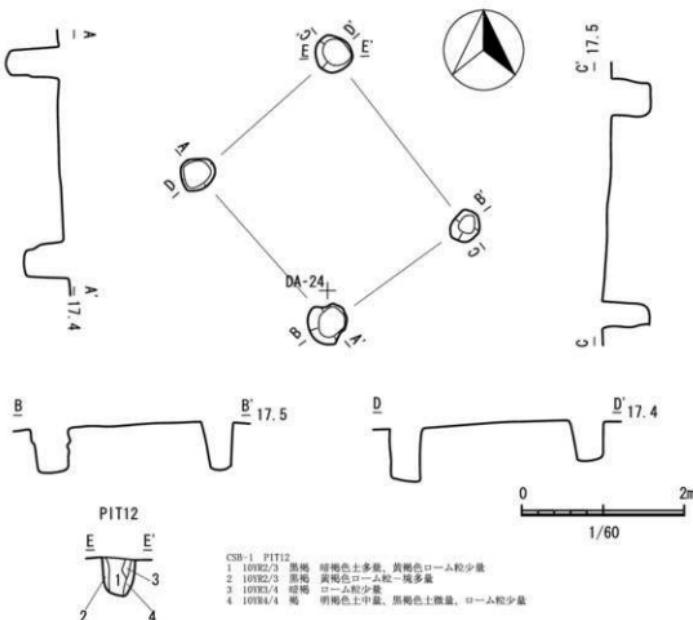
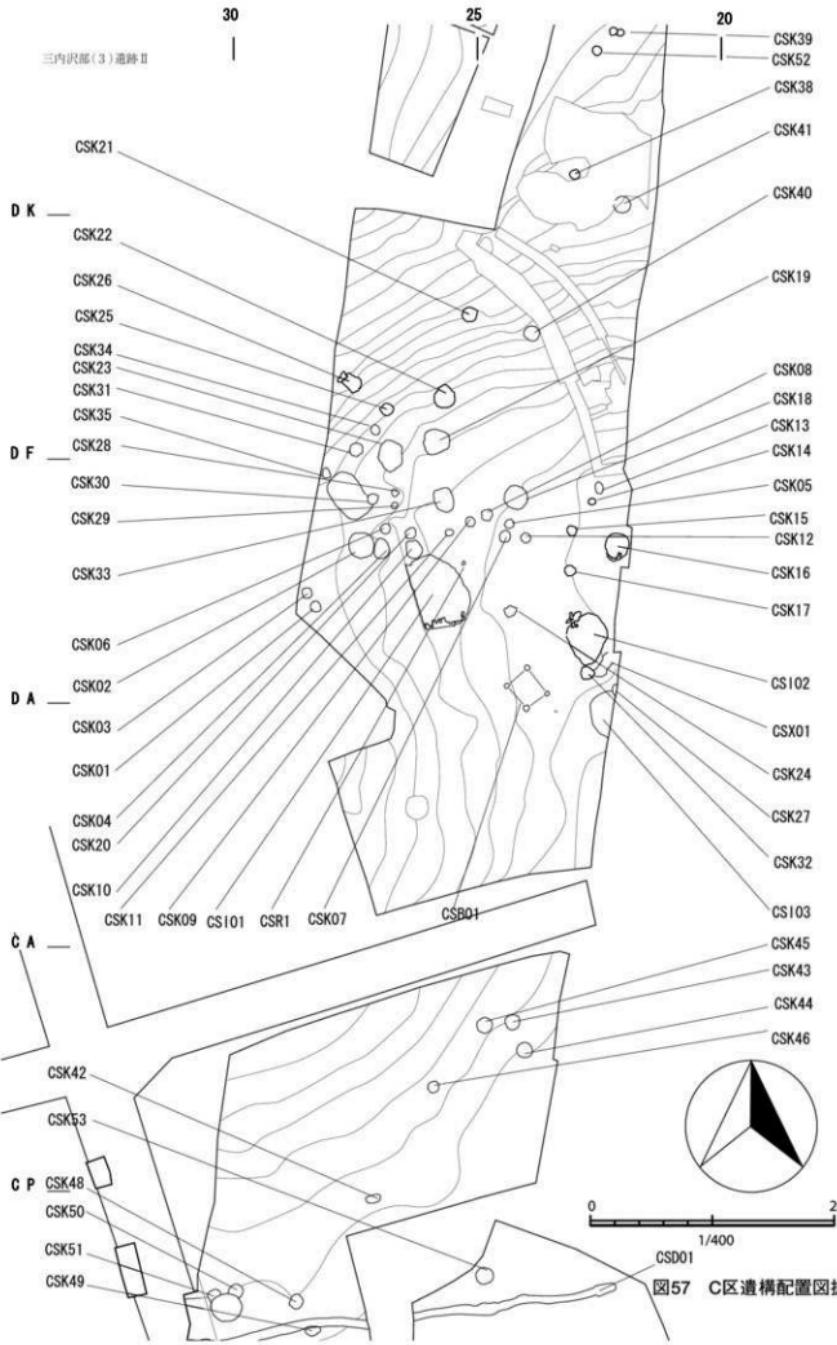


図56 第C 1号掘立柱建物跡



3 土 坑

本報告書は平成16、17年度の検出遺構・遺物を扱っているが、平成18年度に実施した本調査区の残りの部分は狭く、検出遺構もごくわずかである。そのため、ここで一括して記載する。

第C 1号土坑（図58・64）

壁はやや外傾して直線的に立ち上がる。部分的にはほぼ垂直に近い立ち上がりである。底面はほぼ平坦である。堆積土は4層に分層した。第3層は焼土層である。色調・混入物から第2層以下は人為堆積と考えられる。また、第1層は人為堆積後の窪みへ黒褐色土が入り込んだ自然堆積であると考えられる。遺物は堆積土中から円筒上層e式の土器片が出土した。時期は中期中葉に近い時期と考えられる。

(小笠原)

第C 2号土坑（図58・64）

第IV層を壁に、ほぼ垂直に立ち上がる。搅乱は底面まで達するが、平坦である。堆積土は3層に分層した。第1層では一部搅乱を受けている。堆積状況は自然堆積であると思われる。遺物は第3層中央から北側で石錐が1点出土した。遺構の時期は、周辺の状況から縄文時代中期の可能性が高い。

(小山内)

第C 3号土坑（図58・64）

壁は東側はほぼ垂直に近い立ち上がりであるが、他は外傾して直線的に立ち上がる。底面はやや凹凸がある。堆積土は暗褐色を主体とし、褐色土が混在する。ローム粒や炭化物が混入し、人為堆積の可能性が高いと考えられる。遺物は第1層から円筒上層e式の土器片、微細な使用痕剥離が認められた削器1点が出土した。時期は中期中葉に近い時期と考えられる。

第C 4号土坑（図58・64）

壁は西側大凡半分がほぼ垂直に近い立ち上がりで、東側の大部分は底面から内傾し、開口部に近いところで垂直に立ち上がる。しかし、本来的な形狀を止められない可能性が高い。第VI層を底面としており、平坦で堅緻である。底面北西壁際で60×36cmの楕円形の落ち込みを確認した。深さは12cmほどで、底面は緩い鍋底状で、土坑の底面に比べると堅さはない。堆積土は11層に分層した。全体に褐色土から明褐色土を主体とする。第7層以下は粘土質ローム塊で構成され、壁の崩落土と見られる。特に第7・10・11層は締まりがなく、非常に脆い。第5・6層中には白色粘土塊が多量に混入する。第1層はローム層で、「蓋」をしたような状態だった。以上のことから、人為的な堆積・埋め戻しの様相が強いものと考えられる。遺物は堆積土中から円筒上層e式から榎林式の土器片が出土した。時期は中期中葉から後葉に近い時期と考えられる。

(小笠原)

第C 5号土坑（図58）

壁は西側がほぼ垂直に立ち上がり、東側が底面から緩やかに立ち上がる。底面は搅乱を受けている

ため凹凸がある。堆積土は2層に分層した。第1層は褐色土主体でしまりがなく、ぼそぼそしている。また、ロームブロックが混入している。第2層の下には搅乱が見られる。堆積状況は人為堆積と思われる。遺物は出土しなかった。縄文時代のものと考えられるが、明確な時期は不明である。(小山内)

第C 7号土坑（図58）

壁は北東側のロームブロックを除き、ほぼ垂直に近く立ち上がっている。底面は柔らかく、ぼそぼそしており凸凹が多い。堆積土は2層に分層した。どちらの層もローム主体である。北東側にはロームブロックが見られる。堆積状況から人為堆積と考えられる。遺物は出土しなかった。遺構の形態・分布から縄文時代中期のものと考えられるが、明確な時期は不明である。(小山内)

第C 8号土坑（図58・64）

壁は外傾して直線的に立ち上がる。底面は平坦である。堆積土は2層に分層した。第1層は暗褐色、第2層はローム質土を主体とする。褐色土やローム粒、炭化物が混入し、人為堆積の可能性が高いと考えられる。遺物は堆積土中から円筒上層e式の土器片、石槍1点が出土した。中期中葉に近い時期と考えられる。

第C 9号土坑（図58・65）

壁は外傾して直線的に立ち上がる。底面は平坦である。堆積土は2層に分層した。第1層は黒褐色、第2層は暗褐色土を主体とする。ローム粒や焼土粒、炭化物が混入し、人為堆積の可能性が高いと考えられる。遺物は第2層から円筒上層e式の土器片、第1層から最花式の土器片と台石片1点が出土した。第2層出土遺物から中期中葉に近い時期と考えられる。(小笠原)

第C 10号土坑（図59・65）

壁は東側が外傾しながらほぼ垂直に近く立ち上がる他は、やや緩やかに立ち上がる。底面は中心部が低く、外周に向けて緩やかに上っていく。全体的には凹凸である。堆積土は2層に分層した。第1層ではロームブロックが混入し、第2層ではV層起源のロームが見られる。堆積土、堆積状況から人為堆積と考えられる。遺物は堆積土中から地文のみの胴部小片が、確認面から磨石1点が出土した。遺構の形態・分布から縄文時代中期のものと考えられるが、明確な時期は不明である。

第C 11号土坑（図59・65）

壁は南西側が外傾しながら立ち上がる他は、ほぼ垂直に立ち上がる。底面は中央部が低く鍋底状で、全体的に凹凸している。堆積土は4層に分層した。第1層は暗褐色土主体であり、土坑の開口部を覆い、東側に広がって堆積している。また、第2層は底面に達している。堆積状況から見て人為堆積と考えられる。遺物は堆積土中から中期の地文のみの土器片が出土した。時期は、出土土器から中期と考えられる。(小山内)

第C12号土坑（図59）

壁は外傾して直線的に立ち上がる。底面は平坦である。堆積土は暗褐色土を主体とし、ローム粒・塊が混入する。人為堆積の可能性が高いと考えられる。遺物は出土しなかった。遺構の形態・分布から縄文時代中期のものと考えられるが、明確な時期は不明である。

第C14号土坑（図59）

壁は外傾して直線的に立ち上がる。底面は平坦である。堆積土は2層に分層した。第1層は暗褐色、第2層は褐色土を主体とし、ローム粒、焼土粒などが混入する。人為堆積の可能性が高い。遺物は出土しなかった。遺構の形態・分布から縄文時代中期のものと考えられるが、明確な時期は不明である。

(小笠原)

第C15号土坑（図59・65）

壁は西側を除き、底面から内傾し直線的に立ち上がり、フラスコ状を呈している。底面は平坦である。堆積土は3層に分層した。第1層は黒褐色土主体で堆積土の大半を占めている。第2層は褐色土主体でロームの混入度合いが多い。堆積状況から第1・3層は自然堆積、第2層は壁が崩落したものと考えられる。遺物は堆積土中から円筒上層d式またはe式の土器小片が出土した。時期は、出土土器から中期中葉に近い時期と考えられる。

(小山内)

第C16号土坑（図59・65）

壁は外傾して直線的に立ち上がる。底面は平坦である。堆積土は3層に分層した。いずれも暗褐色土を主体とし、ローム粒、炭化物、焼土粒などが混入する。混入物から人為堆積の可能性が高いと考えられる。遺物は堆積土中から円筒上層e式の土器片が出土した。時期は出土土器から中期中葉に近い時期と考えられる。

(小笠原)

第C17号土坑（図59・65）

壁は底面から内傾して立ち、中位付近から外側に開くように立ち上がり、断面形がフラスコ状を呈している。底面は中央部が低く、外側に向かい緩やかに上っている。堆積土は4層に分層した。第1層は暗褐色土主体で自然堆積と思われる。第2層が黄褐色ローム主体、第3・4層は黒褐色土主体でローム粒が中量含まれており、人為堆積と考えられる。遺物は堆積土中から円筒上層d式またはe式の土器片が出土した。時期は、出土土器から中期中葉に近い時期と考えられる。

(小山内)

第C18号土坑（図59・65）

壁は北西側半分が外傾しながら立ち上がり、南東側は断面が袋状で、底面から壁高の半分程度まで内傾し、それ以上は外傾して立ち上がる。壁は第C4号土坑同様、本来的な形態を止めていない可能性が高い。底面は第VI層まで掘り込まれ、平坦で堅緻である。底面北壁際で42×30cmの楕円形の落ち込みを確認した。深さは15cmである。堆積土は6層に分層した。上部は黒色土から黒褐色土を主体とする。ローム粒・塊、炭化物などが混入する。第5層はローム土で、一見地山と見間違うほどで

あった。地山に比べ縮まりがなく、壁の崩落土と見られる。中心部から西壁側にかけて平坦に近い堆積状況であることから、壁の崩落も自然のものというよりも、人為的な堆積・埋め戻しの様相が強いものと考えられる。遺物は第2・3層から円筒上層e式または榎林式の土器片、第2層から石鎌1点、第6層から搔器1点が出土した。時期は出土土器から中期中～後葉に近い時期である。

第C19号土坑（図60・66）

壁は外傾して緩やかに立ち上がる。底面は鍋底状で凹凸が見られる。また、西壁際で70×62cmの楕円形の落ち込みを確認した。土坑底面からの深さは22cmである。堆積土は3層に分層した。黒褐色土から褐色土主体で、全体にローム粒・塊を多く含み、他に炭化物、焼土粒などが混入する。混入物から人為堆積の可能性が高いと考えられる。遺物は底面から円筒上層d式またはe式土器片や敲石1点が、壁面から磨製石斧1点、第2層から円筒上層e式土器片や石皿片1点が出土した。時期は、出土土器から中期中葉に近い時期と考えられる。(小笠原)

第C20号土坑（図60・66）

壁は底面より内傾しながら直線状に立ち上がる。底面はやや凹凸が見られる部分もあるが、全体的に見るとほぼ平坦である。堆積土は3層に分層した。第1・2層ともにローム塊が混じり、第2層には焼土も見られる。第3層は焼土層である。焼土は底面で形成されたものではなく、廃棄されたものと思われる。全体の堆積状況より人為堆積と思われる。遺物は堆積土中から円筒上層d式の土器片が出土した。時期は、出土土器から中期中葉に近い時期と考えられる。(小山内)

第C21号土坑（図60・66）

壁は外傾して直線的に立ち上がる。北半部は立ち上がりがやや緩い。底面は平坦である。堆積土は4層に分層した。第1・4層が黒褐色土主体、第2・3層が黄褐色土主体である。いずれの層にもローム粒・塊を含み、他に炭化物が微量混入する。堆積状況から見ても人為的な堆積の可能性が高いと考えられる。遺物は確認面から円筒上層式の胴部片と、片面調整の削器1点が出土した。時期は、出土土器から中期前半と考えられる。

第C22号土坑（図60・66）

壁は外傾して直線的に立ち上がる。底面には凹凸が見られる。堆積土は3層に分層した。第1層は暗褐色土主体でロームが塊状に中量入る。第2・3層がローム質土主体の褐色土主体である。堆積状況・混入物から見て人為堆積の可能性が高いと考えられる。遺物は底面中央やや南寄りで全体の1／3を欠失した石皿片、確認面から石槍1点が出土した。遺構の形態・分布から縄文時代中期のものと考えられるが、明確な時期は不明である。

第C23号土坑（図60・67・68）

壁は西側と北東側が底面から内傾し、開口部に近いところで外傾する。それ以外はほぼ垂直ないし、外傾して立ち上がる。壁は本来的な形状を止めていないものと見られる。第VI層を底面としており、

平坦で堅緻である。堆積土は38層に分層した。全体に褐色土から明褐色土を主体とする。特に下1/3程を占める第21・23・25層は粘土質ローム塊で構成され、壁の崩落土や埋め戻し土と見られる縮まりがない層である。これらは、壁際にレンズ状の堆積状況を示すものではなく、土坑全面に平坦ではないにせよ、均質な厚さをもって堆積する。その他の褐色土から明褐色土主体層も同様に人為的な堆積と考えられる。第7・11・19層は黒褐色土主体であるが、ローム塊、炭化物・焼土粒などが混入する。土坑の中央部に厚く堆積し、壁際にはほとんど堆積しないこと、特に第11層で遺物が多量に含まれることから、第7層については自然堆積の可能性があるものの、他の2層については人為的な堆積層と思われる。また、第5層は廃棄された焼土層である。第1層はローム層で、第C4号土坑と同様に「蓋」をしたような状態だった。以上のことから、全体的に見れば、人為的な堆積・埋め戻しの様相が強いものと考えられる。土器は堆積土中から多量に出土した。円筒上層d・e式で、中でもe式が目立つ。石器では堆積土から両面調整の削器1点、磨石・敲石・石錘1点、敲石1点、石皿片1点が出土した。第11層から敲石1点、扁平打製石器1点、第7層から石皿片1点も出土した。時期は円筒上層d・e式に近い時期と考えられる。

第C25号土坑（図61）

壁は北側から西側では外傾して立ち上がる。それ以外はほぼ垂直に近い立ち上がりである。底面はほぼ平坦である。堆積土は褐色土主体で、多量にローム塊が入る。混入物から見て人為的な堆積の可能性が高いと考えられる。遺構の形態・分布から縄文時代中期のものと考えられるが、明確な時期は不明である。

第C26号土坑（図61・69）

壁は全体に外傾して直線的に立ち上がる。底面はほぼ平坦である。堆積土は3層に分層した。褐色土～黒褐色土主体で、いずれの層にもローム粒・塊が少量から中量入る。混入物から見て人為的な堆積の可能性が高いと考えられる。遺物は堆積土中から円筒上層d式の土器片、磨製石斧の刃部片1点が出土した。時期は出土土器から、中期中葉に近い時期と考えられる。

第C27号土坑（図61）

壁はほぼ垂直に立ち上がる。底面は平坦である。堆積土は暗褐色土主体で、ローム粒・塊が多量に入れる。混入物から見て人為的な堆積の可能性が高いと考えられる。遺物はない。遺構の形態・分布から縄文時代中期のものと考えられるが、明確な時期は不明である。

第C28号土坑（図61）

壁は東側では外傾して、他はほぼ垂直に立ち上がる。底面は鍋底状に中央がやや低い。堆積土は2層に分層した。褐色土～暗褐色土主体で、いずれの層にもローム粒が少量入る。混入物から見て人為的な堆積の可能性が高いと考えられる。遺物は出土しなかった。遺構の形態・分布から縄文時代中期のものと考えられるが、明確な時期は不明である。

第C29号土坑（図61）

壁は南西ではほぼ垂直に、他は外傾して立ち上がる。底面は平坦だが西側に向かって下がる。堆積土は3層に分層した。上半は暗褐色土主体で、混入物の違いから2層に分層した。第3層は黄褐色ローム土主体である。人為的な堆積の可能性が高いと考えられる。遺物は出土しなかった。遺構の形態・分布から縄文時代中期のものと考えられるが、明確な時期は不明である。

第C30号土坑（図61）

壁はほぼ垂直に立ち上がるが、南東壁と西壁は部分的に若干の袋状となる。底面はほぼ平坦である。堆積土は4層に分層した。褐色土主体層と黄褐色ローム土主体層が互層となる。前者には黄褐色ローム塊が多量に混入する。堆積土・混入物から人為的な堆積の可能性が高いと考えられる。遺物は出土しなかった。遺構の形態・分布から縄文時代中期のものと考えられるが、明確な時期は不明である。

第C31号土坑（図61・69）

南東壁はほぼ垂直に立ち上がる部分があるが、それ以外は外傾して直線的に立ち上がる。底面は緩い凹凸があるものの、ほぼ平坦である。堆積土は2層に分層した。第1層は暗褐色土主体で、黄褐色ローム塊が多量に混入する。第2層は黄褐色ローム土主体である。堆積土・混入物から人為的な堆積の可能性が高いと考えられる。遺物は第1層から円筒上層e式の土器片、敲きと凹みのある石器が⁴、第2層から磨石1点、敲石2点、石皿片1点が出土した。時期は、出土土器から中期中葉に近い時期と考えられる。

第C32号土坑（図61）

底面は鍋底状で、壁は底面から緩く立ち上がる。堆積土は2層に分層した。第1層は黄褐色ローム粒・塊が少量混入する。第2層は黄褐色ローム土主体で、粒・塊状のブロックが密集したような堆積土である。堆積土・混入物から人為的な堆積の可能性が高いと考えられる。遺物は出土しなかった。遺構の形態・分布から縄文時代中期のものと考えられるが、明確な時期は不明である。

第C33号土坑（図61・69）

壁は南側半分が外傾して、北側半分がほぼ垂直に立ち上がる。底面は平坦である。堆積土は5層に分層した。第3～5層は黄褐色ローム土主体である。第4層は純粹なローム層と言えるほどで、他の2層も若干の混入物がある程度である。第2層は褐色土主体で、黄褐色ローム粒・塊が多量に混入する。第1層は黒褐色土主体でローム粒・炭化物が少量混入する。第2層以下は堆積土・混入物から人為的な堆積の可能性が高いと考えられる。遺物は三角形土製品が1点出土した。遺構の形態・分布から縄文時代中期のものと考えられるが、明確な時期は不明である。

第C34号土坑（図34）

壁は底面から緩く外傾し直線的に立ち上がる。底面は平坦で、北側に向かって低くなる。堆積土は2層に分層した。暗褐色から褐色土主体で、いずれもローム粒・炭化物が中から少量混入する。堆積

土・混入物から人為的な堆積の可能性が高いと考えられる。遺物は出土しなかった。遺構の形態・分布から縄文時代中期のものと考えられるが、明確な時期は不明である。

(小笠原)

第C35号土坑（図61・69）

壁は北側は緩やかに立ち上がり、南東側は一部内側に傾いている。他はほぼ垂直に立ち上がっている。底面は凹凸がみられる。堆積土は3層に分層した。第1・2層は褐色土主体で、焼土や炭化物が少量見られる。第1層は第2層を掘り込むような形で堆積している。第3層はローム主体である。混入物と堆積状況から人為堆積と考えられる。遺物は堆積土中から円筒上層式の土器片が出土した。時期は中期前半と考えられる。

(小山内)

第C38号土坑（図61）

壁はほぼ垂直ないしやや外傾して直線的に立ち上がる。底面は平坦である。堆積土は3層に分層した。黒褐色土が主体で、いずれの層にもローム粒が微～少量混入する。自然堆積の可能性が高いものと思われる。遺物は出土しなかった。

第C39号土坑（図62）

北壁と東壁はやや袋状に掘り込まれ、内傾しながら立ち上がり、西・南壁も若干袋状であるが、ほぼ垂直に立ち上がる。底は平坦である。堆積土は3層に分層した。黒色土主体で、第1層にはローム粒が中量、第3層には多量に混入する。混入物から人為堆積の可能性が高いものと思われる。遺物は出土しなかった。遺構の形態・分布から縄文時代中期のものと考えられるが、明確な時期は不明である。

第C40号土坑（図62・69・70）

壁は北半では緩く外傾して立ち上がり、南半では壁中位以下が袋状となる。底は平坦で堅緻である。堆積土は8層に分層した。全体に黒～黒褐色土が主体で、ローム粒が少～中量混入する。壁際の第5・6層にはロームブロックが多量に混入し、壁の崩落土と考えられる。また、上位の第1～3層には炭化物も少量含まれる。混入物の状況から、人為堆積の可能性が高いものと思われる。土器は第3層から円筒上層d・e式の土器片が出土した。石器は第3層及び覆土上位から片面調整の削器各1点、第2層から剥片1点が出土した。中期中葉に近い時期と考えられる。

第C41号土坑（図62・70）

壁は全体にやや外傾して直線的に立ち上がる。底は平坦で堅緻である。堆積土は5層に分層した。全体に黒～黒褐色土が主体で、粒状・ブロック状のローム質土が多量に混入する。第3・4層はローム主体ないし多量に混入しており、ロームの廃棄または壁の崩落土と考えられる。混入物の状況から、人為堆積の可能性が高いものと思われる。遺物は底面直上から円筒上層e式から榎林式の土器片と欠損した北海道式石冠を敲石として使用したもの1点、ミニチュア土器1点が出土した。時期は中期中葉から後葉と考えられる。

第C42号土坑（図62）

壁は外傾しながら立ち上がる。底面はほぼ平坦である。堆積土は3層に分層した。黒褐色土が主体で、ローム粒が微量混入する。自然堆積か人為堆積かは判断できない。遺物は出土しなかった。遺構の形態・分布から縄文時代中期のものと考えられるが、明確な時期は不明である。

第C43号土坑（図62）

壁は緩く外傾しながら立ち上がる。底面はやや凹凸がある。堆積土は黒褐色土が主体で、ロームが多量に混入する。自然堆積か人為堆積かは判断しにくいが、混入物から後者の可能性が高いものと思われる。遺物は出土しなかった。遺構の形態・分布から縄文時代中期のものと考えられるが、明確な時期は不明である。

第C44号土坑（図62）

壁はほぼ垂直に立ち上がる。底面はほぼ平坦である。堆積土は第C43号土坑とよく似た状況を示し、黒褐色土が主体でロームが多量に混入する。自然堆積か人為堆積かは判断しにくいが、混入物から後者の可能性が高いものと思われる。遺物は出土しなかった。遺構の形態・分布から縄文時代中期のものと考えられるが、明確な時期は不明である。

第C45号土坑（図62）

確認面から非常に浅いため、壁の状況は不明な点が多い。底は東側にやや凹凸が見られ、北側に向かって弱く傾斜し低くなる。堆積土は黒褐色土が主体でロームが多量に混入する。自然堆積か人為堆積かは判断できない。遺物は出土しなかった。遺構の形態・分布から縄文時代中期のものと考えられるが、明確な時期は不明である。

第C46号土坑（図62）

壁は緩く外傾して立ち上がる。底は平坦である。堆積土は黒褐色土が主体で、ローム粒が少量混入する。自然堆積か人為堆積かは判断できない。遺物は出土しなかった。遺構の形態・分布から縄文時代中期のものと考えられるが、明確な時期は不明である。

第C47号土坑（図62・70）

壁は底面から中位にかけては外傾して直線的に、それよりも上部は段がつくように強く外傾し屈曲しながら立ち上がる。底面は平坦で堅硬である。堆積土は4層に分層した。上位の第1・2層は黒～黒褐色土が主体で、下位の第3・4層はローム質土主体ないしは混入度が大きい。堆積土下位は人為的、上位は自然的な堆積状況であると考えられる。遺物は堆積土中から櫻林式期前後の土器片が出土した。時期は中期後葉と考えられる。

第C48号土坑（図63・70）

壁は直線的に外傾して立ち上がるが、南壁は中位から底面にかけて垂直ないしはや袋状に掘り込

まれ、中位以上は屈曲しながら外傾して立ち上がる。底は平坦で堅緻である。堆積土は6層に分層した。第6層はローム質土主体で、壁の崩落土の可能性が高い。また第3層のローム大塊も崩落土または何らかの作用による一括での混入と思われる。それ以外は黒褐色土が主体で、自然堆積の可能性が高いものと思われる。遺物は、第1層から円筒上層d又はe式の土器片や蔽石1点が出土した。時期は中期中葉に近い時期と考えられる。

第C49号土坑（図63）

壁は外傾して立つ部分とほぼ垂直に立ち上がる部分があり、一定しない。底はやや凹凸がある。堆積土は3層に分層した。褐色土が主体で、ローム粒が少量混入する。人為堆積の可能性が高いものと思われる。遺物は出土しなかった。遺構の形態・分布から縄文時代中期のものと考えられるが、明確な時期は不明である。

第C50号土坑（図63）

壁は中位にかけて屈曲しながら立ち上がる。底面は平坦で堅緻である。堆積土は3層に分層した。全体として暗褐色土が主体で、第1・2層にはローム粒が多量に混入する。混入物の状況から人為的な堆積状況であると考えられる。遺物は出土しなかった。遺構の形態・分布から縄文時代中期のものと考えられるが、明確な時期は不明である。

第C51号土坑（図63）

壁はほぼ垂直に立ち上がる。底面は堅緻である。堆積土は2層に分層した。第2層は黄褐色土が主体で、第1層はローム粒を含む褐色土である。混入物の状況から人為的な堆積状況であると考えられる。遺物は出土しなかった。遺構の形態・分布から縄文時代中期のものと考えられるが、明確な時期は不明である。

第C52号土坑（図63）

壁はほぼ垂直に立ち上がる。底面は堅緻である。堆積土は3層に分層した。第2層は粒状のロームと黒褐色との混合土で、人為堆積と思われる。第1層はローム粒を含む黒色土で、堆積状況は自然か人為か判断できない。遺物は出土しなかった。遺構の形態・分布から縄文時代中期のものと考えられるが、明確な時期は不明である。

第C53号土坑（図63・70）

壁は底面際でやや袋状に掘り込まれる部分もある。底面は平坦である。堆積土は5層に分層した。第3層以下はローム粒・塊が多量に混入ないし主体となり人為堆積と思われる。第1・2層は黒褐色土で、混入物も少なく、自然堆積と考えられる。遺物は第1層から最花式土器の口縁部片や地文のみの胴部片が出土した。中期後葉を中心とした時期と考えられる。

(小笠原)

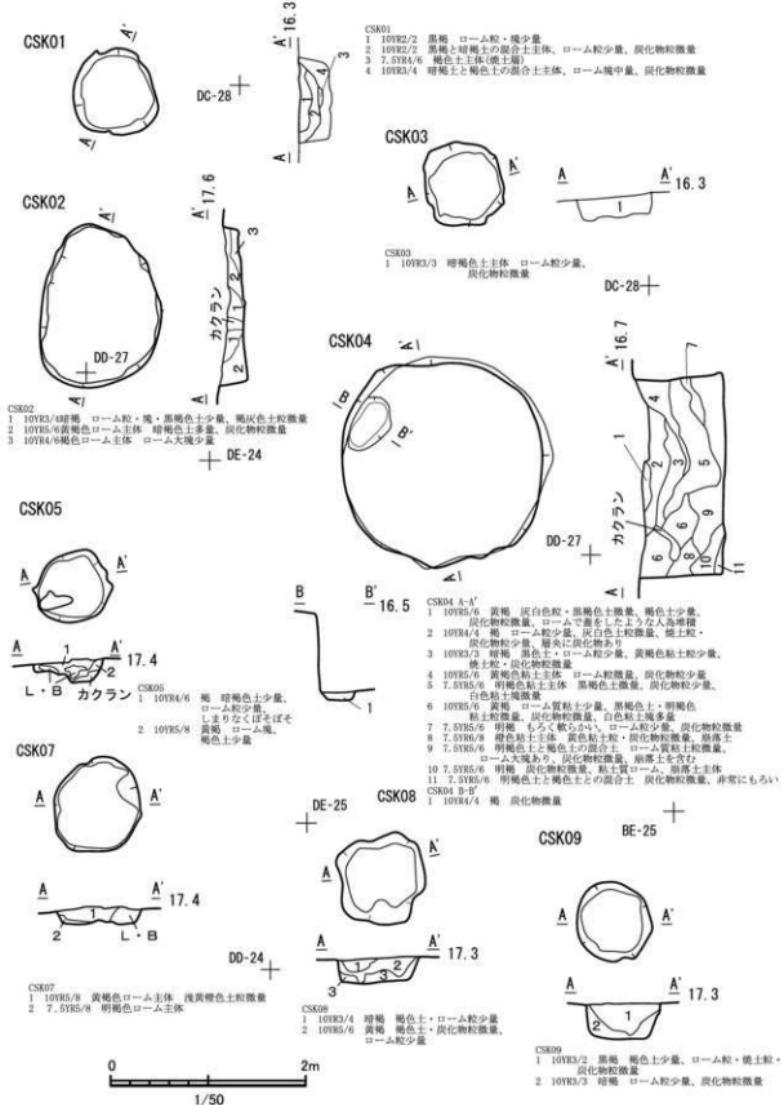


図58 C区土坑(1)

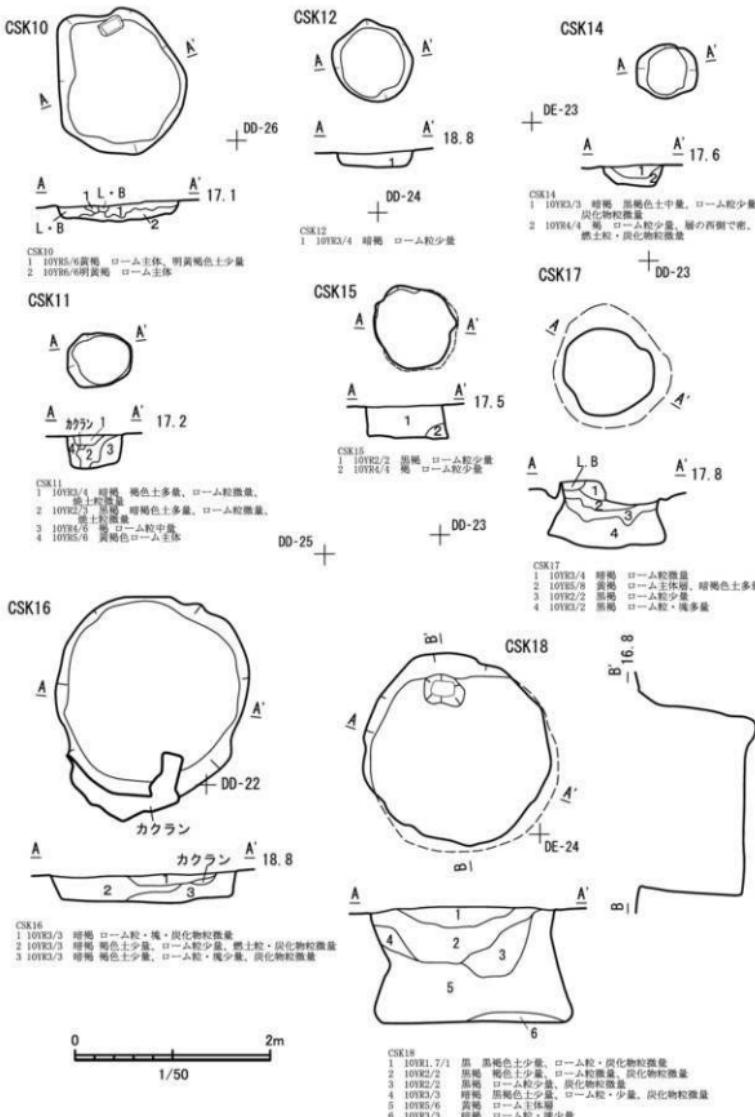
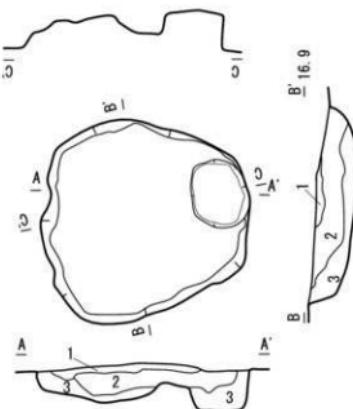


図59 C区土坑(2)

三内沢部(3) 通路II

CSK19 + DG-26



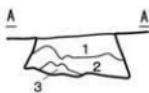
CSK19
1 10Y22/2 黒褐色 ローム少量、焼土粒・炭化物粒微量
2 10Y22/3 灰褐色 ローム多量、燒土粒微量、炭化物粒・炭酸塩微量
3 10Y22/6 黄褐色ローム主体、褐褐色土中量、炭化物粒微量

CSK20

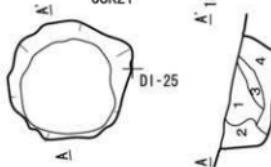


CSK20
1 10Y4/4 黑褐色ローム・燒土粒微量
2 10Y22/4 黑褐色 ローム・燒土粒中量、黒褐色土少量、ローム粒・燒土粒微量
3 SYR4/6 黄褐色ローム主体、燒土粒微量

DG-26 +



CSK21



CSK21
1 10Y22/2 黒褐色 ローム粒微量、燒土粒、炭化物粒微量
2 10Y22/6 黄褐色 ローム主体、黒褐色土中量、炭化物粒微量
3 10Y22/6 黄褐色ローム主体、黒褐色土少量、炭化物粒微量
4 10Y22/2 黑褐色 ローム土、ローム粒、炭化物粒微量

CSK22



CSK22
1 10Y22/4 帽層 黑褐色 土少量、ローム粒微量
2 10Y22/4 黑褐色 ローム少量
3 7. SYR6/8 棚 1ローム主体、褐褐色土中量

- CSK22
1 10Y22/4 にひい) 黄褐色 ローム少量、炭化物粒微量
2 10Y22/6 黄褐色ローム主体、炭化物粒微量
3 10Y22/4 黑褐色 ローム粒・燒土粒・燒土土、炭化物粒微量
4 10Y22/6 黄褐色ローム主体、燒土粒微量、炭化物粒微量
5 10Y22/4 黄褐色土中量、燒土粒・土中量、ローム粒微量、炭化物粒微量
6 10Y22/4 黑褐色 ローム粒・燒土粒・燒土土、炭化物粒微量
7 10Y22/2 黑褐色 ローム粒・燒土粒・燒土土、炭化物粒微量
8 10Y22/6 黄褐色 ローム粒・燒土粒・燒土土、炭化物粒微量
9 10Y22/4 黑褐色 ローム粒・燒土粒・燒土土、炭化物粒微量
10 10Y22/3 黑褐色 ローム多量、炭化物粒微量
11 10Y22/4 にひい) 黄褐色 ローム主体、黑褐色土中量、炭化物粒微量
12 10Y22/4 にひい) 黄褐色 ローム主体、黑褐色土中量、炭化物粒微量

- 13 10Y22/3 帽層 ローム粒少量、炭化物粒少量
14 10Y22/3 帽層 ローム中量、炭化物粒微量
15 10Y22/4 褐褐色ローム主体、燒土粒微量
16 10Y22/4 黄褐色ローム主体、燒土粒微量
17 10Y22/4 黄褐色ローム土中量、燒土粒少量、炭化物粒微量
18 10Y22/2 黑褐色 ローム粒中量、炭化物粒微量、白褐色土塊・紅多量
19 10Y22/4 帽層 ローム多量
20 10Y22/8 帽層 黄褐色 ローム土中量、燒土粒微量
21 7. SYR6/8 棚 1ローム土中量、褐褐色土中量
22 7. SYR6/6 帽層 ローム土中量、灰白色ローム質土粒・炭化物粒・燒土粒微量
23 10Y22/3 帽層 ローム多量
24 7. SYR6/6 黄褐色ローム主体、炭化物粒微量、褐褐色土中量

0 2m

1/50

図60 C区土坑(3)

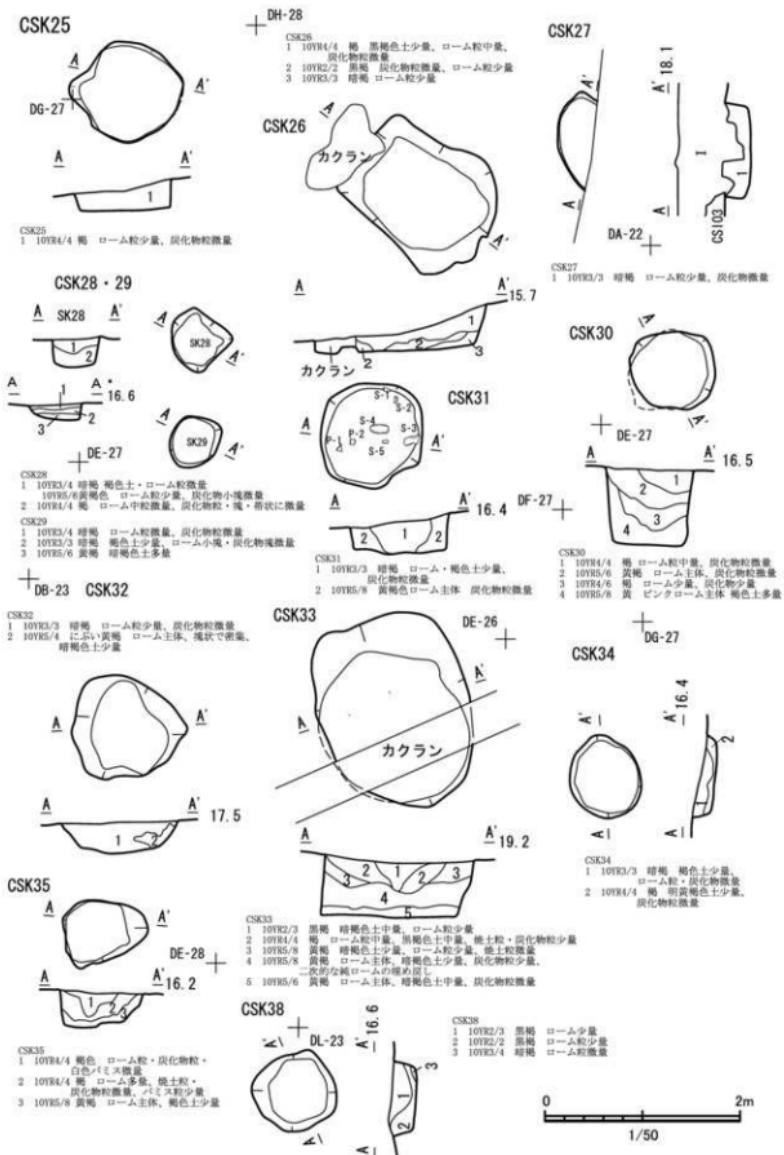


図61 C区土坑(4)

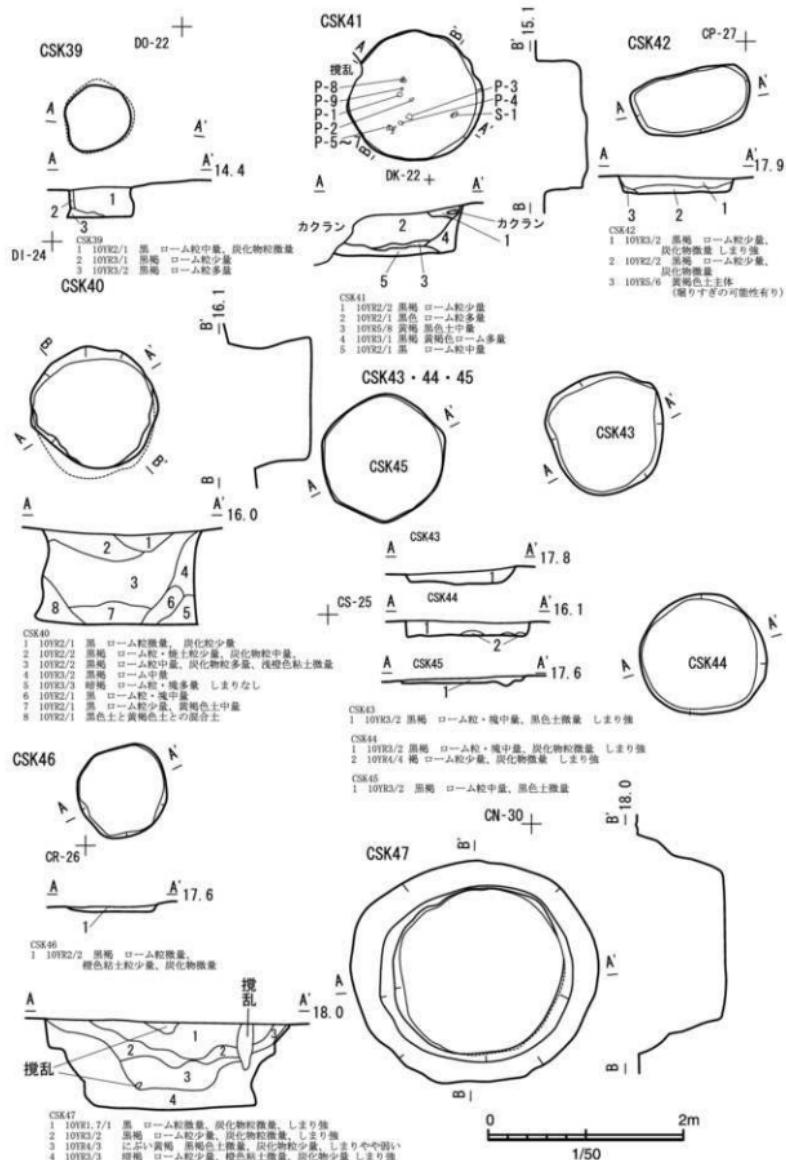


図62 C区土坑(5)

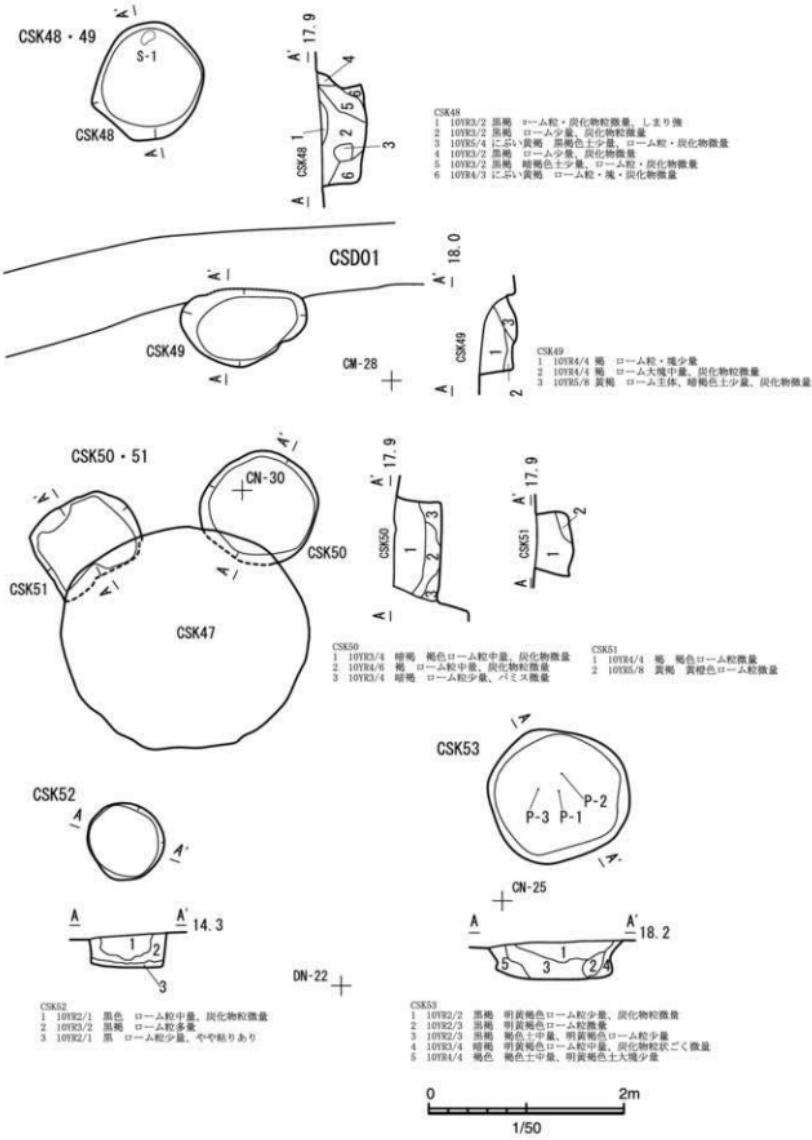


図63 C区土坑(6)

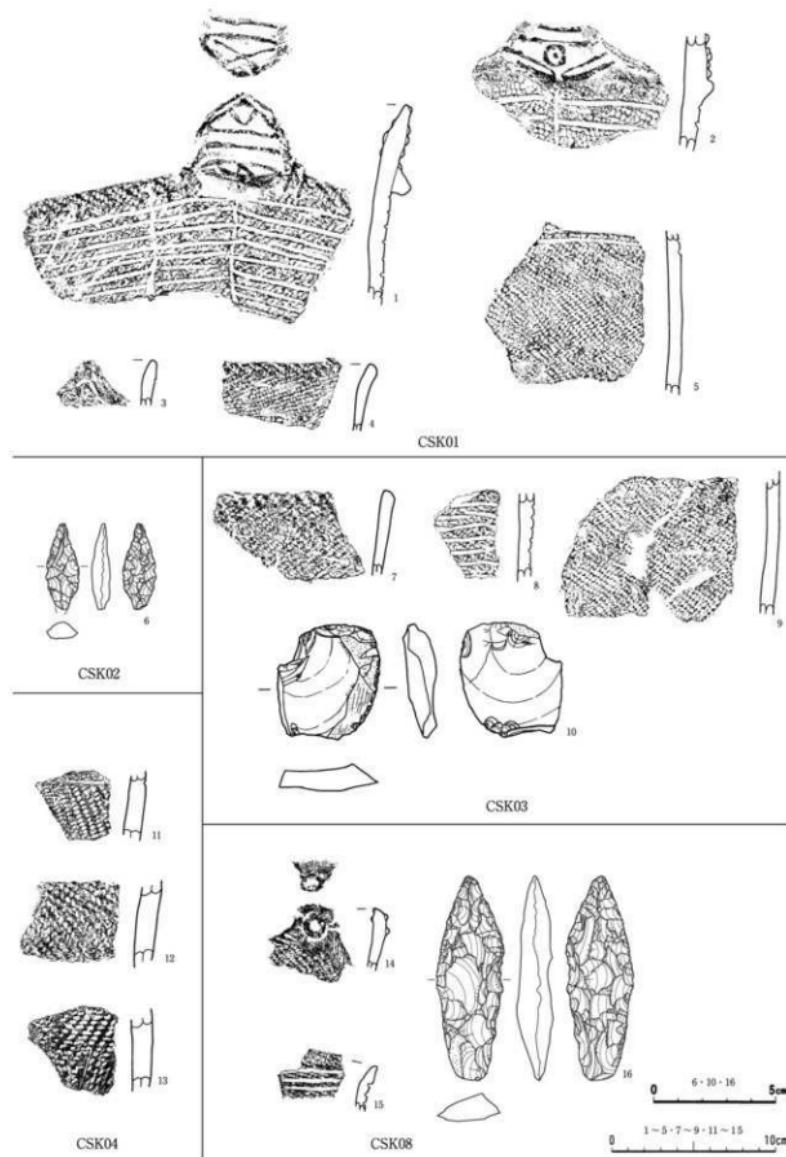


図64 C区土坑出土遺物(1)

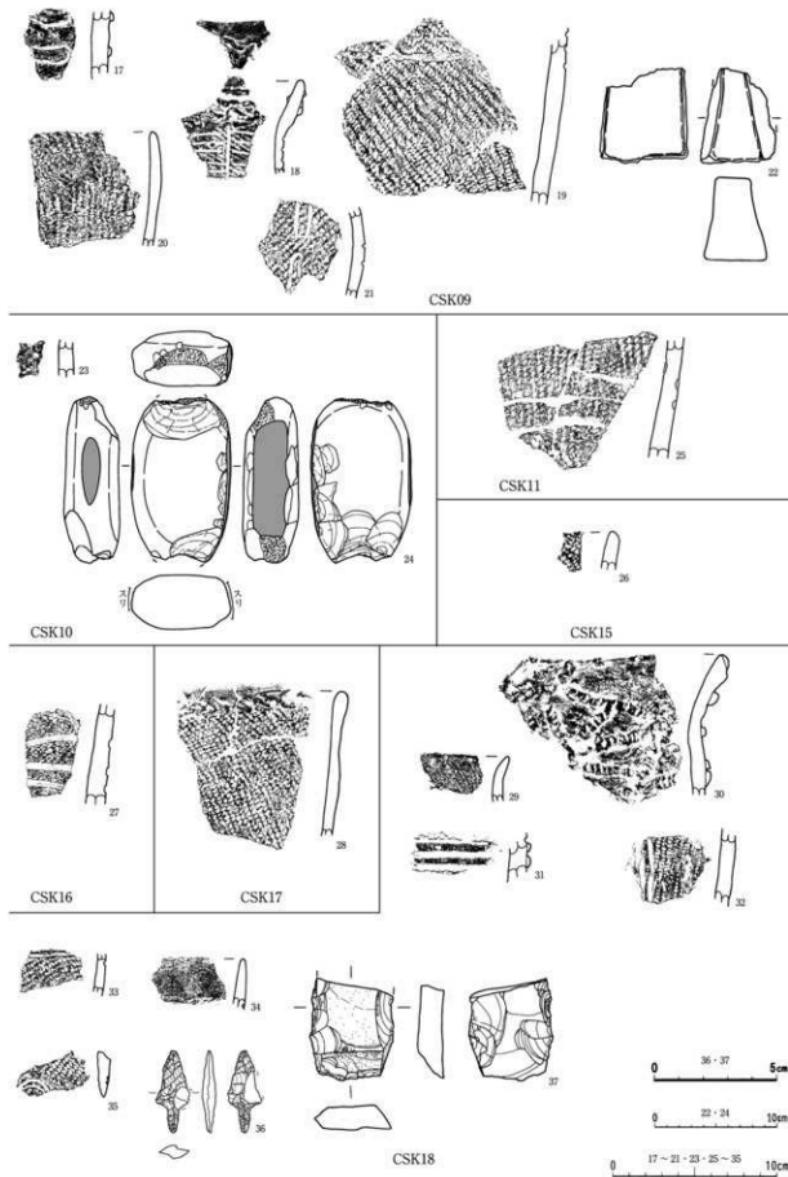
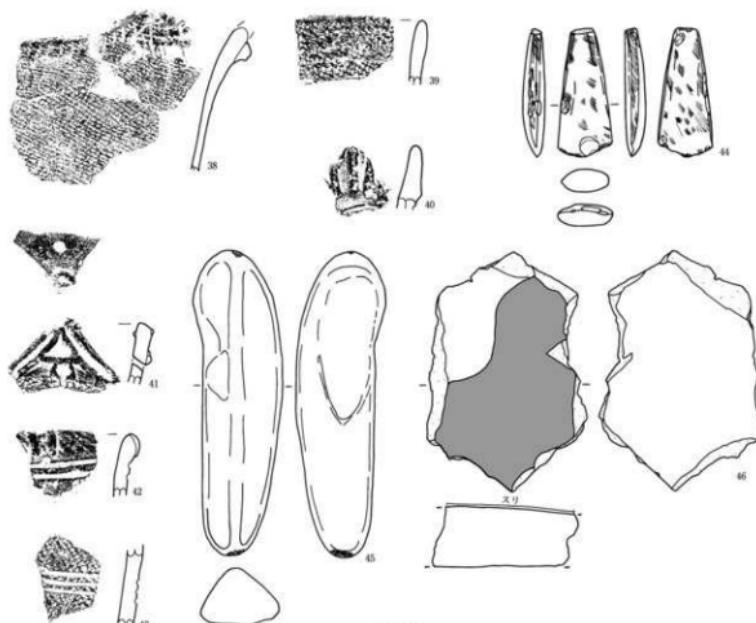
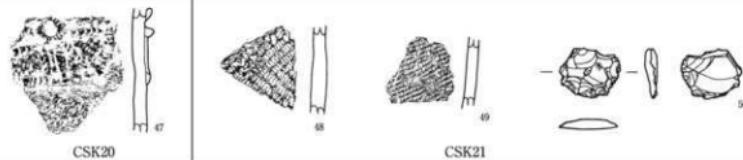


図65 C区土坑出土遺物(2)

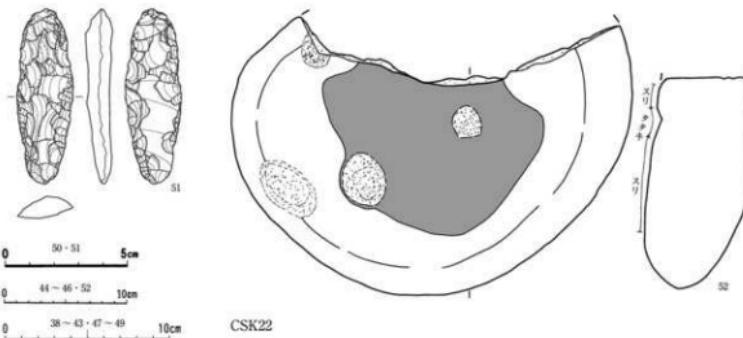


CSK19



CSK20

CSK21



0 50 - 51 5cm

0 44 ~ 46 - 52 10cm

0 38 ~ 43 - 47 ~ 49 10cm

CSK22

図66 C区土坑出土遺物(3)

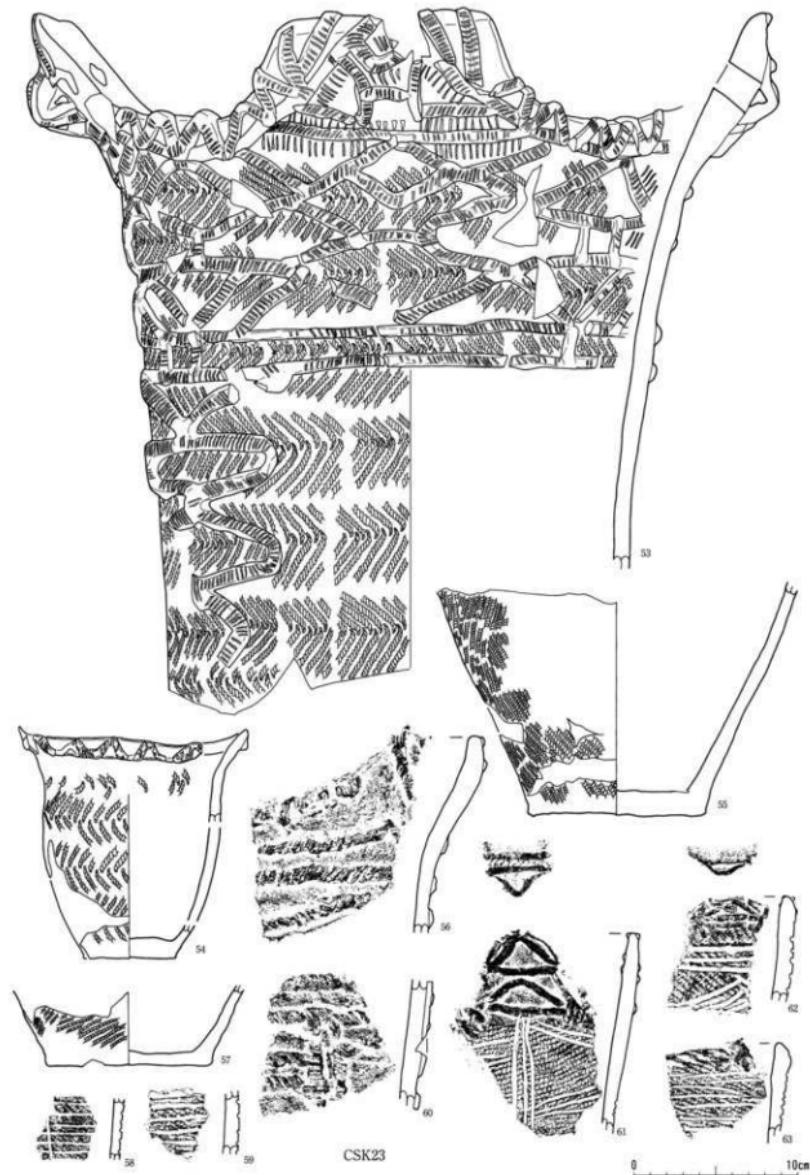


図67 C区土坑出土遺物(4)

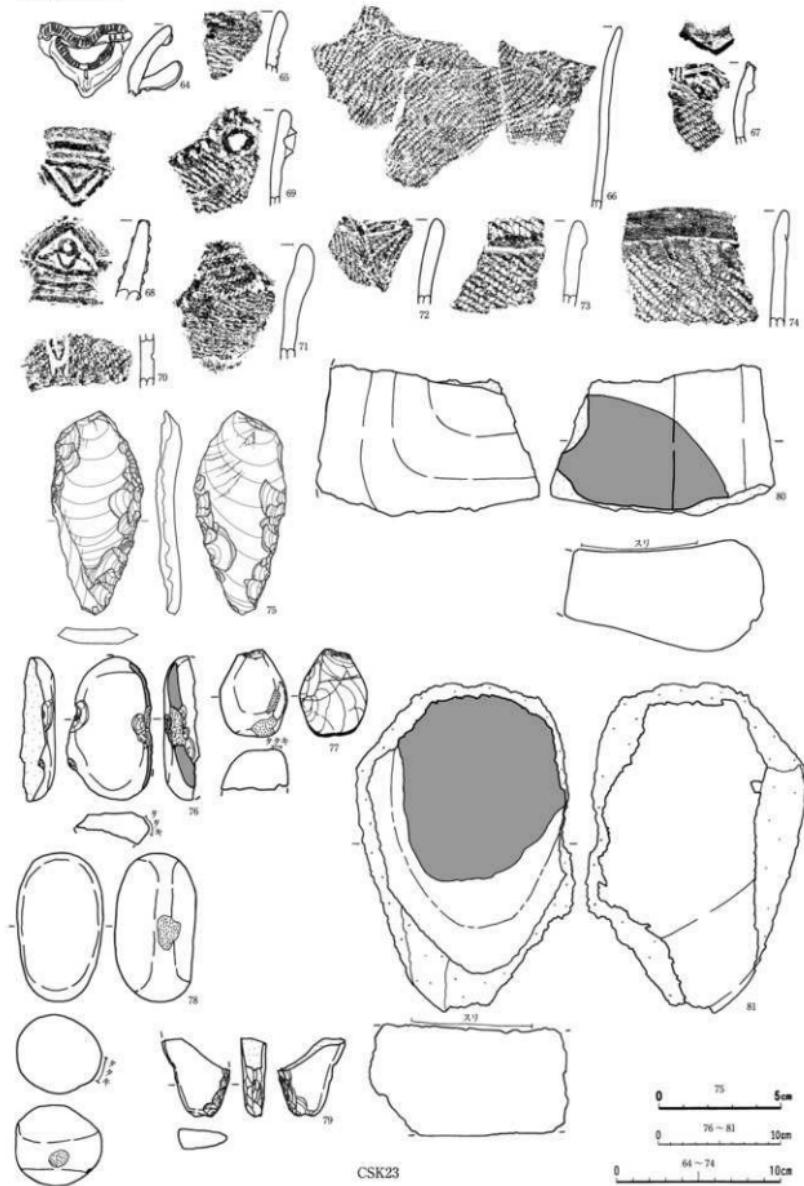


図68 C区土坑出土遺物(5)

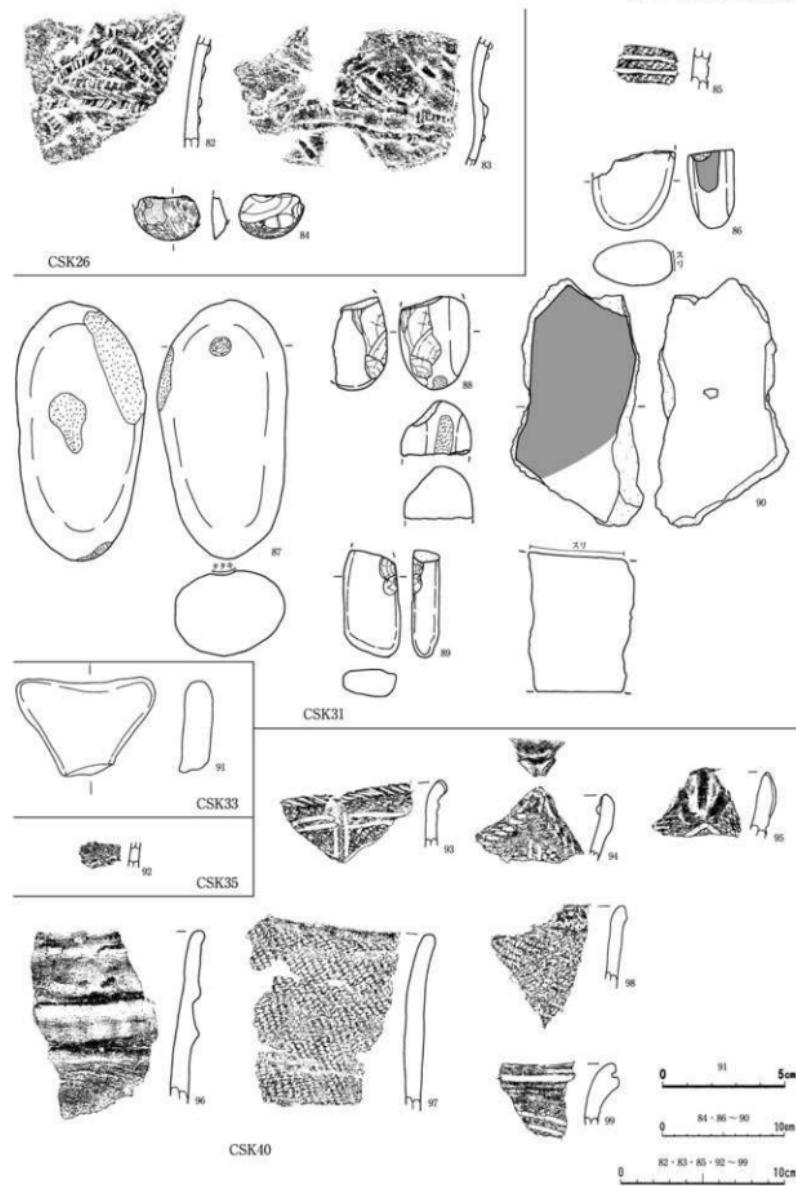


図69 C区土坑出土遺物(6)

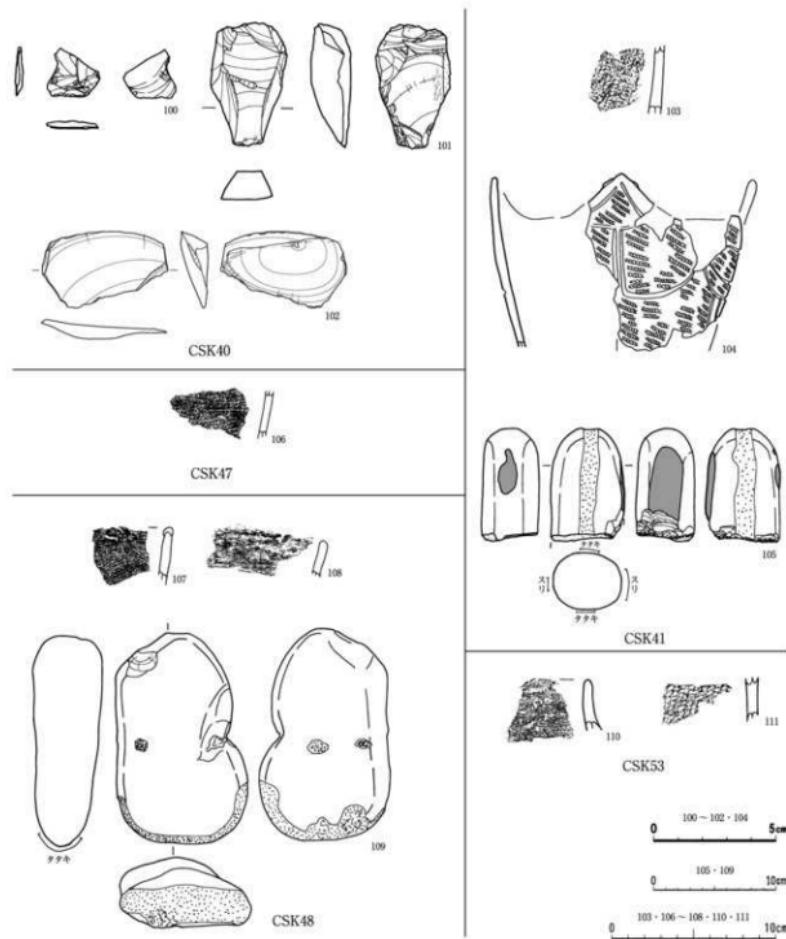


図70 C区土坑出土遺物(7)

4 土器埋設遺構

第C1号土器埋設遺構(図71)

[位置・確認] DC-25に位置する。第IV層上面で土器が円形に巡っているのを確認した。本遺構西側に第C1号堅穴住居跡がある。

[重複] なし。ただし、西側に搅乱が入る。

[埋設方法] 底部を欠失した土器が倒立状態で埋設されている。周辺が畑の耕作で全体に搅乱されており、本来的に底部を欠失していたかは判断できない。

[掘方形態・規模] 挖方は長軸34cm×短軸25cm、深さ17cmの不整椭円形で、土器よりも若干広く掘り込まれている。挖方底面は土器の径に合わせるような大きさである。

[堆積土] 第4層が挖方にあたり、黄褐色土主体で炭化物が微量混入。土器内の堆積土は、第1層が黄褐色土主体で炭化物が微量混入。第2層は褐色土主体。第3層は黄褐色ローム主体となり、下部中央には砂がブロック状に堆積する。

[出土遺物] 埋設された土器は円筒上層d式またはe式期のものである。

(小笠原)

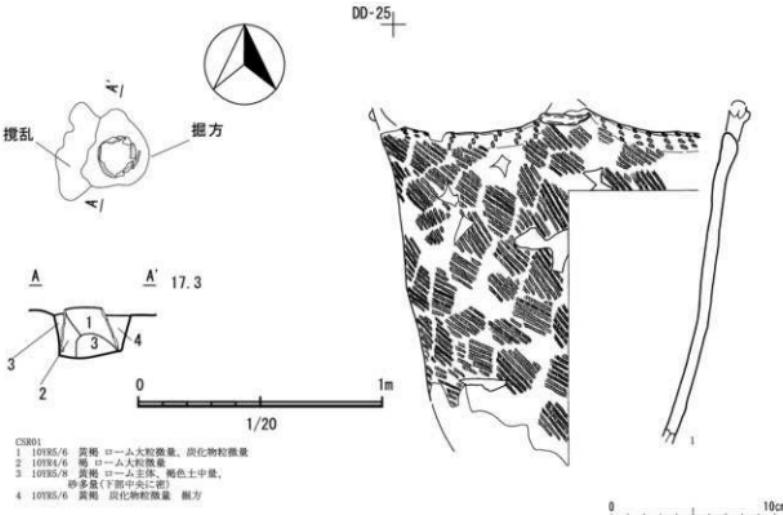


図71 第C1号土器埋設遺構・出土遺物

第2節 時期不明の検出遺構と出土遺物

1 性格不明遺構 (図72)

[位置と確認] DA-22に位置する。第IV層上面で確認した。

[重複] なし。ただし、北側が木の根により搅乱されている。

[形態・規模] 長軸250cm以上、短軸は凹凸があるが、90~105cmほどである。深さは約60cmである。

[壁・底面] 壁は直線的に立ち上がる部分が多いが、緩く外傾したり、垂直気味になるなど一定しない。底面はやや凹凸が見られる。

[堆積土] 2層に分層した。人為か自然か堆積状況は判断できない。

[出土遺物] 堆積土中から縄文時代中期の土器片、磨りの痕跡がある石皿片が1点出土した。しかし、本遺構が縄文時代のものとして考えられるか判断できなかったので、本節に含めた。 (小笠原)

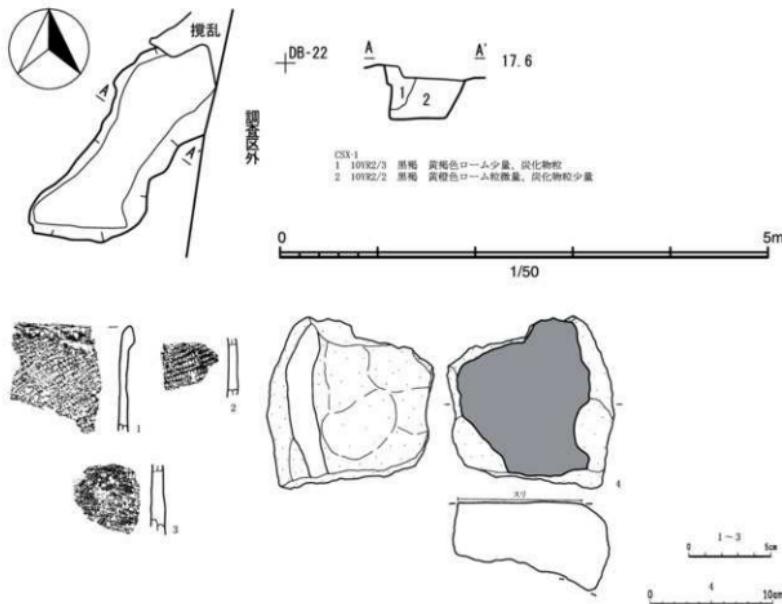


図72 C区性格不明遺構・出土遺物

2 溝 跡

第C 1号溝跡（図73）

[位置と確認] C L・M-22～30に位置する。第IV層上面で溝状の黒色土の落ち込みを確認した。

[重複] 第C 49号土坑と重複し、本遺構が新しい。

[形態・規模] 緩く屈曲しながら、東西に延びる。確認面上幅は68～111cmである。深さは20～42cmで、標高の低い西側ほど深い傾向にある。

[壁・底面] 壁は外傾しながら直線的に立ち上がる部分が大半である。底面は平坦で、壁にかけては逆台形状の形態である。また、底面から緩く立ち上がる部分も見られる。底面の高さは、西側ほど低くなっている。

[堆積土] 部分的に壁際で崩落によると見られるローム質土の堆積が確認された。堆積土で主体となるのは黒褐色土～暗褐色土で、粒状のロームがわずかに見られる。全体として、自然堆積の様相を示している。

[出土遺物] 堆積土から片面調整の削器1点が出土した。

第C 2号溝跡（図74）

[位置と確認] C G～I-21～32に位置する。第IV層上面で複数の溝状の落ち込みを確認した。

[重複] 確認した複数の溝それぞれの重複関係にあるものもあるが、新旧関係をとらえることはできなかった。

[形態・規模] N-70°-Eに軸方向をもつものと、N-50°-Eに軸方向をもつものがある。前者が圧倒的に多い。単独で延びるものもあるが、密集している部分もある。後者は1条のみの検出である。その他に概ね東西方向に屈曲しながら延びるものも1条ある。確認面上幅は15～30cmである。深さは25cmにもなる部分もあるが、大部分は10～15cm前後である。標高の低い西側ほど深い傾向にある。

[壁・底面] 壁は外傾しながら直線的に立ち上がる部分が大半である。底面は平坦で、壁にかけては逆台形状の形態である。また、底面から緩く立ち上がる部分も見られる。底面の高さは、西側ほど低くなっている。

[堆積土] 黒～暗褐色土主体である。堆積土は締まりが非常に強いことで共通する。

[出土遺物] 出土遺物とは言い難いが、最北の溝跡の底面から蝶が単独または連続して出土した。また、堆積土中から須恵器細片が1点出土した。

[小結] これらの溝跡は轍跡と考えられる。締まりの強い堆積土は、遺構の機能停止後に流入したものではなく、抉れた部分などへの修繕の土の可能性が高い。底面から出土する蝶も、道路の機能を維持するためのものと考えられる。ほぼ平行して重複関係が不明確な状態で確認されるのも、それを裏付けているものと思われる。

(小笠原)

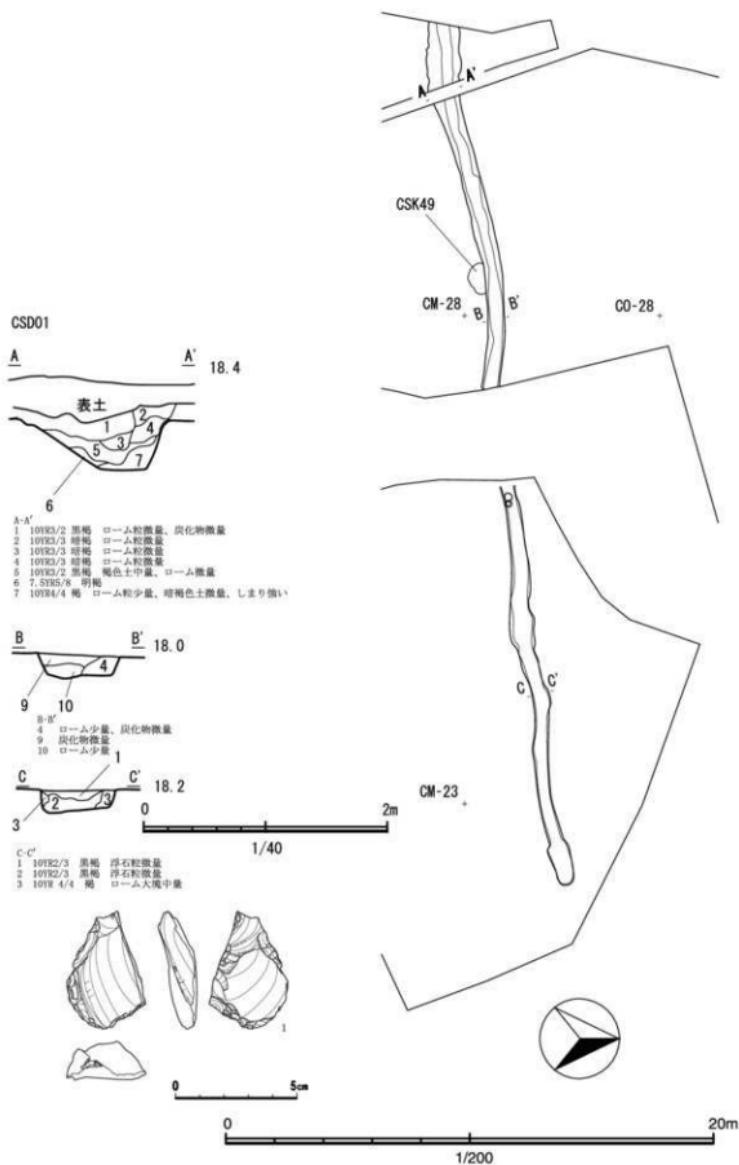


図73 第C1号溝跡・出土遺物

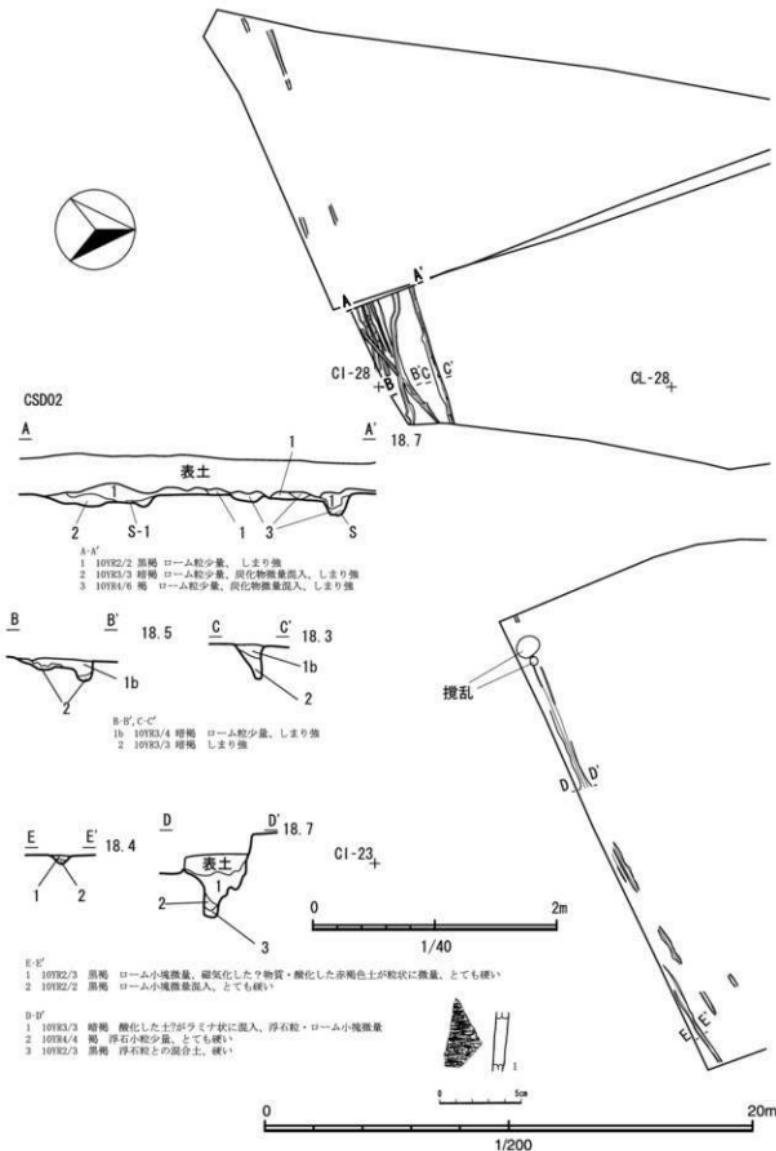


図74 第C2号溝跡・出土遺物

第3節 遺構外の出土遺物

1 土器

縄文時代

縄文時代前期に位置づけられるもの（図75-1）

1は絡条体回転が施文された円筒下層b式の口縁部片である。

縄文時代中期に位置づけられるもの（図75-2～図76-44）

2～18は中期前半代の円筒上層式土器、25～44は中期後半代の大木式系土器である。19～24はその間の過渡的・折衷的な土器である。8～13は円筒上層e式、25～29は榎林式、32～42は最花式に位置づけられるものと考えられる。31は大振りな弧状文と縦位の沈線による文様構成と思われ、榎林式の範疇のものであるが、より最花式に近いものと考えられる。

縄文時代後期に位置づけられるもの（図76-45・46）

量的には非常に少ない。45は沈線で平行に、46は櫛齒状の工具でカギ状に施文された十腰内I式である。

縄文時代晩期に位置づけられるもの（図76-49）

49は深鉢形で、胴部上半に平行沈線が施文された大洞A式である。

弥生時代（図76-50・51）

50・51は胴部片で、50は縦走、51は上部が横走、下部が縦走する帶縄文が観察される。

2 土製品（図76-52）

52は三角形土製品である。図の上辺は抉りがやや深く、それに対し下二辺は直線状に作出されている。二等辺三角形を意識したものと考えられる。断面は屈曲がほとんどなく、他の類例などと比較しても直線的な作りである。中央には径15mm、深さ3mmほどの円形の抉りがある。なお、図左上の楕円形状の抉りは、欠損した痕跡である。

（小笠原）

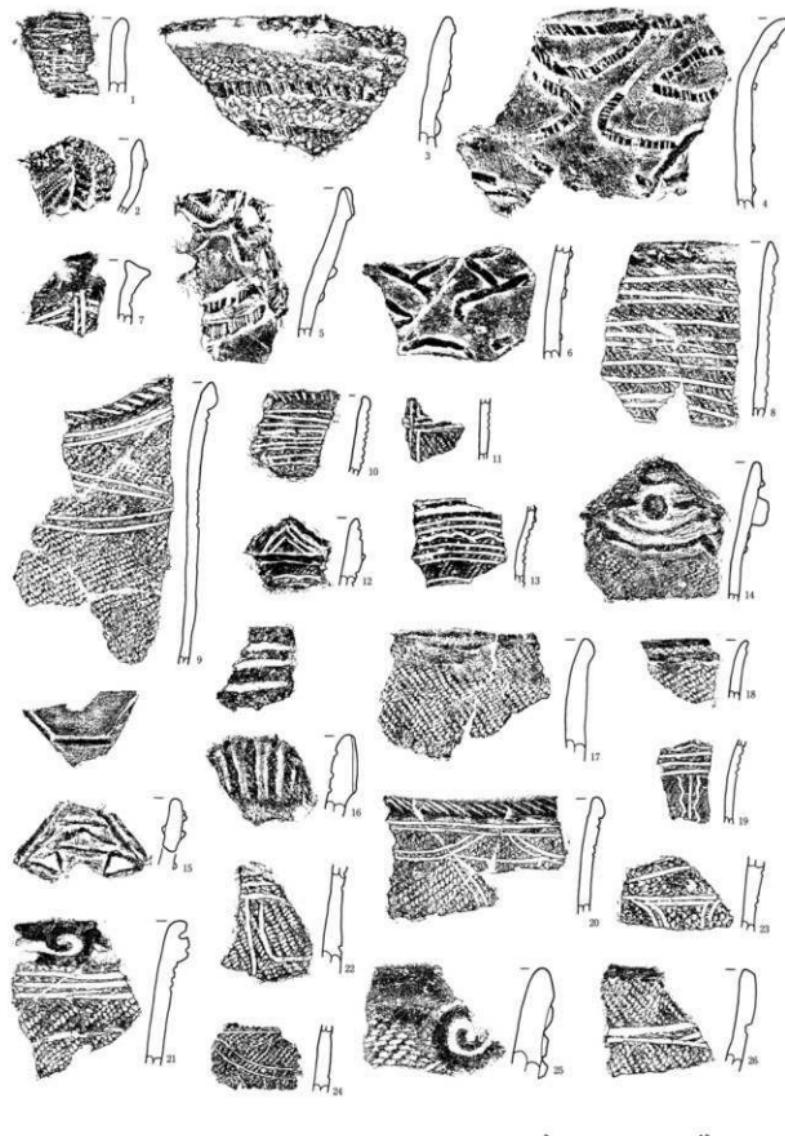


図75 C区遺構外出土土器(1)

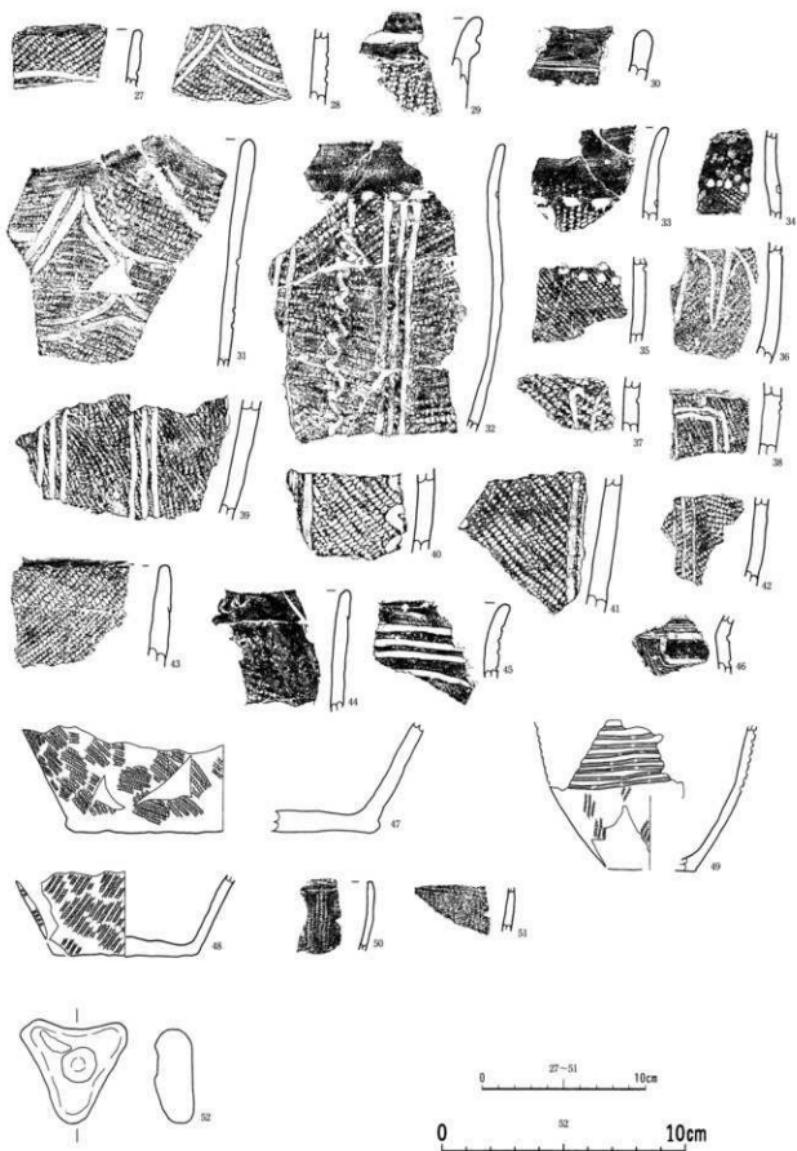


図76 C区遺構外出土土器(2)・土製品

3. 石器

C区造構外からは剥片石器類24点、礫石器類39点が出土し、そのうち剥片石器20点、礫石25点を掲載した。

剥片石器（図77・78）

剥片石器類は合計24点出土した。その内訳は、石鏃6点(25.00%)、石槍1点(4.17%)、石匙1点(4.17%)、石箋2点(8.33%)、搔器2点(8.33%)、削器9点(37.50%)、石核1点(4.17%)、剥片・チップ類2点(8.33%)である。これらのうち、図示した石鏃、石槍、石匙、石箋、搔器、削器、石核の20点について記載する。

石鏃は6点が出土し、尖基のもの(1)、茎部の明瞭でないもの(2)、有茎のもの(3~6)がある。6の茎部にはアスファルトが付着している。石槍の未製品(7)、石匙(8)、石箋は未製品(9)と刃部の断片と思われるもの(10)が出土した。

11は湾曲して急角度の刃部を有する搔器で、12~19は直線的な刃部を有する削器である。削器は、刃部調整の手法によって、I類：両面調整のもの(12・13)、II類：片面調整のもの(14~18)、III類：微細な使用痕剥離が認められたもの(19)の3類に細分した。18は刃部裏面に使用による光沢が認められ、上部は石錐としても使用された可能性がある。20は石核である。

礫石器（図78・79）

礫石器類は合計39点出土した。その内訳は、磨製石斧3点(7.69%)、北海道式石冠4点(10.26%)、磨石8点(20.51%)、敲石9点(23.08%)、凹石2点(5.13%)、石皿1点(2.56%)、擦痕のある礫1点(2.56%)、使用痕のない礫11点(28.21%)である。これらのうち、図示した磨製石斧、北海道式石冠、磨石、敲石、凹石、石皿、擦痕のある礫の25点について記載する。

21~23は磨製石斧であるが、いずれも破片資料である。

敲磨器の類は、主として24~27が北海道式石冠、28~35が磨石、35~41・44が敲石、37・42が凹石としたが、複数の機能を有する石器もある。

北海道式石冠は24~27で、25は平坦面の敲きが断続的で帯状に繋がっていない。26は断面形が平行四辺形の歪んだ形状をなしている。

磨石は、端部及び磨り面付近に加工が施されるもの(28)と、加工の施されないもの(29~35)がある。29~31は断面形状が扁平もしくは楕円形の川原石を用いてその側縁部を磨り面としているが、32~34は断面形状が三角形の川原石を用い、鋭角な側縁部を磨り面としている。35は側縁部で敲打されており、剥落したものと思われる。

敲石は35~41・42・44で、使用痕跡の部位によってI類：端部に敲打の痕跡があるもの(35~38)、II類：平坦面もしくは側面に敲打の痕跡があるもの(39~41・42・44)があり、III類：器全体に敲打の痕跡があるものは本区で出土しなかった。I類は棒状礫を用いるもの(35)と丸味のある礫を用いるもの(36・37)がある。37は折れ面での敲打に加え、側縁部の敲打と平坦面の凹みもある。II類には棒状礫を用いるもの(39)、塊状礫を用いるもの(40・41)、扁平礫を用いるもの(42・44)がある。

凹石は37・42で、42の平坦面には連続敲打で形成された凹みがあり、部分的に擦痕も認められる。

43は器面に磨り痕跡が認められる石皿で、45はわずかに擦痕があり、磨石の可能性がある。（神）



図77 C区遺構外出土石器(1)

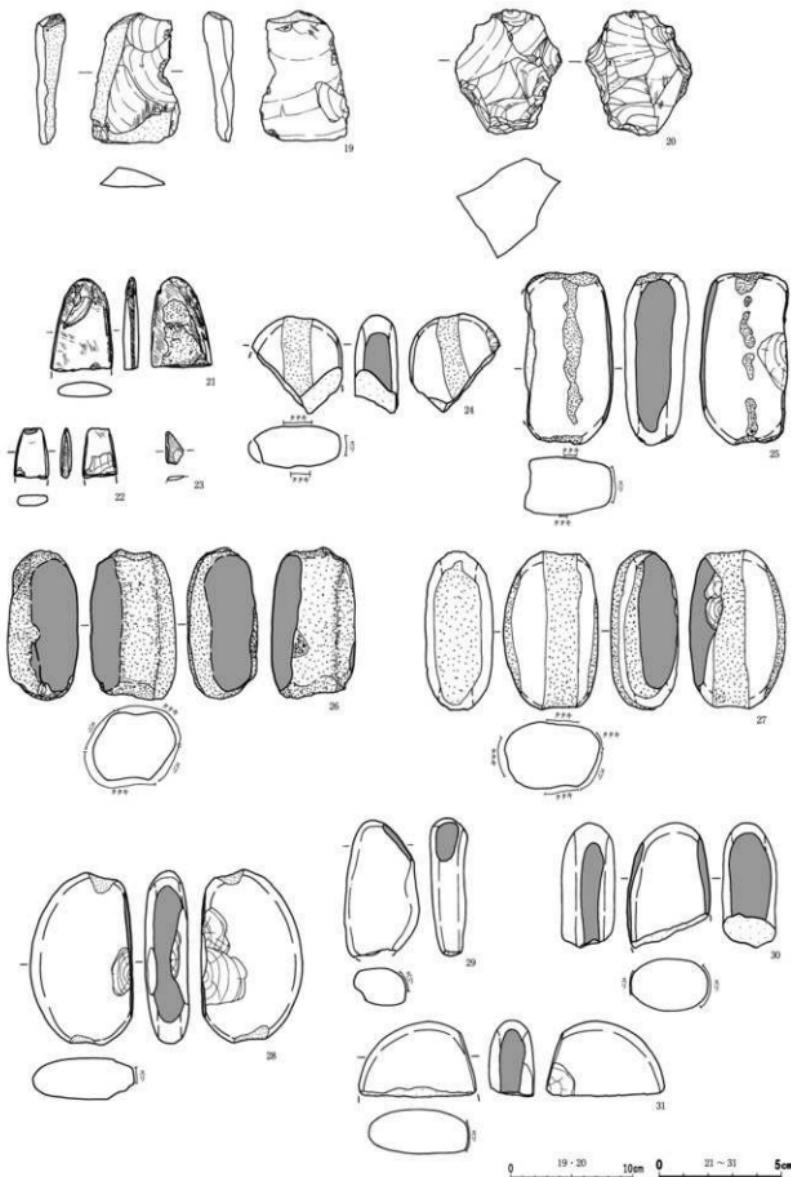


図78 C区遺構外出土石器 (2)

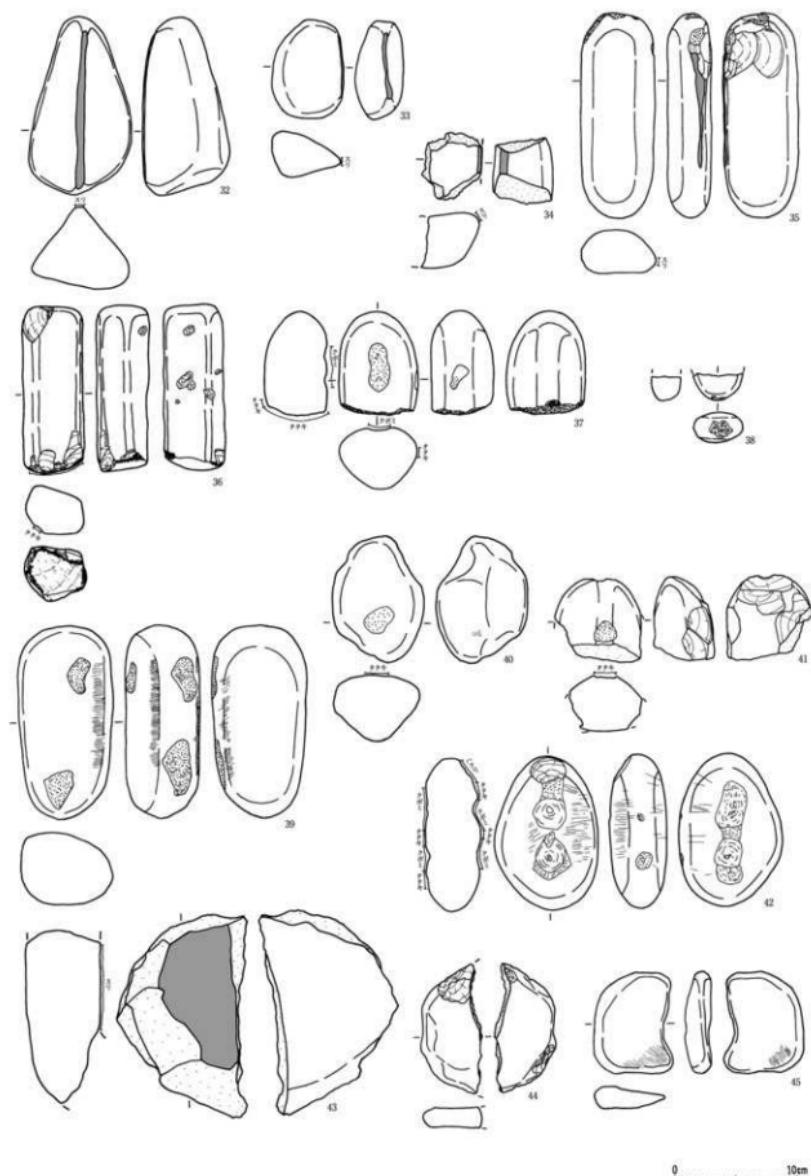


図79 C区遺構外出土石器(3)

第5章 自然科学分析

第1節－1 放射性炭素年代測定結果

青森県埋蔵文化財調査センター 標 様
No.1769
(株)地球科学研究所

件名: 放射性炭素年代測定

放射性炭素年代測定の依頼を受けました試料について、別表の結果を得ましたのでご報告申し上げます。

報告内容の説明

未補正14C年代 (y BP) : (同位体分別未補正) 14C年代 "measured radiocarbon age"
試料の $^{14}\text{C} / ^{12}\text{C}$ 比から、単純に現在(AD 1950年)から何年前(BP)かを計算した年代。

14C年代 (y BP) : (同位体分別補正) 14C年代 "conventional radiocarbon age"
試料の炭素安定同位体比($^{13}\text{C} / ^{12}\text{C}$)を測定して試料の炭素の同位体分別を知り
 $^{14}\text{C} / ^{12}\text{C}$ の測定値に補正値を加えた上で、算出した年代。
試料のδ13C値を-25(‰)に基準化することによって得られた年代値である。
(Stuiver M. and Polach H.A. (1977) Discussion: Reporting of 14C data. Radiocarbon, 19 を参照のこと)

曆年代を得る際にはこの年代値をもつらる。

δ 13C (permil) : 試料の測定 $^{14}\text{C} / ^{12}\text{C}$ 比を補正するための $^{13}\text{C} / ^{12}\text{C}$ 比。
この安定同位体比は、下式のように標準物質(PDB)の同位体比からの千分偏差(‰)で表現する。

$$\delta \text{ 13C (‰)} = \frac{(^{13}\text{C} / ^{12}\text{C})[\text{試料}] - (^{13}\text{C} / ^{12}\text{C})[\text{標準}]}{(^{13}\text{C} / ^{12}\text{C})[\text{標準}]} \times 1000$$

ここで、 $^{13}\text{C} / ^{12}\text{C}$ [標準] = 0.0112372である。

曆年代 : 過去の宇宙線強度の変動による大気中 ^{14}C 濃度の変動に対する補正により、曆年代を算出する。
具体的には年代既知の樹木年輪の ^{14}C の測定、サンゴのU-Th年代と
 ^{14}C 年代の比較により、補正曲線を作成し、曆年代を算出する。最新のデータベース(
"INTCAL98 Radiocarbon Age Calibration" Stuiver et al., 1998, Radiocarbon 40 (3))
により約19000yBPまでの換算が可能となった。†

*但し、10000yBP以前のデータはまだ不完全であり今後も改善される可能性が高いので、補正前のデータの採用を推奨します。

"The calendar calibrations were calculated using the newest calibration data as published in Radiocarbon, Vol. 40, No. 3, 1998 using the cubic spline fit mathematics as published by Talma and Vogel, Radiocarbon, Vol. 35, No. 2, pg 317-322, 1993: A Simplified Approach to Calibrating C14 Dates. Results are reported both as cal BC and cal BP. Note that calibration for samples beyond about 10,000 years is still very subjective. The calibration data beyond about 13,000 years is a 'best fit' compilation of modeled data and, although an improvement on the accuracy of the radiocarbon date, should be considered illustrative. It is very likely that calibration data beyond 10,000 years will change in the future. Because of this, it is very important to quote the original BP dates and these references in your publications so that future refinements can be applied to your results."

測定方法などに関するデータ

測定方法 AMS : 加速器質量分析

Radiometric : 液体シンチレーションカウンタによるβ-線計数法

処理・調製・その他 : 試料の前処理、調製などの情報

前処理 acid-alkali-acid : 酸-アルカリ-酸洗浄

acid washes : 酸洗浄

acid etch : 酸によるエッティング

none : 未処理

調製、その他

Bulk-Low Carbon Material : 低濃度有機物質

Bone Collagen Extraction : 骨、歯などのコラーゲン抽出

Cellulose Extraction : 木材のセルローズ抽出

Extended Counting : Radiometric による測定の際、測定時間を延長する

分析機関 BETA ANALYTIC INC.

4985 SW 74 Court, Miami, FL U.S.A. 33155

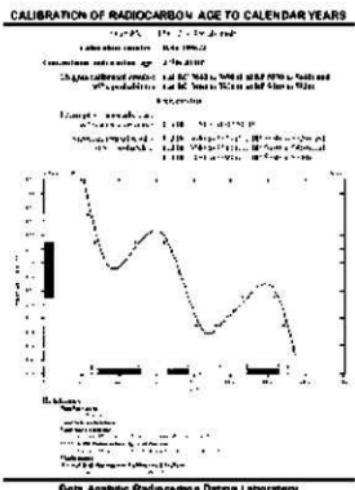
C14年代測定結果

青森県埋蔵文化財調査センター 標

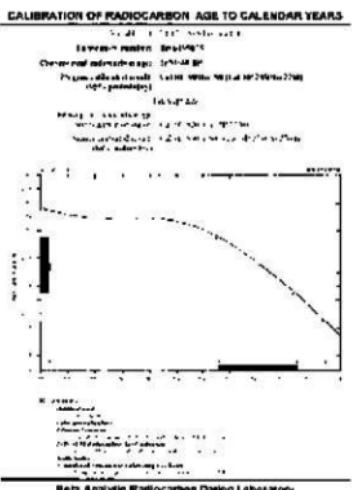
No.1769

試料データ	未補正14C年代(y BP) (measured radiocarbon age)	$\delta^{13}\text{C}(\text{permil})$	14C年代(y BP) (Conventional radiocarbon age)
Beta- 199674	4730 ± 40	-24.9	4730 ± 40
試料名 (26541) NO1-SA-W1			
測定方法、期間 AMS-Standard			
試料種、前処理など wood acid/alkali/acid			
Beta- 199675	2690 ± 40	-26.5	2670 ± 40
試料名 (26542) NO2-SB-CW2			
測定方法、期間 AMS-Standard			
試料種、前処理など charred material acid/alkali/acid			
Beta- 199676	3100 ± 40	-28.2	3050 ± 40
試料名 (26543) NO3-SB-W9			
測定方法、期間 AMS-Standard			
試料種、前処理など wood acid/alkali/acid			
Beta- 199677	2780 ± 40	-26.7	2750 ± 40
試料名 (26544) NO4-SB-W17			
測定方法、期間 AMS-Standard			
試料種、前処理など wood acid/alkali/acid			

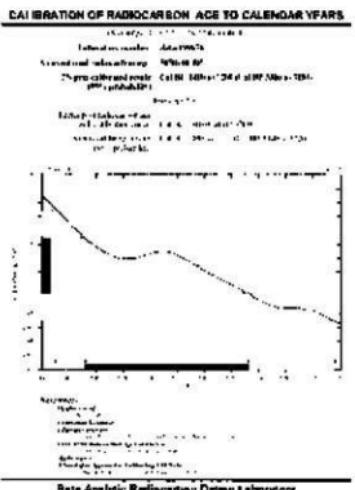
年代値はRCYBP(1950 A.D.を0年とする)で表記。モダン リファレンス スタンダードは国際的な慣例としてNBS Oxalic AcidのC14濃度の95%を使用し、半減期はリビーの5568年を使用した。エラーは1シグマ(88%確率)である。



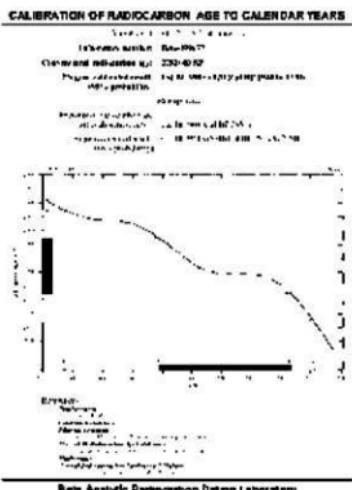
Beta Analytic Radiocarbon Dating Laboratory



Beta Analytic Radiocarbon Dating Laboratory



R&M Analytics Radioactive Decay Laboratory



Beta Analytic Radiocarbon Dating Laboratory

第1節 - 2 放射性炭素年代測定結果

IAA：加速器分析研究所

年代測定結果報告書

- 1) 年代値の算出には、Libbyの半減期 5568 年を使用しています。
- 2) BP 年代値は、1950 年からさかのばること何年前かを表しています。
- 3) 付記した誤差は、次のように算出しています。
複数回（通常は 4 回）の測定値について χ^2 検定を行い、通常報告する誤差は測定値の統計誤差から求めた値を用い、測定値が 1 つの母集団とみなせない場合には標準誤差を用いています。
- 4) $\delta^{13}\text{C}$ の値は、通常は質量分析計を用いて測定しますが、AMS 測定の場合に同時に測定される $\delta^{13}\text{C}$ の値を用いることもあります。
 $\delta^{13}\text{C}$ 補正をしない場合の同位体比および年代値も参考に掲載しておきます。

同位体比は、いずれも基準値からのずれを千分偏差 (‰ ; パーミル) で表したものです。

$$\delta^{14}\text{C} = [(^{14}\text{As} - ^{14}\text{Ar}) / ^{14}\text{Ar}] \times 1000 \quad (1)$$

$$\delta^{13}\text{C} = [(^{13}\text{As} - ^{13}\text{APDB}) / ^{13}\text{APDB}] \times 1000 \quad (2)$$

ここで、
 ^{14}As : 試料炭素の ^{14}C 濃度 : $(^{14}\text{C}/^{12}\text{C})_{\text{S}}$ または $(^{14}\text{C}/^{12}\text{C})_{\text{R}}$
 ^{14}Ar : 標準現代炭素の ^{14}C 濃度 : $(^{14}\text{C}/^{12}\text{C})_{\text{R}}$ または $(^{14}\text{C}/^{12}\text{C})_{\text{S}}$

$\delta^{13}\text{C}$ は、質量分析計を用いて試料炭素の ^{13}C 濃度 ($^{13}\text{As} = ^{13}\text{C}/^{12}\text{C}$) を測定し、PDB (白亜紀のペレムナイト (矢石) 類の化石) の値を基準値として、それからのずれを計算します。
但し、IAA では加速器により測定中に同時に $^{14}\text{C}/^{13}\text{C}$ も測定していますので、標準試料の測定値との比較から算出した $\delta^{13}\text{C}$ を用いることもあります。この場合には表中に [加速器] と注記します。

また、 $\Delta^{14}\text{C}$ は、試料炭素が $\delta^{13}\text{C} = -25.0$ (‰) であるとしたときの ^{14}C 濃度 (^{14}An) に換算した上で計算した値です。(1) 式の ^{14}C 濃度を、 $\delta^{13}\text{C}$ の測定値をもとに次式のよう換算します。

$$^{14}\text{An} = ^{14}\text{As} \times (0.975 / (1 + \delta^{13}\text{C} / 1000))^2 \quad (^{14}\text{As} \text{ として } ^{14}\text{C}/^{12}\text{C} \text{ を使用するとき})$$

または

$$= ^{14}\text{As} \times (0.975 / (1 + \delta^{13}\text{C} / 1000)) \quad (^{14}\text{As} \text{ として } ^{14}\text{C}/^{13}\text{C} \text{ を使用するとき})$$

$$\Delta^{14}\text{C} = [(^{14}\text{An} - ^{14}\text{Ar}) / ^{14}\text{Ar}] \times 1000 \quad (\text{‰})$$

貝殻などの海洋が炭素起源となっている試料については、海洋中の放射性炭素濃度が大気の炭酸ガス中の濃度と異なるため、同位体補正のみを行なった年代値は実際の年代との差が大きくなります。多くの場合、同位体補正をしない $\delta^{14}\text{C}$ に相当する BP 年代値が比較的よくその貝と同一時代のものと考えられる木片や木炭などの年代値と一致します。

^{14}C 濃度の現代炭素に対する割合のもう一つの表記として、pMC (percent Modern Carbon) がよく使われており、 $\Delta^{14}\text{C}$ との関係は次のようになります。

$$\Delta^{14}\text{C} = (\text{pMC} / 100 - 1) \times 1000 \quad (\text{‰})$$

$$\text{pMC} = \Delta^{14}\text{C} / 10 + 100 \quad (\%)$$

国際的な取り決めにより、この $\Delta^{14}\text{C}$ あるいは pMC により、放射性炭素年代 (Conventional Radiocarbon Age; yrBP) が次のように計算されます。

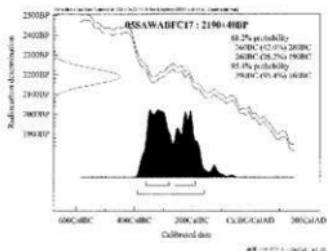
$$T = -8033 \times \ln [(\Delta^{14}\text{C} / 1000) + 1]$$

$$= -8033 \times \ln (\text{pMC} / 100)$$

IAA

IAA Code No.	試 料	BP 年代および炭素の同位体比
IAAA-51674	試料採取場所：青森市三内字沢部 試料形態：種子 試料名(番号)：05SAWABIC17	Libby Age (yrBP) : 2,190 ± 40 $\delta^{13}\text{C}$ (‰)、(加速器) = -34.07 ± 0.80 $\Delta^{14}\text{C}$ (‰) = -238.3 ± 4.0 pMC (%) = 76.17 ± 0.40
#1097-1	(参考) $\delta^{13}\text{C}$ の補正無し	$\delta^{13}\text{C}$ (‰) = -252.4 ± 3.8 pMC (%) = 74.76 ± 0.38 Age (yrBP) : 2,340 ± 40
IAAA-51675	試料採取場所：青森市大字三内字沢部 試料形態：炭化物 試料名(番号)：05SAWABSI102	Libby Age (yrBP) : 4,500 ± 40 $\delta^{13}\text{C}$ (‰)、(加速器) = -29.06 ± 0.96 $\Delta^{14}\text{C}$ (‰) = -428.8 ± 2.7 pMC (%) = 57.12 ± 0.27
#1097-2	(参考) $\delta^{13}\text{C}$ の補正無し	$\delta^{13}\text{C}$ (‰) = -433.6 ± 2.4 pMC (%) = 56.64 ± 0.24 Age (yrBP) : 4,570 ± 40

【参考値：西洋式】 Radiocarbon determination】



【参考値：西洋式】 Radiocarbon determination】

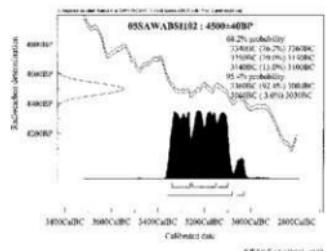


図 81

第2節 三内沢部(3)遺跡出土土器の胎土分析

松本建連（東海大学文学部）

市川慎太郎・中山健一（明治大学理工学部）

1.はじめに

青森県青森市三内沢部(3)遺跡出土の縄文時代中期の土器の化学成分の測定をおこなったので、以下にその結果を報告し、若干の考察をおこなう。三内沢部(3)遺跡は、縄文時代前期～中期の大集落である三内丸山遺跡に隣接して営まれたほぼ同時代の遺跡である。また、周辺には、他にも、近野遺跡、岩渡小谷遺跡といった縄文時代の遺跡が数多くある。したがって、本遺跡から出土する土器の比較検討をおこなうことは、同時代のこの地域の土器生産に関して多くの情報を与えることになるであろう。

本分析では、三内沢部(3)遺跡出土土器の化学成分についてのデータを蓄積することを第一の目的とし、利用された原料の産地を推定することを第二の目的とした。

なお、本分析では、試料作成準備を松本および東海大学学生前田浩孝が、試料作成・分析を市川、中山がおこなった。報告は、分析・結果を市川、中山が、他の項目と結果の一部を松本が作成した。

2. 試 料

本遺跡出土の15点を試料とした。その内訳は、縄文時代中期の円筒上層d式5点、円筒上層e式5点、最花式5点である。出土試料の器種および出土地点については、分析値一覧表に掲載した。

3. 方 法

分析には、波長分散型蛍光X線分析装置（以下ではWDXRと略す）を用い、定量した。

4. 分 析

(1) 試料作成

土器の一部を折り取り、器表面の風化した部分を電動やすりで削り、メノウ乳鉢を用いて、指先に粒子感が感じられなくなるまで粉碎した。その後、電気炉で500°Cで2時間加熱し、炭素を除去したものを試料に供した。

試料は、試料と融剤の比率を1:10とするガラスピードとし、定量に用いた。ガラスピード作製の手順は以下の通りである。試料約0.4gと融剤約4.0gを秤量、十分に混合した。融剤は、電気炉で700°C、8時間加熱した無水四ホウ酸リチウムを用いた。試料と融剤の混合物を白金るつぼに入れ、BEAD SAMPLER NT-1200を用いて熔融・成型した。800°C、120秒の予備加熱、1200°C、120秒の本加熱、1200°C、120秒の振動加熱をおこない、その後、急冷してガラス化した。測定はガラスピードの下にアクリル板を敷き、30mmφのホルダーマスクに入れて実施した。

(2) 実 験

明治大学理工学部設置の波長分散型蛍光X線分析装置（以下ではWDXRと略す）、Rigaku RX3100を用いた。X線管球にはRhを、分光結晶はLiF(200), PET(002), Ge(111), TAP(001)

を用い、管電圧50 kV、管電流80 mAで動作させた。検出器は、ガスフロー型プロポーションナル・カウンターとシンチレーション・カウンターを用い、プロポーションナル・カウンターにはPRガスを50 cm³ min⁻¹で流した。測定は真空閉気下で、試料を30 rpmで回転させながらおこなった。

定量には、産業技術総合研究所発行の標準試料JG1(花崗岩)で作成したペレット状試料を同様の条件で測定し、その値を、各元素の分析値を標準化する際に用いた。

測定した元素は、Si、Al、Fe、Ti、Mn、Mg、Ca、Na、K、P、Zr、Sr、Rb、Yの14元素である。SiからPまでの10元素は、地殻を構成する主要元素であり、他地域の岩石および土壤、土器試料等との比較をおこなうさいの基礎となる。またZrからYまでの4元素は、地殻平均として20 ppm以上含まれ（メイスン,B. 1970）、今回の分析法でも、精度の高い測定ができる元素だからである。

5. 結果

測定した14元素のうち、主要10元素は、酸化物として計算し、分析結果を表1に掲載した。FeはFe₂O₃として算出した。また、分析方法の正確さを検証するために旧地質調査所発行の岩石標準試料（JA-1）を測定したところ、その推奨値とよく一致した値が得られた（表2）。

なお、10元素の酸化物のトータル値が100%にならないが、その大部分は、土器中に含まれる水の値である。炭素が除去しきれていない場合もあるかもしれないが、その値はごく微量と考えられる。

6. 考察

(1) 各元素のみの値の算出

表3として、主要10元素について、各々の元素単体として換算した値を掲載した。これまでに報告されている、ICP-AESを用いた分析値との比較をおこなうさいに便利だからである。

(2) Mn濃度から推測する利用された粘土層

Mn濃度は、土器製作に利用された粘土層を推定するに重要である。一般的には、白色系の粘土の場合、それは0.05%以下である（松本2003）。本試料の場合、試料9および14は0.07%であるが、他の13点は、0.02～0.03%であり、白色系の粘土層が利用されたと考えることができる。

(3) Ca・Na・K濃度から見た胎土の比較

地殻を構成する鉱物は、石英や長石類のフェルシック鉱物と輝石、角閃石、黒雲母などのマフィック鉱物とに分けられる。そして、地殻の大半は前者が占めるのだが、長石類が約60%であると言われる（地学団体研究会編1995）。地質に差異がある場合、その基本的な特徴は、長石類の化学成分に反映される場合が多い。また、土器の胎土とされるシリカや粘土鉱物の多くは、長石類が基本となっている。したがって、長石類を構成する化学成分に差異が見られるならば、それは、地域差を反映している可能性が高い。

石英はSi、O、長石類はSi、Al、Ca、Na、K、Oで構成される。そして一般には、Ca・Na・Kの3元素を用いれば、産地ごとの粘土の差を見ることができ、東北北部地域の第四紀層の粘土を用いた場合には、長石の主要元素であるK、Na、Caを用いた、K/Na+CaとCa/Na+Kの2つの指標（以下では長石の指標と呼ぶ）が、産地ごとの成分の違いを良く反映することが知られている（松本2003）。その2指標のグラフを作成した（図1-1）。本試料の場合、3型式とも、多くは同じようなばらつきであるが、試料12と14は、多少、離れた値である。

図1-3として、本遺跡近隣に所在するの、三内丸山遺跡出土最花式試料(松本2004a)および岩渡小谷(4)遺跡出土円筒下層～上層土器試料(松本2004b)の分析結果との比較をおこなった。これらの2遺跡出土試料は、三内丸山遺跡や近野遺跡内にある白色系粘土等との比較から、ほぼ遺跡周辺の土を原料としていると推測されているものである。この結果から、本試料の大部分は、遺跡周辺の白色系粘土層が利用された可能性が高い。

一方、上記の2試料だけが離れている。したがって、これらの原料採集地は、他試料と異なると考えられるが、それが異なる地域から得られたものなのか否かは不明である。

(4) SrとRb濃度から見た胎土の比較

一般に、SrはCaと、RbはKと同じ挙動を示すので、SrとRbとの相関は、先に(3)で見た結果と類似することになる。しかも、三辻の研究によれば、土器胎土の場合、地域差を見るには、SrとRbの相関図が、より適しているという(三辻1983)。そこで、Rb/SrとK/Na+Caとの相関を見たのが図1-2である。それによっても、試料12・14だけが異なる値となる。ただし、その位置が、地域差を反映しているのか否かについては、まだデータが少なすぎて、明らかにはできない。

(5) Fe・Mg濃度から見た胎土の比較

マフィック鉱物中にはFeとMgが共存し、それらの比率あるいは相関図は、胎土成分の何らかの差を示す。そこで、地域差を示すことが多いK/Na+CaをX軸にとり、Mg/FeをY軸とした相関図を作った(図1-4)。しかしながら、Mg/Feでは、試料12・14と他の試料とを分けることはできなかった。

7.まとめ

(1) WDXRFを用いて、青森県青森市三内沢部(3)遺跡出土の円筒上層d式、円筒上層e式、最花式土器15点の化学成分を測定した。主要10元素については、酸化物として、微量元素については、元素単体として算出した。考察の過程では、過去の文献値との比較の利便性を考え、主要元素も、元素のみの値に換算した。

(2) Mn濃度は、13点の試料で0.02～0.03%，2点の試料で0.07%であった。どの型式の土器の作成においても、白色系の粘土層が利用されたと推測できた。

(3) 試料15点のうち、13点については、胎土の化学成分による差異を認められなかった。どの時期にも、同じ地域の土が利用されたと推測できる。ただし、最花式土器のうち、試料12および14の長石の指標およびRb/Srが、他の試料と若干異なっていた。しかしながら、この差異が原料の採取地地域の違いを反映しているのか否かは不明である。

(4) 周辺遺跡出土の同時代試料の文献値との比較の結果、本試料の大部分も、遺跡周辺の白色系粘土を利用していると推定できた。

8.おわりに

青森市三内沢部(3)遺跡から出土した縄文時代中期の土器の胎土分析をおこなった結果、それらの産地は、時代を越えて、ほぼ同じであろうと考えられた。ただし、最花式土器のなかに、長石の指標、Rb、Sr濃度に若干違いのある土器もあったが、それが何に由来するのかについては、データが足りず、明確な判断ができなかった。今後も、さらに多くの土器や粘土試料の分析につとめ、基礎資料の蓄積をおこなう必要がある。

謝辞 本分析において、明治大学理工学部工業化学科教授、中村利廣先生には、たいへん多くの便宜をはかっていただきました。感謝申し上げます。

引用・参考文献

- 地学団体研究会編 1995『鉱物の科学 新版地学教育講座』3巻 東海大学出版会
 松本建連 2003『誘導結合プラズマ発光分光分析(ICP-AES)による東北北部古代土器の胎土分析』
 『第四紀研究』42巻1号 1-12頁 日本国第四紀学会
 2004a 「円筒土器文化圏における土器・土偶の移動に関する研究」『特別史跡三内丸山遺跡年報』7号 54-58頁 青森県教育委員会
 2004b 「第9節 岩渡小谷(4) 遺跡出土土器の成分分析』『岩渡小谷(4) 遺跡II』278-285頁
 青森県教育委員会
 三辻利一 1983『古代土器の产地推定法』ニュー・サイエンス社
 メイスン,B.(松井義人・一国雅巳訳) 1970『一般地球化学』岩波書店 [Mason,B.1966 *Principles of Geochemistry*.]

表1 分析値一覧

単位: 主要元素(重量%)、微量元素(ppm)

試料No.	SiO ₂	Al ₂ O ₃	Fe ₂ O ₃	CaO	Na ₂ O	K ₂ O	MgO	TiO ₂	P2O ₅	MnO	Total	Zr	Sr	Rb	Y	土器型式
No. 1	57.3	24.7	5.50	1.39	1.54	1.39	0.606	0.998	0.111	0.031	93.6	205	125	91.4	24.4	円筒上層d
No. 2	59.8	22.3	5.50	1.50	1.71	1.44	0.691	0.983	0.074	0.033	94.1	195	134	94.2	18.7	円筒上層d
No. 3	57.1	24.6	5.61	1.52	1.53	1.41	0.693	1.01	0.116	0.030	93.7	202	129	92.2	24.9	円筒上層d
No. 4	58.8	23.3	5.54	1.80	1.93	1.23	0.615	1.09	0.077	0.032	94.4	193	151	71.4	19.3	円筒上層d
No. 5	57.4	24.1	5.49	1.45	1.56	1.40	0.757	0.992	0.125	0.034	93.4	197	128	99.1	21.6	円筒上層d
No. 6	56.6	25.2	4.52	1.26	1.51	1.38	0.658	0.914	0.079	0.028	92.1	192	122	92.6	21.8	円筒上層e
No. 7	54.7	28.1	4.96	1.41	1.55	1.30	0.551	1.04	0.097	0.031	93.7	217	131	73.6	28.9	円筒上層e
No. 8	59.1	23.3	4.89	1.68	1.73	1.19	0.726	1.24	0.082	0.037	93.9	191	134	74.6	22.0	円筒上層e
No. 9	55.8	22.4	8.95	2.05	1.66	1.13	1.22	1.29	0.077	0.086	94.6	182	133	64.6	25.5	円筒上層e
No. 10	62.3	22.1	3.10	1.86	1.25	1.33	0.997	0.883	0.083	0.036	94.0	207	150	80.4	45.8	円筒上層e
No. 11	57.7	24.3	5.38	1.86	1.70	1.17	0.665	1.10	0.106	0.052	94.0	194	140	69.8	13.9	最花
No. 12	58.0	23.9	4.09	2.28	1.98	0.869	0.714	1.08	0.077	0.036	93.0	196	156	59.4	23.5	最花
No. 13	62.1	21.4	4.24	1.42	1.57	1.15	0.902	1.26	0.064	0.038	94.1	216	123	87.7	17.4	最花
No. 14	55.4	25.6	6.08	2.18	1.88	0.758	0.546	0.945	0.182	0.090	93.7	194	141	43.5	15.3	最花
No. 15	56.7	24.2	6.47	1.25	1.30	1.28	0.687	1.13	0.112	0.038	93.2	219	99.3	88.0	15.8	最花

表2 Table 7 Analytical results of major elements in the GSJ rock reference sample.

	JA-1 (andesite)	
	Present method	Recommended value ^a
Na ₂ O	3.77 (0.4)	3.84
MgO	1.56 (0.4)	1.57
Al ₂ O ₃	15.6 (0.5)	15.2
SiO ₂	63.8 (0.1)	64.0
P ₂ O ₅	0.161 (0.7)	0.165
K ₂ O	0.788 (0.4)	0.77
CaO	5.63 (0.1)	5.70
TiO ₂	0.877 (0.3)	0.85
MnO	0.147 (0.4)	0.157
Fe ₂ O ₃ ^b	7.31 (0.2)	7.07
Total	99.6 (0.2)	99.3

^a Ref. 1.

^b Total Fe as Fe₂O₃.

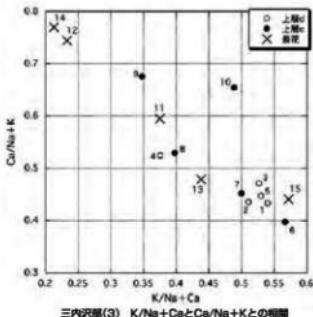
(*o*, Relative standard deviation % (*n* = 5). Major elements, in mass%, with 1:10 glass beads.

1) N. Imai, S. Terashima, S. Itoh, A. Ando, *Geostandards Newslett.*, 19, 135 (1995).

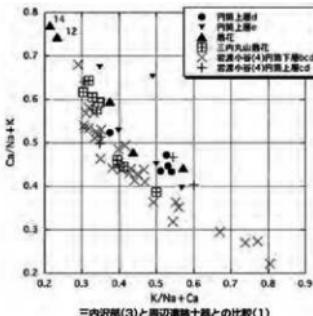
表3 換算値

単位: 主要元素(重量%)

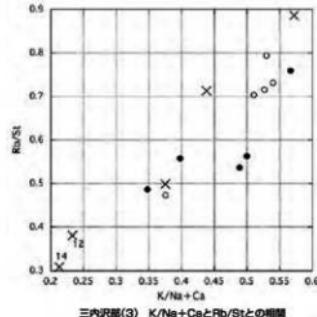
試料No.	Si	Ti	Al	Fe	Mn	Mg	Ca	Na	K	P	K/Ca+Na	Ca/K+Na	Rb/St	Mg/Fe	Ti/Fe	土器型式
No. 01	26.79	0.60	13.07	3.85	0.02	0.37	0.99	1.14	1.15	0.05	0.540	0.433	0.731	0.095	0.156	円筒上層d
No. 02	27.95	0.59	11.80	3.85	0.03	0.42	1.07	1.27	1.20	0.03	0.511	0.435	0.703	0.108	0.153	円筒上層d
No. 03	26.69	0.61	13.02	3.92	0.02	0.42	1.09	1.14	1.17	0.05	0.527	0.471	0.715	0.107	0.154	円筒上層d
No. 04	27.49	0.65	12.33	3.87	0.02	0.37	1.29	1.43	1.02	0.03	0.376	0.524	0.473	0.096	0.169	円筒上層d
No. 05	26.83	0.59	12.75	3.84	0.03	0.46	1.04	1.16	1.16	0.05	0.530	0.447	0.793	0.119	0.155	円筒上層d
No. 06	26.46	0.55	13.34	3.16	0.02	0.49	0.90	1.12	1.15	0.03	0.567	0.397	0.759	0.126	0.173	円筒上層e
No. 07	25.57	0.62	14.78	3.47	0.02	0.33	1.01	1.15	1.08	0.04	0.500	0.452	0.562	0.096	0.180	円筒上層e
No. 08	27.63	0.74	12.33	3.42	0.03	0.44	1.20	1.28	0.99	0.04	0.398	0.529	0.557	0.128	0.217	円筒上層e
No. 09	26.08	0.77	11.85	6.26	0.07	0.74	1.47	1.23	0.94	0.03	0.348	0.675	0.486	0.118	0.124	円筒上層e
No. 10	29.12	0.53	11.70	2.17	0.03	0.60	1.33	0.93	1.10	0.04	0.489	0.654	0.503	0.277	0.244	円筒上層e
No. 11	26.97	0.66	12.86	3.76	0.04	0.40	1.33	1.26	0.97	0.05	0.375	0.594	0.499	0.107	0.175	最花
No. 12	27.11	0.64	12.65	2.86	0.03	0.45	1.63	1.47	0.72	0.03	0.233	0.744	0.381	0.151	0.222	最花
No. 13	29.03	0.76	11.33	2.97	0.03	0.54	1.01	1.16	0.95	0.03	0.438	0.479	0.713	0.183	0.258	最花
No. 14	25.90	0.57	13.55	4.25	0.07	0.33	1.56	1.39	0.63	0.08	0.213	0.770	0.309	0.077	0.133	最花
No. 15	26.51	0.68	12.81	4.53	0.03	0.41	0.89	0.96	1.06	0.05	0.572	0.441	0.886	0.092	0.150	最花



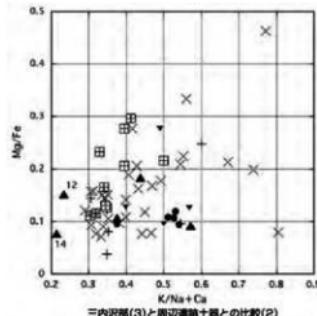
三内沢部(3) K/(Na+Ca+Mg+K)とCa/(Na+K)との相関



三内沢部(3)と周辺遺跡土器との比較(1)



三内沢部(3) K/(Na+Ca)とRb/Stとの相関



三内沢部(3)と周辺遺跡土器との比較(2)

図1 三内沢部(3)遺跡出土土器胎土の化学成分の特徴

B区土坑計測表

番号	グリッド	検出面	重複	平面形	規模(cm)			時期
					検出面	底面	覆さ	
B1	EP-21	V		円形	114~118	90×85	30	
B2	EK-22	V		円形	100	80×75	45	
B3	EL-22	V		円形	105×93	100×75	43	
B5	EL-23	V		不整円形	7×15	7×15	36	
B6	EM-22-23	V		不整円形	7×?	7×96	51	
B107	DW-20-21	V		円形	92~96	80×80	40	
B108	DX-22	V		円形	105~112	111×110	12	
B109	DY-21-22	V		椭円形	96×85	90×70	10	縄文中期中～後葉
B110	DY-21-22	V		椭円形	100×75	110×70	22	
B111	EA-22	V	>BSI101	円形	63×56	35×25	24	
B112	EA-22	V		円形	78	65×80		縄文中期中葉
B113	EA-20	V		円形	77×62	75×70	35	
B114	EB-20	V		円形	80~86	80×80	30	
B115	EC-20	V		円形	85~95	84×80	30	縄文中期中葉
B116	EC-20	V		円形	88×75	75×65	36	縄文中期中～後葉
B117	EB-O-21	V		椭円形	180×130	165×104	27	
B118	DY-22	V		円形	57~60	35×28	28	
B119	DT-21	V		円形	88×78	80×72	22	
B120	DU-22	V		円形	90×75	68×56	30	
B121	DS-21	V		不整方形	120×108	95×45	54	
B122	EF-19	V		不整円形	168×152	112×60	24	
B123	EF-19	V		円形	110~125	65×60	10	
B124	EL-M-21	V		椭円形	72×57	64×44	10	
B125	EF-21-22	V		円形	125~134	120×120	14	縄文中期中葉
B126	EG-21	V		円形	105	110×95	15	
B127	EF-22	V		肺形	104×96	92×80	8	
B128	EG-22	V		円形	115	96×72	20	
B129	EG-22	V		円形	72×60	60×50	15	
B130	EO-21	V		不整円形	130×115	112×88	16	
B131	EE-23	V		円形	102~105	96×80	25	
B132	EL-J-21	V		円形	75	72×68	22	
B133	V			円形	74×60	64×56	15	
B134	DW-24	V		円形	65	68×64	24	
B135	DW-24	V		円形	88	70	92×88	41
B136	DW-25	V		円形	80×65	72×56	11	
B137	DV-W-25	V		円形	69~74	70×60	15	
B138	DU-25	V		円形	70	60×60	50	
B139	DX-23	V		不整円形	90×72	72×64	10	
B140	DY-23	V		不整円形	86	75	76×64	22
B141	DW-X-24	V		円形	50	44×40	21	
B142	DX-24	V		円形	84	85	75×68	20

C区土坑計測表

番号	グリッド	検出面	重複	平面形	規模(cm)			時期
					検出面	底面	覆さ	
C1	DB-C-28	V		円形	90×86		30	縄文中期中葉
C2	DD-26-27	V		不整円形	170×120	160×110	20	
C3	DC-28	V		円形	86×76	76×76	22	縄文中期中葉
C4	DD-27	V		円形	205~210		83	縄文中期中～後葉

C5	DD-24	IV		不整円形	85×70	72×68		時期不明
C6	欠番			円形	103×80	92×60		現代の穴
C7	DD-24	IV		不整円形	85~90	80×60	25	縄文中期中葉
C8	DD-24	V		円形	78~84	68×64	36	縄文中期中葉
C9	DD-25	V		円形	156×125	144×108	10	時期不明
C10	DD-26	IV		不整椭	70×55	60×52	45	縄文中期
C11	DD-25	IV		不整椭	80~85	70×68	15	
C12	DD-23-24	V		円形	62×56	52×40	26	
C13	欠番			円形	80×78	92×84	35	縄文中期中葉
C14	DE-22	V		円形	205~200	185×175	28	上層の楕円式
C15	DD-23	IV		円形	218×206	215×175	42	縄文中期中葉
C16	DD-22	V		円形	102×80	115×105	48	縄文中期中葉
C17	DC-23	IV		円形	125×126	105×90	46	円筒上層式
C18	DE-24	V		円形	192~200	195×190	120	
C19	DF-25	V		円形	70×62	68×40	18	
C20	DD-26	IV		円形	85×92	76×76	78	
C21	DH-1-25	V		円形	118×90	100×92	35	縄文中期中葉
C22	DG-25	V		円形	121×230	210×215	210	
C23	DE-F-26	V		円形	118~190	105×95	28	カクラン
C25	DF-G-26	V		不整円形	155×124	130×95	36	縄文中期中葉
C26	DG-27	V		不整椭	100×60	90×35	30	
C27	DA-22	V	<SI03	椭円形	60×50	55×45	28	
C28	DE-26	V		円形	70×62	68×40	18	
C29	DE-26	V		円形	87×65	75×55	38	縄文中期前半
C30	DE-26	V	>SI04	円形	121×103	100×68	32	
C32	DA-22	V		円形	200×156	165×140	58	
C33	DD-26	V	搅乱有	円形	87×75	76×64	20	
C34	DF-27	V		円形	125~130	120×120	68	時期不明
C35	DE-28	V	不整椭	円形	94~100	96×84	6	
C36	欠番	V		円形	90×80	68×60	27	カクラン
C38	DK-22-23	IV		円形	72×64	76×72	30	
C39	DN-22	V		円形	127×120	128×124	68	時期不明
C40	DH-23	IV		円形	135~183	180	45	縄文中期中～後葉
C41	DK-21-22	IV		円形	124×65	112×56	20	
C42	CO-27	IV		椭円形	122~124	124×108	15	
C43	CS-24	IV		円形	125~130	120×120	15	
C44	CR-23-24	IV		円形	125~128	128×124	8	
C45	CS-24	IV		円形	94~100	96×84	6	
C46	CR-25	IV		円形	255×225	172×168	90	縄文中期後葉
C47	CM-29-30	IV	>CSK50, <CSK51	円形	130×80	104×68	35	不整椭円形
C48	CM-28	IV		円形	115	108×100	45	縄文中期中葉
C49	CM-28	IV	<CSD1	不整椭	110×85	100×72	35	時期不明
C50	CM-N-29	IV	<CSK47	円形	110	108×100	50	
C51	CM-30	IV	<CSK47	隅丸長	110×85	100×72	38	時期不明
C52	DN-22	IV		円形	80		35	時期不明
C53	CM-25	IV		円形	142×140	128×113	39	時期不明

遺物觀察表

B区 土器觀察表

図	No	出土地点	層位	文様	時期	備考
4	1BSI	101	フク土	無文	中期?	
4	2BSI	101	フク土	貼付、LR押、RL(模)	円筒上層a	
4	3BSI	101	フク土	無文	中期?	
4	4BSI	101	フク土	RL(模)、沈線	裸林	
4	5BSI	101	フク土	RL(模)	中期後半	
4	6BSI	101	フク土	RL(模)	前期	
7	1BSI	102	埋設炉1	LR	前期末	
7	2BSI	102	埋設炉2	貼付(割突)、LR押、結束第一種	中期初頭	
7	3BSI	102	埋設3 床面	口唇上面刻み、二股小突起、円形貼付、R押、割突	円筒下層d2	
7	4BSI	102	床面	貼付、R押、割突	円筒下層d2	
7	5BSI	102	Pit 1フク土	貼付(原体押)、L押	円筒下層d2	
7	6BSI	102	Pit 1.3	LR(模)	円筒下層d2	
7	7BSI	102	Pit 1フク土	口唇上面刻み、L押、割突	円筒下層d2	
7	8BSI	102	Pit 4.1	LR(模)	円筒下層d2	
7	9BSI	102	1	口唇上面刻み、R押、割突、LR	円筒下層d2	
7	10BSI	102	1	LR押、LR(模)	円筒下層d2	
7	11BSI	102	1	LR(模)	円筒下層d2	
8	1BSI	103	周溝 フク	突起、円形貼付、口唇RL押、RL(模)、貼付	円筒上層d-e	
8	2BSI	103	周溝 フク	RL(模)	円筒上層d-e	
10	1BSBIP4	104	フク土	無文系、割突	最花	
10	2BSBIP4	104	フク土	LR(模)	中期後半	
17	1BSK	107	3	RL(模)、沈線	最花	
17	2BSK	107	3	RL(模)、沈線	最花	
17	3BSK	109	1	RL ?, 沈線	円筒上層e	
17	4BSK	109	1	口唇押、LR ?, 沈線	円筒上層e	
17	5BSK	109	1	貼付(指輪押)、LR ?, 沈線	円筒上層e	
17	6BSK	110	フク土	口唇肥厚、LR(模)	円筒上層d-e	
17	7BSK	110	フク土	突起、貼付(R押)	円筒上層d-e	
17	8BSK	110	フク土	口唇肥厚、RL(押)、沈線	円筒上層d-e	内面にも貼付
17	9BSK	111	フク土	貼付、L押、結束第一種	円筒上層e	
17	10BSK	111	フク土	無文	中羽?	
17	11BSK	111	フク土	L押、貼付(L押)、RL(模)	円筒上層e	
17	12BSK	112	底面	口唇肥厚、貼付、RL押、結束第二種	円筒上層d-e	
17	14BSK	112	1	粘付第一種	円筒上層e	
17	15BSK	112	1	小突起、上面刻み	円筒上層d-e	
18	19BSK	114	フク土	無文の底面	中羽?	
18	20BSK	115	1下	口唇肥厚、貼付、RL押、結束第一種	円筒上層d-e	
18	21BSK	115	1下	口唇肥厚、貼付、R押、結束第一種	円筒上層d-e	
18	22BSK	115	1下	貼付、L押	円筒上層e	
18	23BSK	115	1下	貼付	円筒上層d	
18	24BSK	115	1下	結束第一種	円筒上層	
18	26BSK	116	堆積土	口唇肥厚、LR	円筒上層d-e	
18	27BSK	124	1	結束第一種	円筒上層	
18	28BSK	125	3	LR(模)	中期中～後葉	
18	29BSK	125	3	口唇肥厚、RL	円筒上層d-e	
18	30BSK	125	3	沈線、LR	円筒上層e	
19	31BSK	125	3	RL(模)	中期中～後葉	
19	32BSK	125	3	波状、貼付、口唇肥厚、LR(模)	円筒上層d-e	
19	33BSK	125	3	沈線	中期中～後葉	
19	34BSK	125	3	R車輪條体1、頭押、RL(模)	円筒下層d2	
19	35BSK	125	3	口唇肥厚(刺突)、沈線	円筒上層e	
19	36BSK	125	3	口唇肥厚、貼付(L押)、L押	円筒上層a	
19	37BSK	125	3	口唇肥厚、LR押、LR(模)	円筒上層d-e	
19	38BSK	125	3	沈線、地文不明	円筒上層e	
19	40BSK	126	フク土	小突起、口唇上面LR、LR押	円筒下層d2	
19	41BSK	128	1	口唇肥厚(L押)、RL(模)	円筒上層d-e	
19	42BSK	128	1	結束第一種	円筒上層	
19	43BSK	130	1	結束第一種	円筒上層	
19	44BSK	132	1	純文	中期	
19	45BSK	135	フク土	單輪絶多体1類	円筒下層	織維含む
19	46BSK	135	フク土	R車輪絶多体1類	円筒下層	織維含む
19	47BSK	136	1	結束第一種	円筒上層	
19	48BSK	136	1	L馬蹄形押	円筒上層b	
19	49BSK	137	1	L馬蹄形押、貼付(横押)	円筒上層b	
19	50BSK	137	1	貼付、繩押、馬蹄形押	円筒上層b	
19	51BSK	140	1	突起、貼付(L押)、LR(直線状・馬蹄形状)	円筒上層a	
19	52BSK	140	1	R押(直線状・簡直状)、貼付(R押)、RL(模)	円筒上層a	
19	53BSK	142	1	R押	円筒下層d2	
20	1BSR	1	R多輪絶		円筒下層d2	
23	1BSX	1	黒	皿形、貼付(L押)、結束第一種	円筒上層	
23	2BSX	1	黄	貼付、LR押、結束第二種	円筒上層a	
23	3BSX	1	黒	LR(模)、沈線	円筒上層e	
23	4BSX	1	黒	LR押、LR(模)	円筒下層d1	
23	5BSX	1	黒	LR(模)、沈線	中期中～後葉	
23	6BSX	1	黒	口唇上面刻み、LR押、割突	円筒下層d2	
23	7BSX	1	黒	口唇上面刻み、L-R押	円筒下層d2	
23	8BSX	1	黒	口唇肥厚、貼付、L-R押	円筒上層d2	
23	9BSX	1	黒	口唇上面R、LR押	円筒下層d2	
23	10BSX	1	黒	R押、LR(模)	円筒下層d1	

図	No	出土地点	層位	文様	時期	備考
23	11	BSX	I	黃 波状、貼付(刺突)、LR押	円筒下層d2	
23	12	BSX	I	口唇上面L押、L押、L結節回転	円筒下層d2	
23	13	BSX	I	LR押、刺突	円筒下層d2	
23	14	BSX	I	口唇肥厚、R押、刺突、LR	円筒下層d2	
23	15	BSX	I	小突起、貼付、R押、刺突	円筒下層d2	
23	16	BSX	I	小突起、L押、貼付(L押)	円筒下層d2	
23	17	BSX	I	小波状、RL(横)	中崩中葉	
23	18	BSX	I	小波状、L押、鼓状貼付(刺み)、LR(横)	円筒下層d2	
23	19	BSX	I	口唇上面L押、L押、LR編刺突、LR(横)	円筒下層d2	
23	20	BSX	I 黒、ペル-3	R押(2条単位)、貼付刺落	円筒下層d2	
26	1	谷FK	13	3 沈線	ムシリ I	
26	2	谷FK	15	3 沈線	ムシリ I	FK-13-Iに似る
26	3	谷FK	15	3 R單輪絆条体5類	円筒下層b	
26	4	谷FL	15	切り株下3 R單輪絆条体5類、貼付(LR押)、RLR押、絆条体回転	円筒下層b	地文原体不明
26	5	谷FM	16	4 R單輪絆条体1類押	円筒下層d2	
26	6	谷FM	15	4 R-LR押、LR(横)	円筒下層d2	
26	7	谷FK	15	3 口唇肥厚、L押(2条単位)、刺突、LR(横)、R多輪絆	円筒下層d2	
26	8	谷FL	14	4 突起、貼付、LR押、刺突、RL、RL結節回転	円筒下層d2	
26	9	谷FLFM	15	4.5 波状、LR押、LR	円筒下層d2	
26	10	谷FM	14	水滴3 口唇上面・口縁部、貼付に単輪絆条体1類押	円筒下層d2	
26	11	谷FL	13	3 貼付(R押)、R押、刺突	円筒下層d2	
26	12	谷FL	14	4 II 突起、貼付(LR押)、LR押、刺突	円筒下層d2	
27	13	谷FL	15	4 口唇肥厚部、LR押、RL(横)	円筒下層d2	
27	14	谷FM	14	4 波状、輪東第一種(RL・RL)	円筒上層a	
27	15	谷FM	14	貼付、LR押(直線状・馬蹄形形状)、輪東第一種	円筒上層a	
27	16	谷FM	15	4 口唇肥厚、貼付(LR押)、L押(直線・馬蹄形)、RL(横)	円筒上層b	
27	17	谷FM	16	W-10下4 突起、貼付(R押)、直通孔	円筒上層b	
27	18	谷FM	16	4 結束第一種、貼付(LR)	円筒上層d	
27	19	谷FK	15	3 口唇肥厚部(RL押)、RL、沈線	円筒上層e	
27	20	谷FL	13	3 RL(横)、沈線	最花	
27	21	谷FM	15	4 RL(横)、捲円形狀沈線	最花	
27	22	谷FK	16	III RL、沈線	最花	
27	23	谷FM	16	4 折り返し口縁、無文彫、LR(横)	中期後～末葉	
27	24	谷FK	15	3 無文彫、円形貼付、円形刺突、LR?	大木10	
27	25	谷FK	16	3 RL、渦巻き状沈線	十層内I	
27	26	谷FL	15	4 LR(横)、沈線	十層内II?	
27	27	谷FK	15	3 沈線、LR	十層内II?	
27	28	谷FL	14	4 沈線、RL磨消圓文	十層内II ~ V	
27	29	谷FL	15	3 沈線	十層内II	
27	30	谷FL	13	3 LR(横)・捲・斜)、沈線	十層内II	
28	31	谷FL	13	4 突起、沈線、L磨消圓文	十層内VI	
28	32	谷FK	15	3 沈線、LR	十層内III ~ V	
28	33	谷FK	15	3 次輪、LR	十層内III ~ V	
28	34	谷FL	14	5 LR(横)、脣下部無文	十層内III ~ V	
28	35	谷FL	16	3 底筋部成底		
28	36	谷FM	14	4 LR	後期後半	
28	37	谷FM	16	3 RLとRLの羽状構成	後期後～末葉	
34	1	ER	22	II 貝殻模様刺突	早期前葉	
34	2	ER	21	カクラン 貝殻模様刺突	早崩前葉	
34	3	EO	20	II 貝殻模様刺突	早期前葉	
34	4	EJ	22	I 刺突	表紋	
34	5	EJ	20	II III 貝殻押引き	表紋	
34	6	EJ	21	II RL、LR(横)	円筒下層d2	
34	7	EJ	19			
34	8	EN	22	II LR押、L結節回転	円筒下層d2	
34	9	EJ	23	III LR押、刺突、R結節回転、多輪絆条体	円筒下層d2	
34	10	EJ	22	III LR押、刺突、LR(横)	円筒下層d2	
34	11	北FL	17	III 單輪絆条体5類・RL押、L・R單輪絆条体1A類	円筒下層d2	
34	12	北FL	19	III 小突起、LR押、鼓状貼付、RL(横)	円筒下層d2	
34	13	EJ	19	III 口唇上面刺突? R押、刺突	円筒下層d2	摩滅
34	14	EJ	19	III 貼付、LR押、結節回転?	円筒下層d2	
34	15	EB	24	III 貼付(LR押)、RL(直線状・馬蹄形)	円筒上層b	
34	16	EF	21	I 貼付(LR押)、L押(直線状・馬蹄形)	円筒上層b	
34	17	EJ	22	III 貼付(R押)、RL(直線状・馬蹄形)	円筒上層b	
34	18	EM	20	I 貼付、L-R押(直線状・馬蹄形)	円筒上層b	
34	19	ED	21	I 突起、貼付(R押)、刺突	円筒上層c	
34	20	EK	20	III 刺突、貼付、LR押	円筒上層c	
34	21	ED	20	I 二段突起、貼付(L押)、刺突	円筒上層c	突起1個欠
34	22	北FL	17	III 突起、貼付(L押)、刺突	円筒上層c	
35	23	北FK	17	III 波状口縁、貼付、刺突、刺み	円筒上層c	
35	24	EB	24	III 口唇肥厚部、LR押、貼付	円筒上層d	
35	25	EH	22	III 輪東第一種、貼付	円筒上層d	
35	26	EH	21	I 突起、貼付(LR押)、LR、沈線	円筒上層d	
35	27	EP	21	I 貼付(LR押)、LR(横)、沈線	円筒上層d	
35	28	ED	19	III 口唇肥厚部(RL押)、RL(横)	円筒上層d+e	
35	29	北FL	18	III RL(横)	後期?	
35	30	ER	22	I 凹状沈輪、渦巻き状沈線、LR(横)、沈線	模様	
35	31	DX	24	III 凹状沈輪、渦巻き状沈線、LR(横・斜)、沈線	模様	
35	32	EN	20	III RL(横)、沈線	模様	
35	33	EP	22	I RL(横)、沈線(円形)	敷花	

図	No	出土地点	層位	文様	時期	備考
35	34	ED	22	III RL(縦)、沈線(經位・溝巻き状)	擾林	
35	35	EP	22	III 円形貼付、無文帯	最花	
35	36	EP	22	III 無文帯、沈線、跡突	最花	
35	37	北FK	18	III RL(縦)、沈線	最花	
35	38	EP	22	I RL(縦)、沈線	最花	
35	39	北FK	18	III 小突起、LR(縦)、円形貼付	大木10	
36	40	EB	20	I 無文帯、RL(縦)、沈線(円形・U字状)	最花	
36	41	DY	24	III LR(縦)、沈線	大木10	
36	42	北FK	17	III 無文帯、RL(縦)、沈線	最花	
36	43	北FM	18	III 折り返し口縫、無文帯、RL(縦)、沈線	最花	
36	44	EB	20	I 刺突、内面筋状突起	大木10	
36	45	EV	20	埋土 無文帯、沈線、RL(縦)	大木10	
36	46	北FK	18	III RL(縦)、刻み	最花	
36	47	北FK	19	III 沈線、LR(縦)消褪文	大木10	
36	48	北FL	19	III LR(縦)消褪文、沈線	大木10	
36	49	北FM	17	III LR(縦)、沈線	大木10	
36	50	北FK	16,17	III 折り返し口縫、RL(縦・斜)	中期後葉	
36	51	北FK	17	I L押、無文帯、RL	牛ヶ尻	
36	52	北FK	18	III 人入組み状沈線	十字内I	
36	53	ER	20	カクラン 沈線	後期	
36	54	北FJ	17	III 沈線	十字内I	
36	55	北FL	19	III 椅子目状筋条体(R單線5)	十字内I	
36	56	北FM	17	III 突起、沈線、LR	十字内V～VI	
36	57	北FL	19	III 小突起、沈線、LR(縦)	十字内V～VI	
36	58	北FM	17	III LR=RL、沈線、突起	十字内V	
36	59	北FN	17	III 沈線、RL(縦)、円形貼付	十字内V	
36	60	北FM	17	III RL(縦・斜)、沈線	十字内VI	
36	61	北FM	17	II RL(縦)、沈線	十字内VI	
36	62	北FL	18	III 沈線、RL(縦・横)による羽状構成	十字内IV	
36	63	北FK	18	条痕	後期後半	
36	64	北FK	18	条痕	後期後半	63と同一個体
36	65	北FK	19	III LR(縦)	後期?	
36	66	北FK	17	底面 底面生痕(原体不明)	後期?	
36	67	FM	16	III 注口部	後期後半	
36	68	北FM	18	III 突起、平行沈線	大同A	鉢または皿
36	69	北FM	18	III 突起	大同A'	68と同一個体
36	70	北FMFN	18,19	I III 平行沈線	大同A'	鉢
36	71	北FM	19	III 平行沈線、LR(縦)	大同A'	
36	72	北FM	18	III RL(縦)	後期	台付、摩滅
36	73	EL	20	I II RL(縦)消褪文、沈線、刺突	統繩文	
36	74	ER	20	カクラン LR(縦)文	統繩文	

C区 土器観察表

図	No	出土地点	層位	支様	時期	備考
48	1	CSI	1	床面 無文帯、RL、円形刺突、U字状沈線	最花	
48	2	CSI	1	1 LR、刺突?	中期後半	
48	3	CSI	1	1 LR(縦)、沈線	大木10	
48	4	CSI	1	底面 RL(縦)、沈線	中期中～後葉	
48	5	CSI	1	凹状沈線、RL(縦)、沈線	擾林	
48	6	CSI	1	凹状沈線、RL(縦)、沈線	擾林	
48	7	CSI	1	1 沈線	中期中～後葉	
51	1	CSI	2	1 LR(縦)	中期後半	
51	2	CSI	2	1 口唇肥厚(沈線・貼付)	円筒上層e	
51	3	CSI	2	1 口唇肥厚(沈線・貼付)、RL(縦)	擾林	
51	4	CSI	2	1 RL(縦)、沈線	円筒上層e	
51	5	CSI	2	1 口唇肥厚、RL(縦)、沈線	円筒上層e	
51	6	CSI	2	1 陰沈線、底位沈線、RL(縦)、沈線	大木8d	4と同一個体
51	7	CSI	2	1 陰沈線、底位沈線、RL(縦)、沈線	大木8d	
51	8	CSI	2	1 凹状沈線、RL(縦)、沈線	擾林	2と同一個体
51	9	CSI	2	1 凹状沈線、RL(縦)、沈線	擾林	
53	1	CSI	3	土 LR	中期後半	
53	2	CSI	3	1 RL(縦)		
53	3	CSI	3	1 無文帯	中期後葉	
53	4	CSI	3	1 無文帯	中期後葉	
53	4	CSI	3	1 底位沈線、粘土粒貼付	最花	
53	5	CSI	3	1 RL(縦・斜)、円形刺突、沈線	最花	
53	6	CSI	3	1 フク土 LR(縦)、沈線	最花	
53	7	CSI	3	1 LR(縦)、沈線	最花	
55	1	CSI	4	床面 貼付(刻み)、刺突	円筒上層c	
55	2	CSI	4	1 貼付	円筒上層d-e	
55	3	CSI	4	1 貼付	円筒上層d	
55	4	CSI	4	床面 貼付、結束第一種	円筒上層d	
55	5	CSI	4	床面 結束第一種	円筒上層	
64	1	CSK	1,4,7	突起(貼付)、口唇肥厚(LR押)、LR(縦)、沈線	円筒上層e	突起内面にも貼付
64	2	CSK	1	突起(貼付)、口唇肥厚(LR押)、RL(縦)、沈線	円筒上層e	突起内面にも貼付
64	3	CSK	1	突起、?押、沈線	円筒上層e	
64	4	CSK	1	4 口唇肥厚(LR押)、LR(縦)	中期中葉	
64	5	CSK	1	4 RL(縦)、沈線	円筒上層e	
64	7	CSK	3,1,2	1 口唇肥厚、RL(縦)	円筒上層d-e	

図	No	出土地点	層位	文様	時期	備考
64	8	CSK	3	1 RL(横)、沈線	円筒上層e	
64	9	CSK	3	1 フ RL(横)	中期中葉	
64	11	CSK	4	フク土 RL(横)、沈線	中期中～後葉	
64	12	CSK	4	フク土 RLR(横)	中期中～後葉	
64	13	CSK	4	フク土 RL(横)	中期中～後葉	
64	14	CSK	8	2 变起(円形貼付)、口唇肥厚(刻み)、RL	円筒上層d-e	
64	15	CSK	8	3 碓 口唇肥厚(RL)、RL(横)、沈線	円筒上層e	
65	17	CSK	9	2 LR? 貼付	円筒上層d	
65	18	CSK	9	2 变起、貼付(R押)、口唇肥厚(R押)、RL、沈線	円筒上層e	
65	19	CSK	9	1, 2 RL(横)、沈線	中期中～後葉	
65	20	CSK	9	2 口唇L押、RL(斜)	円筒上層d-e	
65	21	CSK	9	1 RL(横)、沈線	中期中～後葉	
65	23	CSK	10	礎 無文	中期?	
65	25	CSK	11	1, 2 RL(斜)	中期中～後葉	
65	26	CSK	13	フク土 不明	不明	
65	26	CSK	15	1 口唇RL押、RL	円筒上層d-e	
65	27	CSK	16	2 LR(横)、沈線	円筒上層e	
65	28	CSK	17	1 口唇上面刻み、RL(横)	円筒上層d-e	
65	29	CSK	18	2 RL(横)	中期中～後葉	
65	30	CSK	18	1 フク土 口唇肥厚(貼付)、結束第一種、貼付(刻み)	円筒上層d	
65	31	CSK	18	3 貼付	大木Bb?	
65	32	CSK	18	2 RL(斜)、沈線	最花	
65	33	CSK	18	礎 LR(横)、沈線	円筒上層e	
65	34	CSK	18	3 無文帶、沈線	最花	
65	35	CSK	18	フク土 RL(斜)、美吉吉状沈線	櫻林	
66	36	CSK	19	底面 口唇突起(貼付)、口唇肥厚(RL押)、RL	円筒上層d-e	
66	39	CSK	19	2 LR押、RL(横)	円筒下層d2	
66	40	CSK	19	2 突起(貼付)、RL(押)、沈線	円筒上層e	
66	41	CSK	19	フク土 突起(貼付)、円孔 RLR、沈線	円筒上層e	
66	42	CSK	19	2 口唇肥厚(貼付)、RL押、沈線	円筒上層e	
66	43	CSK	19	フク土 RL(横)、沈線	円筒上層e	
66	47	CSK	20	結束第一種、貼付(刻み)	円筒上層d	
66	48	CSK	21	礎 結束第一種	中期前半	
66	49	CSK	21	礎 LR(横)	中期中～後葉	
67	53	CSK	23	8 貼付(L押)、刺突、結束第一種	円筒上層c	
67	54	CSK	23	フク土 貼付(刻み)、けっそくだい	円筒上層d-e	
67	55	CSK	23	4 RL(横)	円筒上層e	
67	56	CSK	23	フク土 突起、貼付(L押)、RL?(横)、貼付(L押)	円筒上層d	
67	57	CSK	23	フク土 LR	円筒上層e	
67	58	CSK	23	フク土 RL(横)、沈線	円筒上層e	
67	59	CSK	23	11 RL(横)、沈線	円筒上層e	
67	60	CSK	23	フク土 貼付(L押)	円筒上層d	
67	61	CSK	23	フク土 突起(貼付)、LR(横)、沈線	円筒上層e 内面にも貼付	
67	62	CSK	23	11 小突起(貼付) RL(横)、沈線	円筒上層e	
67	63	CSK	23	フク土 小突起(口唇RL押)、RL(横)、沈線	円筒上層e	
68	64	CSK	23	フク土 口唇貼付(L押)、楕状取っ手	円筒上層d-e	
68	65	CSK	23	フク土 口唇肥厚(RL押)、沈線	円筒上層e	
68	66	CSK	23	11 口唇肥厚(RL押)、RL(横)	円筒上層d	
68	67	CSK	23	フク土 突起(貼付)、LR(横)	円筒上層d	
68	68	CSK	23	フク土 突起(貼付)、口唇RL押、RL(横)	円筒上層d-e 内面にも貼付	
68	69	CSK	23	フク土 突起(楕状貼付)、口唇RL押、RL(横)	円筒上層d-e	
68	70	CSK	23	LR(横)、沈線	最花	
68	71	CSK	23	11 突起(RL押)、RL(横)	円筒上層d-e	
68	72	CSK	23	フク土 突起(RL押)、RL(横)	円筒上層d-e	
68	73	CSK	23	11 口唇肥厚(RL押)、RL(横)	円筒上層d-e	
68	74	CSK	23	2 フク土 折り返し口唇、無文帶、LR(横)	中期後葉	
69	82	CSK	26	3 結束第一種、貼付(刻み)	円筒上層d	
69	83	CSK	26	2, 3 結束第一種、貼付(刻み)	円筒上層d	
69	85	CSK	31	1 LR(横)、沈線	円筒上層e	
69	92	CSK	35	1 RL(横)、R結節回転	円筒上層e	結果第二種?
69	93	CSK	40	1, 2 口唇上面刻み、LR(横)、沈線	円筒上層e	
69	94	CSK	40	3 突起、口唇肥厚(L押)、沈線	円筒上層e 变起内面にも貼付	
69	95	CSK	40	3 变起(貼付)、口唇RL押、沈線	円筒上層e	
69	96	CSK	40	3 楯縫(3束)、内外面に赤色顔料	大木Bb?	
69	97	CSK	40	3 RL(横)	円筒上層d-e	
69	98	CSK	40	3 口唇肥厚(RL押)、RL(横)	円筒上層d-e	
69	99	CSK	40	1 回状沈線、RL(横)、沈線	櫻林	
70	103	CSK	41	底 RL(横)	中期中～後葉	
70	106	CSK	47	フク土 RL(横)	中期中～後葉	
70	107	CSK	48	1 小突起、RL(横)	中期中～後葉	
70	108	CSK	48	1 無文?	中期中～後葉	
70	110	CSK	53	堆 無文帶	最花	
70	111	CSK	53	RL(横)	大木系	
71	1	CSR	1	口唇肥厚(RL押)、RL	上層d-e	
72	1	CSX	1	2 口唇肥厚(RL押)、RL(横)	上層d-e	
72	2	CSX	1	1 フク土 RL(横)	中期中葉	

図	No	出土地点	層位	文様	時期	備考
72	3 CSX	1 フク土	I	無文? (表面剥落)	中期中葉	
74	1 CSD	2 フク土	II	(外面) 叩き、(内面) オサエ	須恵器	
75	1 DA	25	風	L単軸筋条体6A	円筒上層b	織維含む
75	2 DI	22	II	突起、貼付(R押)、L-R縦	円筒上層a	
75	3 DB	23	I	口唇貼付、RL(横)、貼付(L押)	円筒上層d	斜丸または皿形
75	4 DJ	25	II	貼付(刺み)	円筒上層d	
75	5 DJ	23	II	突起、貼付(刺み)、楕円孔	円筒上層d	
75	6 DJ	26	II	貼付	円筒上層d	
75	7 DB	25	カクラン	突起、口唇上面刻み、LR(沈線)	円筒上層e	
75	8 DJ	24	II	口唇肥厚(RL押)、RL(横)、沈線	円筒上層e	
75	9 DG	22 23	II	口唇肥厚(氣孔)、RL(横)、沈線	円筒上層e	
75	10 DA	26	I	口唇上面刻み、沈線	円筒上層e	
75	11 DH	23	II	RL(横)、沈線	円筒上層e	
75	12 DA	22	風	突起(沈線)、LR(横)、沈線	円筒上層e	
75	13 DH	23	II	RL(横)、沈線	大木Bb?	
75	14 DE	27	II	突起、貼付、LR(横)	円筒上層d-e	
75	15 DF	22	II	突起、貼付、円孔	円筒上層d-e	
75	16 CW	26	II	突起(貼付)	上層d-e	内面にも貼付
75	17 DH	23	II	口唇肥厚、RL(横)	円筒上層d-e	
75	18 DJ	22	II	口唇LR押、LR(横)	円筒上層d-e	
75	19 DG	22	II	LR(横)、沈線	円筒上層e	
75	20 CV	27	II	口唇肥厚(氣孔)、LR(横)、沈線	円筒上層e	
75	21 CW	25	II	凹状沈線、RL(横)、沈線	楕林	
75	22 DB	22	I	RL(横)、沈線	円筒上層e	
75	23 DB	22	I	RL(横)、沈線	円筒上層e	
75	24 DJ	24	II	RL(横)、沈線	円筒上層e	
75	25 DD	22	II	油巻き状隆線、RL(横)	楕林	
75	26 DH	23	II	RL(横)、沈線	楕林	
76	27 DJ	23	II	LR(横)、沈線	中期後葉	
76	28 DJ	27	II	LR(斜)、沈線	楕林	
76	29 DJ	22	II	凹状沈線、RL/R(斜)	楕林	
76	30 DB	23	I	無文帯	中期後葉	
76	31 DH	23	II	波状口縁、LR(縫)、沈線	楕林	
76	32 DI	22	II	無文帯、LR(縫・斜)、沈線(腰帯・波状)	最花	
76	33 DJ	26	II	無文帯、刻窓、RL(斜)	最花	
76	34 DJ	27	II	無文帯、円形刺突、LR(縫)	最花	
76	35 DJ	24	II	円形刺突、LR(縫)	最花	
76	36 CY	24	I	RL(横)、沈線	最花	
76	37 CY	24	I	LR(横)、沈線	最花	
76	38 DJ	26	I	RL(横)、沈線	最花	
76	39 DJ	22	II	RL(横)、沈線	最花	
76	40 DJ	24	II	LR(横)、沈線(腰帯・波状)	最花	
76	41 DJ	27	II	LR(横)、沈線	最花	
76	42 DI	27	II	LR(横)、沈線	最花	
76	43 DD	23 カクラン	II	折り返し口縁、LR(横)	中期後葉	
76	44 DJ	27	II	折り返し口縁、無文帯、LR(横)	中期後葉	
76	45 DJ	23	II	沈線	土腰内 I	
76	46 DJ	24	II	橢圓状沈線	土腰内 I	
76	47 DI	24	II	RL(横)	中~後期	
76	48 DI	24	II	RL(横)	中~後期	
76	49 DC	28	I	LR(横)、沈線	大洞A	
76	50 CX	25	II	RL帶縄文	継縄文	
76	51 CX	25	II	RL帶縄文	継縄文	

B区 土製品観察表

図	No	出土地点	層位	文様	種類	備考
33	1 EB	21	I	貼付、L押、RL(横)	ミニチュア土器	円筒上層d-e
33	2 EW	21	I	RL(縫)、沈線?	ミニチュア土器	
33	3 FK	17	III	無文、台部	ミニチュア土器	
33	4 B区		接土	無文	ミニチュア土器	

C区 土製品観察表

図	No	出土地点	層位	文様	種類	備考
69	91 CSK	33	フク土	無文	三角形土製品	
70	104 CSK	41	底面	RL、沈線	ミニチュア土器	
76	52 CY	23	III		三角形土製品	

B区 剥石器観察表

図	番号	器種	出土遺構	グリッド	層位	S番	長さ (mm)	巾 (mm)	厚さ (mm)	重さ (g)	石質	備考	整番		
4	7	削器Ⅲ類	05 BSI	101	層土	4	52.0	46.0	15.0	18.6	珪質頁岩		ハク96		
17	16	削器Ⅲ類	05 BSK	112	1	3	47.0	34.0	14.0	22.2	珪質頁岩		ハク93		
17	16	削器Ⅲ類	05 BSK	112	底面	1	76.0	34.0	15.0	40.9	珪質頁岩		ハク97		
17	18	削器Ⅲ類	05 BSK	112	底面	2	53.0	56.0	17.0	39.4	珪質頁岩		ハク98		
18	25	石鏃	05 BSK	115	3	29.3	11.4	5.7	1.4	珪質頁岩	火バネによる欠損。	ハク100			
23	21	石鏃	04 BSX	1	EO 22	×	58.7	38.4	13.9	31.0	珪質頁岩		ハク14		
23	22	削器Ⅲ類	04 BSX	1	EO 22	×	42.0	42.0	18.0	23.8	珪質頁岩		ハク15		
23	23	削器Ⅲ類	04 BSX	1	EO 21	黒	7	46.0	40.0	12.0	16.7	珪質頁岩		ハク16	
29	1	石鏃	04 BSX	1	EO 21	15	3	42.0	20.0	10.0	6.9	石英	未製品。	ハク28	
29	2	石鏃	04 BSX	1	EO 21	16	4	94	83.6	41.8	13.8	石英	アスファルト付着。	ハク22	
29	3	石鏃	04 BSX	1	EO 21	16	5	82	35.3	13.2	13.8	珪質頁岩	欠損。	ハク24	
29	4	石鏃	04 BSX	1	EO 21	16	3	63	57.6	35.6	14.6	珪質頁岩	未製品。	ハク29	
29	5	石鏃	04 BSX	1	EO 21	16	4	120	31.0	32.0	10.2	珪質頁岩		ハク31	
29	6	石鏃	04 BSX	1	EO 21	16	3	28	54.0	43.0	12.0	48.1	珪質頁岩		ハク25
29	7	削器Ⅲ類	05 BSK	112	1	67.0	50.0	15.0	15.1	珪質頁岩	刃部に強度の摩擦有り。	ハク11			
29	8	削器Ⅲ類	04 BSX	1	EO 21	13	4	75.2	58.5	25.3	113.4	珪質頁岩	刃部に強度の摩擦有り。	ハク17	
29	9	削器Ⅲ類	04 BSX	1	EO 21	16	4	93	27.0	28.0	16.0	7.8	珪質頁岩	未製品。	ハク18
29	10	削器Ⅲ類	04 BSX	1	EO 21	16	4	93	38.0	28.0	12.0	10.1	石英		ハク20
29	11	削器Ⅲ類	04 BSX	1	EO 21	16	4	93	35.5	43.7	13.2	19.8	珪質頁岩		ハク23
29	12	削器Ⅲ類	04 BSX	1	EO 21	15	4	152	38.6	40.5	15.0	21.4	珪質頁岩		ハク28
32	1	石鏃	05 BSX	1	ED 19	三	×	47.6	25.4	12.5	12.6	珪質頁岩		ハク12	
38	1	石鏃	04 BSX	1	FM 17	三	81	34.7	14.3	6.6	2.9	珪質頁岩		ハク84	
38	2	石鏃	04 BSX	1	FK 16	三	260	25.7	10.8	5.4	1.6	珪質頁岩	未製品。欠損。	ハク33	
38	3	石鏃	04 BSX	1	FL 16	三	95	34.4	14.7	8.1	3.2	珪質頁岩		ハク53	
38	4	石鏃	04 BSX	1	FL 18	三	215	41.0	16.7	7.0	4.0	珪質頁岩		ハク45	
38	5	石鏃	04 BSX	1	FM 18	三	262	29.9	13.6	6.0	2.1	珪質頁岩		ハク58	
38	6	石鏃+石鬚	04 BSX	1	FK 18	三	111	32.4	12.5	7.3	2.7	珪質頁岩	石鏃を石鬚に転用している。	ハク23	
38	7	石鏃	04 BSX	1	FK 18	三	131	27.4	14.0	6.0	2.4	珪質頁岩	刃部に欠損。	ハク18	
38	8	石鏃	04 BSX	1	FL 19	三	194	51.9	46.0	9.1	8.9	珪質頁岩	刃部に欠損。	ハク46	
38	9	石鏃	04 BSX	1	FK 18	三	265	28.3	16.8	10.8	4.2	石英	未製品。欠損。	ハク32	
38	10	石鏃	04 BSX	1	FK 16	三	243	29.0	21.0	8.0	7.9	珪質頁岩	未製品。欠損。	ハク24	
38	11	石鏃	04 BSX	1	FK 17	三	118	54.6	22.4	9.1	11.9	珪質頁岩		ハク31	
38	12	石鏃	04 BSX	1	FL 18	三	199	72.1	26.6	12.8	22.5	珪質頁岩	未製品。	ハク47	
38	13	石鏃	05 BSX	1	EG 22	三	×	52.9	44.0	18.4	29.1	珪質頁岩	刃部を鋸歯状に加工。	ハク19	
38	14	石鏃	04 BSX	1	EO 21	11	三	57.4	26.4	10.2	12.9	珪質頁岩		ハク78	
38	15	石鏃	04 BSX	1	FM 18	三	149	60.0	23.0	14.0	16.5	珪質頁岩	未製品。	ハク81	
38	16	石鏃	04 BSX	1	EW 20	1	×	56.3	30.8	12.8	20.6	珪質頁岩	裏面に光沢あり。	ハク76	
38	17	石鏃	05 BSX	1	EJ 21	三	×	55.1	44.3	15.0	24.9	珪質頁岩		ハク19	
38	18	石鏃	05 BSX	1	EA 20	1	×	33.9	27.6	10.1	9.0	珪質頁岩		ハク103	
38	19	石鏃	05 BSX	1	EG 19	三	×	48.4	27.6	15.0	12.3	珪質頁岩		ハク29	
38	20	石鏃	04 BSX	1	EM 20	1	279	44.5	31.0	10.7	10.2	珪質頁岩		ハク33	
38	21	石鏃	04 BSX	1	EM 20	1	64.2	60.4	21.0	31.7	珪質頁岩		ハク22		
38	22	擦器	05 BSX	1	DX 24	三	×	62.0	45.9	13.1	24.6	石英	両面加工刃部から削離された剥片跡。	ハク10	
38	23	擦器+削器1種	04 BSX	1	EG 20	1	×	40.8	73.2	10.0	19.4	黑色片岩	1種は削器、2種は擦器で、その裏面は両面から削離。	ハク109	
39	24	削器	04 BSX	1	FL 19	三	292	54.0	44.0	17.0	37.2	珪質頁岩	裏面に光沢あり。	ハク44	
39	25	擦器	04 BSX	1	FK 16	三	126	33.0	38.0	8.0	11.6	黑色片岩		ハク28	
39	26	擦器	05 BSX	1	EB 21	1	×	41.5	30.7	12.8	16.5	珪質頁岩	欠損。	ハク108	
39	27	削器Ⅰ類	04 BSX	1	FL 18	三	73	51.7	43.0	11.0	26.7	珪質頁岩		ハク55	
39	28	削器Ⅰ類	04 BSX	1	EL 20	1	×	74.2	35.2	10.0	19.3	珪質頁岩		ハク42	
39	29	削器Ⅰ類	04 BSX	1	FK 16	三	123	45.7	40.3	13.9	22.6	石英	アスファルト付着。その裏面は両面から削離。	ハク40	
39	30	削器Ⅰ類	04 BSX	1	FL 18	三	65	53.0	61.0	15.0	34.3	珪質頁岩		ハク50	
39	31	削器Ⅰ類	04 BSX	1	FL 18	三	218	59.7	53.2	13.4	37.3	珪質頁岩	裏面右辺に使用光沢あり。	ハク48	
39	32	削器Ⅰ類	04 BSX	1	FL 18	三	63	38.5	38.2	11.4	12.4	珪質頁岩		ハク31	
39	33	削器Ⅰ類	04 BSX	1	FL 18	三	111	38.0	35.5	12.5	13.0	珪質頁岩		ハク39	
39	34	削器Ⅰ類	04 BSX	1	FJ 16	三	100	48.0	40.0	13.0	29.6	珪質頁岩		ハク47	
39	35	削器Ⅰ類	04 BSX	1	EL 20	1	×	32.0	47.0	10.0	8.9	珪質頁岩	ノッチとして使用? 欠損。	ハク79	
39	36	削器Ⅰ類	04 BSX	1	EO 21	1	×	62.5	29.8	7.3	10.6	珪質頁岩		ハク53	
39	37	削器Ⅰ類	04 BSX	1	FL 18	三	70	26.0	22.0	7.0	3.4	珪質頁岩		ハク49	
39	38	削器Ⅰ類	04 BSX	1	FL 15	三	×	62.0	40.3	11.1	18.5	珪質頁岩	つまみを外した直後。本器品の可変性あり。	ハク34	
39	39	削器Ⅰ類	04 BSX	1	FK 16	三	233	52.0	28.0	8.0	7.5	珪質頁岩		ハク35	
39	40	削器Ⅰ類	04 BSX	1	FL 16	三	90	60.0	20.0	10.0	7.8	珪質頁岩		ハク52	
40	41	削器Ⅰ類	05 BSX	1	ED 21	1	×	79.0	49.0	21.0	55.4	珪質頁岩		ハク102	
40	42	削器Ⅰ類	05 BSX	1	DY 21	1	×	58.6	51.6	13.9	38.3	珪質頁岩		ハク116	
40	43	削器Ⅰ類	04 BSX	1	FK 16	三	247	40.3	53.2	16.0	25.6	珪質頁岩		ハク37	
40	44	削器Ⅰ類	05 BSX	1	EA 20	1	×	43.5	51.2	11.3	19.0	珪質頁岩	アスファルト付着。	ハク122	
40	45	削器Ⅰ類	05 BSX	1	EB 20	1	×	71.0	43.0	15.0	30.6	珪質頁岩		ハク107	
40	46	削器Ⅰ類	05 BSX	1	EA 20	1	×	63.0	47.0	20.0	70.5	珪質頁岩		ハク108	
40	47	削器Ⅰ類	04 BSX	1	EL 21	1	×	38.0	41.0	13.0	11.5	珪質頁岩		ハク75	
40	48	削器Ⅰ類	05 BSX	1	DW 21	1	×	50.0	54.0	12.0	21.1	珪質頁岩		ハク111	
40	49	削器	04 BSX	1	ER 20	1	×	41.0	30.0	25.0	12.5	珪質頁岩	タバコによって削落。ノッチとして使用。	ハク50	
40	50	削器	04 BSX	1	FJ 17	三	102	54.0	51.0	13.0	44.2	石英	鈍石から削離された剝片。	ハク37	
40	51	石鏃	04 BSX	1	FK 18	三	50	53.1	52.8	20.5	63.9	珪質頁岩	鈍石。右辺に欠損する傾向有り。	ハク41	
40	52	石鏃	05 BSX	1	EF 22	三	×	103.0	97.0	38.0	381.6	元岩	鈍石。右辺に欠損する傾向有り。	ハク25	

B区 碳石器観察表

図 番号	器種	出土遺構	グリッド	層位	S番	高さ (mm)	巾 (mm)	厚さ (mm)	重積 (g)	石質	備考	整番			
7	12	磨石	05 BSI	102 Part	層土	×	45.0	97.5	15.0	67.5	ディサイト	剥離断面の一部か? 剥落片。	L-2211		
7	13	磨石+鉄石	05 BSI	102 Part	層土	×	156.0	72.0	36.0	605.2	緑色花崗岩	層土	L-2222		
8	3	鉄石+磨石	05 BSI	103	削痕付土	×	125.5	62.0	40.0	352.9	緑色花崗岩	層土	L-2223		
17	12	磨石+鉄石+鉄器	05 BSK	111	層土	×	103.0	55.0	40.0	370.1	ディサイト	層土	L-2226		
19	39	磨石	05 BSK	125 EF	22	3	2	151.0	79.0	33.5	689.9	緑色花崗岩	層土	L-2224	
23	24	鉄石+刃物	04 BSX	1 EM	21 黒	層土	111	75.0	44.0	17.0	79.2	黒鐵器	層土	L-2226	
30	13	磨石+石斧	04 BSK	2 EM	F1	13	4	×	88.0	38.0	13.0	70.5	片岩	層土	L-168
30	14	磨石+刃物	04 BSK	2 EM	F1	13	4	118	44.0	29.0	18.0	43.9	刃物	拂り切り痕あり。直角。	L-144
30	15	磨石+刃物	04 BSK	2 EM	F1	16	4	73	29.0	14.0	11.0	2.8	片岩	剥落片。	L-1719
30	16	磨石+刃物	04 BSK	2 EM	F1	13	3	87.0	22.0	17.0	17.8	緑色花崗岩	剥落片。	L-1727	
30	17	磨石	04 BSK	2 EM	F1	14	4	131	28.0	11.0	5.0	62.9	アラカルト	層土	L-1738
30	18	磨石	04 BSK	2 EM	E1	21 II	II	×	134.0	68.0	50.0	674.0	黒鐵器	層土	L-1728
30	19	磨石	04 BSK	2 EM	F1	15	4	139	118.0	90.0	75.0	945.0	黒鐵器	層土	L-159
30	20	磨石	04 BSK	2 EM	F1	15	4	109	68.0	80.0	49.0	326.8	片岩	ミガキあり。欠損。	L-155
30	21	磨石+鉄石+刀	04 BSK	2 EM	F1	15	3	56	108.0	74.0	48.0	551.1	片岩	層土	L-1325
30	22	磨石+鉄石+刀	04 BSK	2 EM	F1	16	3	49	19.0	78.0	60.0	1,182.1	片岩	層土	L-1440
30	23	磨石+刃物?	04 BSK	2 EM	F1	15	4	149	99.0	78.0	23.0	1,877	片岩	層土	L-162
30	24	磨石+刃物?	05 BSK	2 EM	F1	14	4	68.5	46.0	30.0	46.3	刃物	縫隙・擦痕あり。	L-2238	
30	25	鉄石+刃物	04 BSK	2 EM	F1	15	5	104	93.0	55.0	36.0	257.8	赤紋岩	欠損した石板を再利用。	L-155
30	26	鉄石+刃物	04 BSK	2 EM	F1	15	4	146	48.0	46.0	26.0	418.1	緑色花崗岩	標準あり。斜打による欠損(剝落)。	L-161
30	27	鉄石+刃物	05 BSK	2 EM	F1	14	4	95.0	68.0	52.0	424.4	ディサイト	層土	L-2230	
30	28	鉄石+刃物	05 BSK	2 EM	F1	15	4	111	108.0	42.0	35.0	2,253.5	緑色花崗岩	層土	L-154
31	29	磨石	04 BSK	2 EM	F1	15	3	57	160.0	60.0	50.0	868.9	緑色花崗岩	層土	L-155
31	30	磨石	04 BSK	2 EM	F1	15	5	114	143.0	71.0	50.0	651.3	ディサイト	S-214は4層、S-128は5層からの出土	L-153
31	31	磨石+刃物	04 BSK	2 EM	F1	15	4	150	172.0	92.0	58.0	530.9	赤紋岩	層土	L-163
31	32	磨石+刃物	04 BSK	2 EM	F1	13	4	185	78.0	73.0	35.0	1,897	片岩	層土	L-166
31	33	磨石+磨石+刃物	04 BSK	2 EM	F1	14	4	188	74.0	42.0	22.0	81.2	緑色花崗岩	欠損。	L-169
31	34	磨石+刃物	04 BSK	2 EM	F1	15	4	155	118.0	54.0	42.0	325.8	赤紋岩	層土	L-173
31	35	凹石+十脚石	04 BSK	2 EM	F1	15	3	×	111.0	90.0	23.0	1,840	片岩	層土	L-170
31	36	石皿+合食土+削痕	04 BSK	2 EM	F1	16	3	47	207.0	155.0	65.0	1,305.5	緑色花崗岩	向み、擦痕、削きあり。欠損。	L-137
31	37	石皿	04 BSK	2 EM	E1	20	II	×	135.0	69.0	51.0	400.7	ディサイト	欠損。	L-130
31	38	石皿	04 BSK	2 EM	F1	16	3	48	111.0	95.0	28.0	326.9	赤紋岩	層土	L-139
31	39	石皿+磨石	04 BSK	2 EM	F1	15	4	145	70.0	58.0	38.0	651.4	緑色花崗岩	層土	L-160
31	40	研磨器?	04 BSK	2 EM	F1	17	3	83.0	1.0	1.0	0.5	58.9	ホルムカルフス	層土	L-143
41	53	圓錐形石器	04 BSK	2 EM	F1	17	3	269.0	167.0	29.0	1,498.0	緑色花崗岩	層土・塵りあり。	L-146	
41	54	圓錐形石器	05 BSK	2 EM	F1	17	1	1,000.0	41.0	92.0	144.2	緑色花崗岩	刃物欠損。	L-105	
41	55	圓錐形石器?	05 BSK	DX 24	III	×	126.0	57.0	32.0	416.9	緑色花崗岩	刃物欠損。吹抜孔部で斜打している。	L-240		
41	56	圓錐形石器?	05 BSK	EJ 19	III	×	94.0	75.0	27.5	259.8	ディサイト	欠損。	L-2225		
41	57	圓錐形石器?	05 BSK	EJ 21	I	×	72.0	59.0	18.0	95.6	赤紋岩	影写片。	L-2227		
41	58	圓錐形石器?	04 BSK	FL 17	IV	251	64.0	86.0	32.0	1,994.9	片岩	欠損。	L-114		
41	59	北海道式石器	04 BSK	FK 19	III	175	132.0	71.0	48.0	739.4	安山岩	層土	L-92		
41	60	北海道式石器	05 BSK	EB 20	I	×	89.0	86.0	59.0	542.5	ディサイト	欠損。	L-2228		
41	61	北海道式石器	05 BSK	EA 20	I	×	66.0	70.0	44.5	287.6	ディサイト	欠損。	L-241		
41	62	北海道式石器	05 BSK	EA 20	I	×	95.0	66.0	50.0	376.4	シン岩	欠損。	L-246		
41	63	北海道式石器	05 BSK	DX 24	III	×	113.0	73.0	38.0	447.1	緑色花崗岩	層土	L-244		
41	64	磨石+凹石	05 BSK	EH 20	I	×	140.0	60.0	44.0	442.0	アラカルト	欠損。	L-142		
41	65	磨石	05 BSK	EH 21	I	×	81.0	61.0	38.0	384.8	緑色花崗岩	層土	L-143		
41	66	磨石	04 BSK	FM 17	III	221	164.0	92.0	36.0	923.4	片岩	層土	L-122		
41	67	磨石	04 BSK	FL 18	III	214	154.0	78.0	35.0	673.6	安山岩	層土	L-116		
42	68	磨石	05 BSK	EA 22	I	×	134.0	66.5	29.0	310.0	緑色花崗岩	層土	L-247		
42	69	磨石	05 BSK	DX 24	III	×	63.5	54.5	36.5	138.4	ディサイト	欠損。	L-2233		
42	70	磨石	05 BSK	EF 20	III	×	57.0	67.0	32.5	136.8	緑色花崗岩	欠損。	L-248		
42	71	磨石	04 BSK	FM 15	I	×	48.0	74.0	49.0	514.3	砂岩	欠損。	L-175		
42	72	磨石	05 BSK	DY 20	I	×	89.5	60.5	32.5	145.3	赤紋岩	欠損。	L-247		
42	73	磨石	04 BSK	FL 19	III	×	188.0	66.0	44.0	651.0	アラカルト	欠損。	L-190		
42	74	磨石+石器?	04 BSK	FL 18	III	190	110.0	50.0	35.0	323.5	層土+砂岩	擦熱・火ハバによる欠損。	L-167		
42	75	磨石+石器?	04 BSK	FL 17	III	96.0	70.0	47.0	49.6	25.0	層土	火ハバで斜打している。	L-163		
42	76	磨石+刃物?	04 BSK	FL 17	III	193	102.0	60.0	47.0	446.4	片岩	層土	L-115		
42	77	磨石+磨石+刃物?	04 BSK	FK 17	III	242	126.0	94.0	50.0	551.6	片岩	層土	L-110		
42	78	磨石+磨石+刃物?	04 BSK	FM 17	III	225	137.0	49.0	31.0	223.2	片岩	層土	L-121		
42	79	磨石+刃物?	04 BSK	EE 21	I	×	105.5	77.0	47.0	470.0	片岩	層土	L-2234		
42	80	敲石?	04 BSK	FK 19	III	174	66.0	41.0	30.0	101.3	眞貫真鏡	層土	L-91		
43	81	敲石?	05 BSK	DX 20	I	×	72.5	48.5	45.0	213.1	アラカルト	層土	L-2239		
43	82	敲石?	05 BSK	DX 24	III	×	59.9	63.4	27.6	117.8	眞貫真鏡	層土	L-121		
43	83	敲石?	05 BSK	EH 20	III	×	69.0	48.0	14.0	55.5	砂岩	欠損。	L-2227		
43	84	敲石?	04 BSK	FK 15	I	×	124.0	66.0	35.0	227.7	ディサイト	欠損。	L-78		
43	85	敲石?	04 BSK	FK 17	III	259	144.0	96.0	36.0	424.4	緑色花崗岩	層土	L-104		
43	86	敲石?	04 BSK	FL 18	III	279	145.0	96.0	31.0	1,038.2	片岩	層土	L-113		
43	87	敲石?	04 BSK	FM 17	III	134.0	61.0	47.0	446.8	片岩	層土	L-125			
43	88	敲石?	04 BSK	FK 17	III	231	118.0	48.0	42.0	316.3	片岩	層土	L-108		
43	89	敲石?	04 BSK	FK 17	III	62	121.0	52.0	35.0	249.9	安山岩	欠損。	L-183		
43	90	敲石?	04 BSK	FL 17	I	151	72.0	52.0	46.0	207.4	安山岩	層土	L-101		
43	91	敲石?	04 BSK	FK 18	III	59	71.0	54.0	34.0	118.2	眞岩	層土	L-183		
43	92	敲石+磨石?	04 BSK	FL 18	IV	293	103.0	80.0	62.0	530.8	片岩	層土	L-124		
43	93	敲石三頭?	05 BSK	EC 23	III	×	55.0	64.0	55.0	271.4	石英	層土	L-2236		
43	94	敲石?	04 BSK	FK 17	III	191	130.0	102.0	39.0	381.6	砂岩	向みが貴重している。	L-107		
43	95	敲石?	04 BSK	FK 19	III	172	88.0	54.0	35.0	129.7	砂岩	欠損。	L-90		
43	96	敲石?	04 BSK	FL 18	III	200	87.0	61.0	49.0	216.4	片岩	層土	L-1115		
43	97	石器?	05 BSK	DW 21	III	174	145.0	86.0	35.0	669.4	眞岩	層石の未使用品?	L-2229		
43	98	石皿?	04 BSK	FL 18	III	1	240.0	140.0	10.0	164.7	アラカルト	層土	L-125		
44	99	石皿?	04 BSK	FM 18	III	144	217.0	127.0	61.0	2,511.7	花崗岩	層土	L-93		
44	100	石皿?	04 BSK	FM 18	IV	294	293.0	223.0	10.0	8,600.0	ディサイト	層土	L-1210		
44	101	石皿?	05 BSK	EE 22	II	1	125.0	78.0	49.0	710.9	ビン岩	欠損。	L-2231		
44	102	石皿?	04 BSK	FM 19	IV	349	190.0	87.0	44.5	4,454.6	緑色花崗岩	層石の未使用品? 向みあり。欠損。	L-1210		
44	103	石皿?	04 BSK	FK 17	III	160	171.0	123.0	48.0	1,169.8	安山岩	向みあり。欠損。	L-84		
44	104	石皿?	04 BSK		17	III	194	124.0	93.0	36.0	297.0	片岩	欠損。	L-1113	

B区 石製品観察表

図	番号	器種	出土遺構	グリッド	層位	S番	長さ (mm)	巾 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	石質	備考	整番
31	41	軋石製品	04 白区 沢A	FJ 14	3	45	42.0	42.0	40.0	16.2	軋石	分類用。	ハク132
31	42	石製品	04 白区 沢A	FM 16	3	54	70.0	24.0	20.0	28.0	軋物基底板	浜糸? 草茎瓦? 上面に穴1ヶ。	ハク143
44	105	石製品	05 白区	EG 22	田	×	60.0	33.0	4.0	10.0	手抜留	未製品?、欠損。	ハク151

C区 剥片石器観察表

図	番号	器種	出土遺構	グリッド	層位	S番	長さ (mm)	巾 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	石質	備考	整番
48	8	石鋸	04 CSK 01		床面	22	52.0	14.0	5.4	2.6	珪質頁岩		ハク7
48	9	石鋸	04 CSK 01		床面	4	41.4	22.6	8.5	6.6	珪質頁岩		ハク8
51	10	石鋸	04 CSK 02		1	3	34.6	14.7	5.3	2.4	珪質頁岩		ハク10
64	6	石鋸	04 CSK 02		3	×	35.8	13.9	7.2	2.8	珪質頁岩	アスファルト付着。 欠損?	ハク6
64	17	石鋸	04 CSK 03		1	1	47.0	40.0	14.0	21.1	珪質頁岩		ハク17
64	18	石鋸	04 CSK 06		1	1	84.0	27.8	15.2	29.0	珪質頁岩		ハク18
85	36	石鋸	04 CSK 18		2	×	33.8	14.0	8.7	1.3	珪質頁岩	火バネによる欠損。	ハク36
85	37	石鋸	04 CSK 18		6	×	42.0	35.0	11.0	21.6	珪質頁岩		ハク37
86	50	削刮工具	04 CSK 21		珪質頁岩	×	20.0	25.0	5.0	2.6	珪質頁岩		ハク50
86	51	石鋸	04 CSK 22		珪質頁岩	×	71.8	23.1	11.2	15.0	珪質頁岩		ハク51
86	75	削刮工具	04 CSK 23		土	63.7	37.7	10.6	26.2	珪質頁岩		ハク75	
70	100	削刮工具	05 CSK 40		土上部	×	20.0	21.0	3.0	1.0	石英		ハク100
70	101	削刮工具	05 CSK 40		3	2	51.0	31.0	17.0	25.9	珪質頁岩		ハク101
70	102	削片	05 CSK 40		2	3	31.4	51.8	11.3	11.0	珪質頁岩		ハク102
73	1	削刮工具	05 CSD 01		土	48.3	32.4	16.0	16.5	珪質頁岩	表面を削り、石質としようとした可能性あり。	ハク34	
77	1	石鋸	04 CKS	DC 25	I	×	29.8	14.2	5.1	1.8	珪質頁岩	欠損。	ハク77
77	2	石鋸	04 CKS	DB 25	I	×	23.9	9.6	2.8	0.7	珪質頁岩	欠損。	ハク78
77	3	石鋸	04 CKS		壊乱	41	44.0	15.0	4.0	2.4	珪質頁岩		ハク79
77	4	石鋸	04 CKS	DH 24	I	41	47.0	13.0	6.0	3.2	珪質頁岩		ハク80
77	5	石鋸	04 CKS	CG 24	IV	37.3	17.1	6.5	2.8	珪質頁岩		ハク81	
77	6	石鋸	04 CKS	DJ 26	II	32	47.3	14.7	5.3	3.2	珪質頁岩	葉形!アスファルト付着。	ハク82
77	7	石鋸	04 CKS	DB 23	I	48.9	23.7	13.4	15.1	珪質頁岩	未製品。	ハク83	
77	8	石鋸	04 CKS	DG 27	I	72.4	32.8	9.1	15.4	珪質頁岩		ハク84	
77	9	石鋸	04 CKS	DH 23	II	13	61.7	27.5	13.7	18.5	珪質頁岩	未製品。	ハク85
77	10	石片?	04 CKS	DE 27	II	×	19.3	37.7	9.9	6.1	珪質頁岩	刃部の断片?	ハク86
77	11	削刮	04 CKS	DA 25	I	×	27.0	49.0	12.0	13.9	珪質頁岩		ハク87
77	12	削刮工具	04 CKS	DB 23	I	×	49.6	40.1	14.2	21.3	珪質頁岩		ハク88
77	13	削刮工具	04 CKS	DE 27	II	×	21.0	35.0	10.0	6.6	珪質頁岩	火バネ。	ハク89
77	14	削刮工具	04 CKS	DC 25	I	×	27.0	37.0	12.0	9.0	珪質頁岩		ハク90
77	15	削刮工具	04 CKS	DH 26	II	×	56.0	41.0	10.0	13.3	珪質頁岩		ハク91
77	16	削刮工具	04 CKS	DB 28	I	28.0	24.0	6.0	2.9	珪質頁岩		ハク92	
77	17	削刮工具	04 CKS	CB 6	I	1	31.0	15.0	19.0	31.7	珪質頁岩		ハク93
77	18	削刮工具+石鋸	04 CKS	DB 24	II	×	52.5	69.7	11.0	25.3	珪質頁岩	刃部に光沢あり。	ハク94
78	19	削刮工具	04 CKS	Cv 24	II	7	53.0	42.0	12.0	18.1	珪質頁岩		ハク95
78	20	石鋸	04 CKS	DJ 24	II	11	51.0	44.0	41.0	66.3	珪質頁岩		ハク96

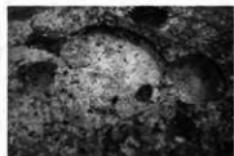
C区 鑿石器観察表

図 番号	器種	出土遺構	グリッド	層位	S番	長さ (mm)	巾 (mm)	厚さ (mm)	重さ (g)	石質	備考	整番
49_10	鑿石工具	04 CS1 01		床面(印)	28	114.0	88.0	65.0	736.2	ディサイト	レキ11	
49_11	台石	04 CS1 01		床面(印)	28	178.0	129.0	74.0	1961.8	安山岩 擦痕あり。	レキ14	
49_12	台石	04 CS1 01		床面(印)	30	147.0	83.0	73.0	631.7	黒鈍石玄武岩 擦痕あり。	レキ13	
49_13	台石(底底石?)	04 CS1 01		床面(印)	25	211.0	152.0	58.0	2,356.9	ディサイト	レキ18	
49_14	台石	04 CS1 01		床面(印)	32	203.0	165.0	85.0	4,807.3	安山岩 擦痕あり。	レキ16	
49_15	台石(凹面?)	04 CS1 01		床面	10	193.0	161.0	77.0	2,210.6	黒火岩 敲打による凹み多數。	レキ15	
49_16	石皿	04 CS1 01		床面	23.24	264.0	245.0	76.0	3,255.4	流紋岩 外側剥離、内面はきつい面により剥離。	レキ20	
51_11	北側式石頭	04 CS1 02		1	1	136.0	87.0	52.0	732.1	ディサイト 底面なし、未製品。	レキ20	
51_12	磨石	04 CS1 02		1	4	52.0	65.0	28.0	130.4	黒鈍石玄武岩 欠損。	レキ19	
51_13	鑿石工具	04 CS1 02		1	2	78.0	78.0	61.0	419.7	安山岩 欠損。	レキ18	
51_14	鑿石工具	04 CS1 02		1	2	108.0	85.0	60.0	536.7	黒火岩 擦痕、黒色物付着。	レキ24	
51_9	磨石	04 CS1 03		1	2	108.0	85.0	60.0	536.7	黒火岩 全体的に擦痕し、ハザードによる削割。	レキ11	
51_10	磨石	04 CS1 03		1	2	108.0	85.0	72.0	955.4	安山岩 内面は部分的に凹み、外面は削り離れ。	レキ23	
55_6	鑿石工具	04 CS1 04		床面	1	66.0	54.0	34.0	1,323	火成岩	レキ24	
55_7	鑿石工具	04 CS1 04		床面	2	234.0	83.0	63.0	1,996.1	火成岩	レキ25	
65_22	台石	04 CSK 09	10 DD_26	底面	1	79.0	72.0	61.0	362.8	ディサイト 欠損。	レキ26	
65_24	磨石	04 CSK 10	DD_26	底面	2	135.0	82.0	45.0	794.2	安山岩 擦痕。	レキ27	
66_44	磨石	04 CSK 19		裏面	1	106.0	44.0	18.0	119.7	緑色細粒花崗岩 欠損、表面はわずかに剥打つ。	レキ31	
66_45	鑿石工具	04 CSK 19		底面	2	250.0	75.0	46.0	1,064.3	ディサイト	レキ30	
66_46	石皿	04 CSK 19	22 DG_25	底面	2	198.0	132.0	51.0	1,639.1	流紋岩 欠損、表面はわずかに剥打つ。	レキ29	
66_52	石皿	04 CSK 23		裏面	1	118.0	70.0	28.0	218.4	ディサイト 剥り取れあり。	レキ34	
66_76	磨石	04 CSK 23		裏面	1	71.0	55.0	34.0	166.4	ディサイト 欠損。	レキ32	
66_77	鑿石工具	04 CSK 23		裏面	2	174.0	71.0	58.0	792.8	安山岩 手取付。	レキ33	
66_78	鑿石工具	04 CSK 23		裏面	3	116.0	68.0	48.0	300.0	安山岩 手取付。	レキ37	
66_80	磨石	04 CSK 23		裏面	4	174.0	18.0	90.0	2,543.6	安山岩 手取付、裏面、欠損。	レキ35	
66_81	石皿	04 CSK 23		裏面	5	269.0	160.0	91.0	5,000.0	黒火岩 手取付、裏面。	レキ36	
66_84	磨石	04 CSK 26		裏面	1	32.0	53.0	12.0	26.1	緑色細粒花崗岩 欠損。	レキ33	
66_86	磨石	04 CSK 31		裏面	2	1	65.0	68.0	39.0	182.5	黒火岩 欠損。	レキ40
66_87	磨石	04 CSK 31		裏面	3	1	207.0	102.0	65.0	2,143.3	真岩 欠損。	レキ44
66_88	鑿石工具	04 CSK 31		裏面	4	76.0	58.0	45.0	237.0	ディサイト 欠損。	レキ43	
66_89	鑿石工具	04 CSK 31		裏面	5	2	88.0	47.0	13.0	156.2	安山岩 欠損。	レキ41
69_90	石皿	04 CSK 31		裏面	6	3	204.0	108.0	115.0	3,490.9	流紋岩 片面磨り削離。欠損。	レキ42
70_105	磨石	05 CSK 41		裏面裏上	1	93.0	60.0	48.0	408.0	緑色 基性岩 欠損。	レキ19	
70_109	鑿石工具	05 CSK 48		裏面	1	175.0	107.0	57.0	1,328.8	黒火岩 欠損。	レキ20	
72_4	石皿	04 CSK 01		裏面	2	142.0	138.0	73.0	1,556.5	黒火岩 裏面剥落、欠損。	レキ45	
72_21	磨石	04 CSK 27	CY_26	裏面	3	65.0	50.0	50.0	72.0	緑色細粒花崗岩 剥離。	レキ42	
72_22	磨石	04 CSK 27	DG_23	裏面	16	42.0	21.0	8.0	15.2	片岩 欠損。	レキ11	
72_23	磨石	04 CSK 27	DG_24	裏面	17	10.0	14.0	3.0	1.0	緑色 基性岩 剥離片。	レキ20	
72_24	北側式石頭	04 CSK 27	DG_24	裏面	28	75.0	74.0	36.0	267.4	安山岩 欠損。	レキ18	
72_25	北側式石頭	04 CSK 27	DG_24	裏面	29	141.0	72.0	52.0	877.4	安山岩 欠損。	レキ19	
72_26	北側式石頭	04 CSK 27	DG_26	裏面	1	123.0	70.0	58.0	765.0	安山岩 欠損。	レキ20	
72_27	北側式石頭	04 CSK 27	DG_24	裏面	2	130.0	78.0	55.0	902.0	ディサイト 剥離。	レキ17	
72_28	磨石	04 CSK 27	DE_26	裏面	3	142.0	83.0	35.0	649.1	安山岩 欠損。	レキ200	
72_29	磨石	04 CSK 27	DG_26	裏面	4	111.0	62.0	30.0	2,763.9	安山岩 欠損。	レキ192	
78_30	磨石	04 CSK 27	DD_26	裏面	5	102.0	68.0	44.0	52.2	安山岩 欠損。	レキ199	
78_31	磨石	04 CSK 27	DG_27	裏面	6	63.0	97.0	37.0	307.7	安山岩 欠損。	レキ202	
79_32	磨石	04 CSK 27	DH_23	裏面	7	147.0	93.0	71.0	902.4	安山岩 欠損。	レキ191	
79_33	磨石	04 CSK 27	DH_23	裏面	8	14.0	82.0	59.0	39.0	242.2	安山岩 欠損。	レキ192
79_34	磨石	04 CSK 27	DI_27	裏面	9	35.0	56.0	49.0	162.9	安山岩 欠損。	レキ193	
79_35	東側式石頭	05 CSK 27	DC_24	裏面	10	168.0	60.0	38.0	5,568.5	緑色 基性岩 剥離による剥落あり。	レキ11	
79_36	鑿石工具	04 CSK 27	DD_23	裏面	11	17.0	50.0	44.0	484.7	片岩 欠損。	レキ200	
79_37	磨石	04 CSK 27	DI_23	裏面	12	23.0	40.0	24.0	23.7	黒火岩 剥離。	レキ113	
79_38	鑿石工具	04 CSK 27	DB_23	裏面	13	86.0	65.0	52.0	425.1	片岩 欠損。	レキ134	
79_39	磨石	04 CSK 27	DJ_27	裏面	14	158.0	78.0	61.0	1,107.9	流紋岩 削離あり、剥き剥い。	レキ201	
79_40	鑿石工具	04 CSK 27	DI_22	裏面	15	21.0	104.0	75.0	55.0	5,524.2	流紋岩 剥き剥い、裏に摩り	レキ135
79_41	鑿石工具	04 CSK 27	CV_26	裏面	16	69.0	71.0	50.0	47.0	461.3	ディサイト 欠損。	レキ139
79_42	磨石	04 CSK 27	DJ_27	裏面	17	30.0	136.0	85.0	47.0	641.3	安山岩 剥き、擦痕有。	レキ206
79_43	石皿	04 CSK 27	DI_23	裏面	18	167.0	110.0	63.0	1,058.1	流紋岩 スカッショ、欠損。	レキ116	
79_44	鑿石工具	04 CSK 27	DG_27	裏面	19	102.0	50.0	21.0	135.8	流紋岩 欠損。	レキ201	
79_45	律	04 CSK 27	DI_27	裏面	20	31	83.0	66.0	21.0	133.8	流紋岩 擦痕有。	レキ207

参考文献

- 青森県教育委員会 1978年 「三内澤部遺跡」青森県埋蔵文化財調査報告書第41集
- 青森県教育委員会 1998年 「三内丸山遺跡ⅩⅠ」青森県埋蔵文化財調査報告書第251集
- 青森県教育委員会 2002年 「近野遺跡VI」青森県埋蔵文化財調査報告書第315集
- 青森県教育委員会 2005年 「三内沢部(3)遺跡・柴山(1)遺跡・洗平(2)遺跡」青森県埋蔵文化財調査報告書第390集
- 青森県教育委員会 2003年 「近野遺跡」青森県埋蔵文化財調査報告書第68集
- 青森県教育委員会 2004年 「江渡遺跡」青森県埋蔵文化財調査報告書第75集
- 島口 天 2005年 「遺跡の地形的・地質的環境」
- 「三内沢部(3)遺跡・柴山(1)遺跡・洗平(2)遺跡」青森県埋蔵文化財調査報告書第390集
- 山口 義伸 1998年 「遺跡内の基本層序」「三内丸山遺跡X」青森県埋蔵文化財調査報告書第250集
- 山口 義伸 2004年 「近野遺跡周辺の地形及び地質について」
- 「三内丸山(5)遺跡II・近野遺跡VI」青森県埋蔵文化財調査報告書第370集

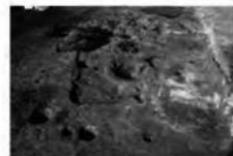
写 真 図 版



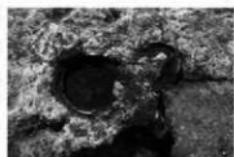
第B101号竪穴住居跡完掘



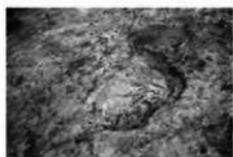
第B101号竪穴住居跡土層断面



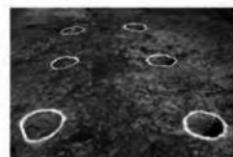
第B102号竪穴住居跡完掘



第B102号竪穴住居跡炉確認



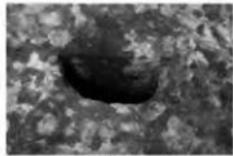
第B103号竪穴住居跡完掘



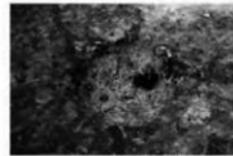
第C1号竪穴建物跡完掘



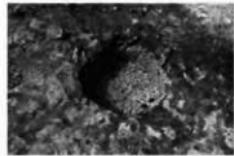
第C1号竪穴建物跡
Pit1土層断面



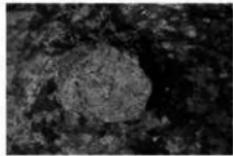
第C1号竪穴建物跡
Pit5土層断面



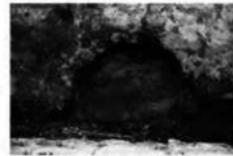
第B1号土坑完掘



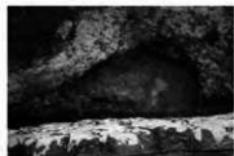
第B2号土坑完掘



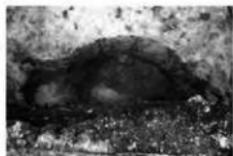
第B3号土坑完掘



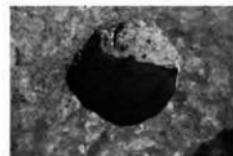
第B5号土坑完掘



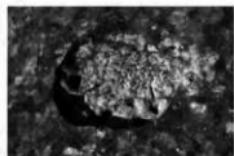
第B6号土坑完掘



第B7号土坑完掘



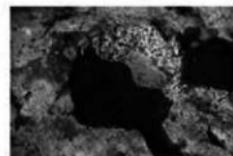
第B107号土坑完掘



第B109号土坑完掘

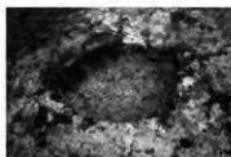


第B110号土坑遺物出土状況

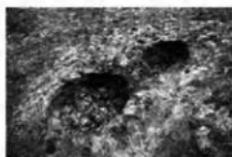


第B111号土坑完掘

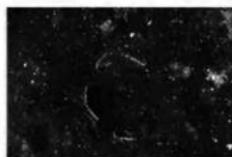
写真1 B区検出遺構(1)



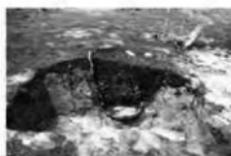
第B140号土坑完掘



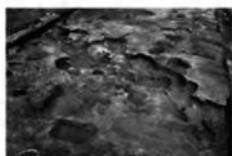
第B141号土坑完掘



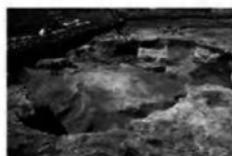
第B1号土器埋設遺構確認



第B1号土器埋設遺構断面



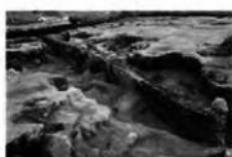
第B1号性格不明遺構完掘



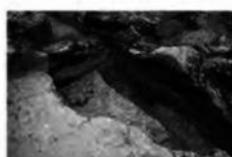
第B1号性格不明遺構西側完掘



第B1号性格不明遺構東側完掘



第B1号性格不明遺構土層断面



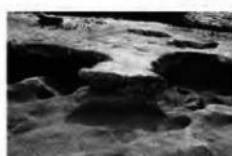
第B1号性格不明遺構土層断面



第B1号性格不明遺構土層断面



第B1号性格不明遺構壁面状況



第B1号性格不明遺構壁面状況



B区沢A完掘



B区沢A土層堆積状況



B区沢A土層堆積状況



B区沢A作業風景



B区沢B完掘



B区沢B調査風景

写真3 B区検出遺構(3)

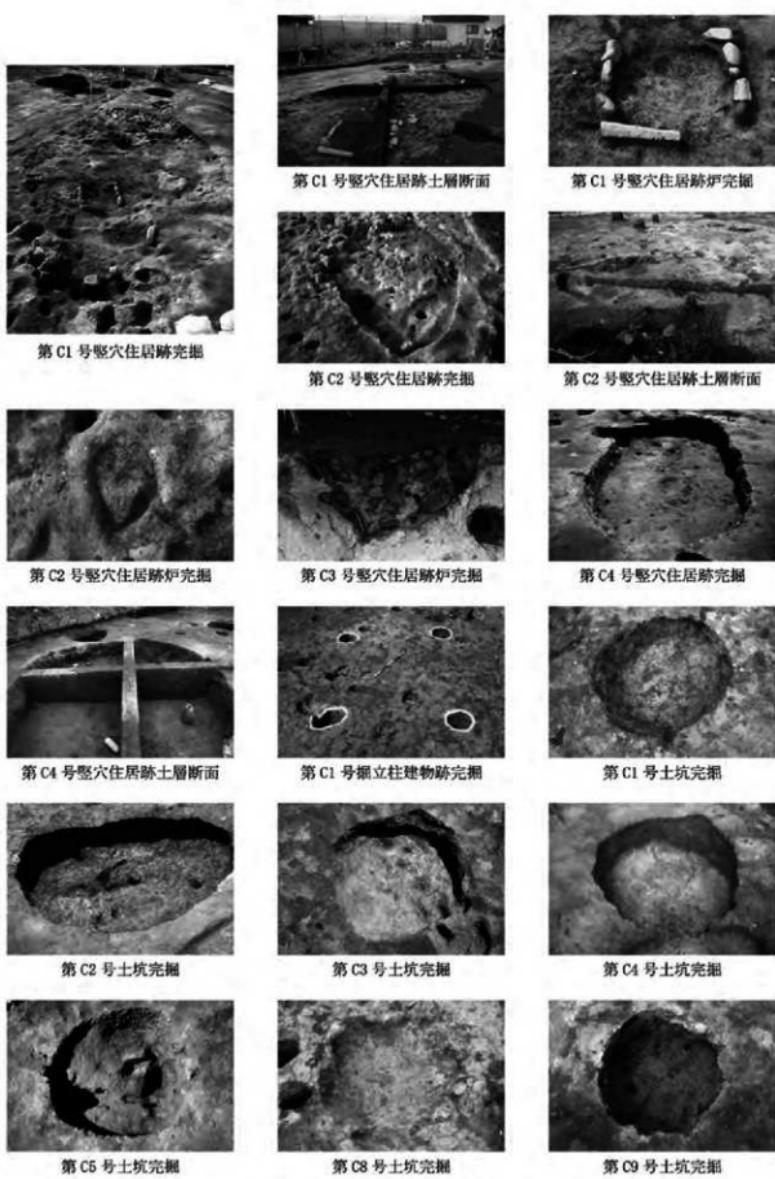


写真 4 C区検出遺構(1)

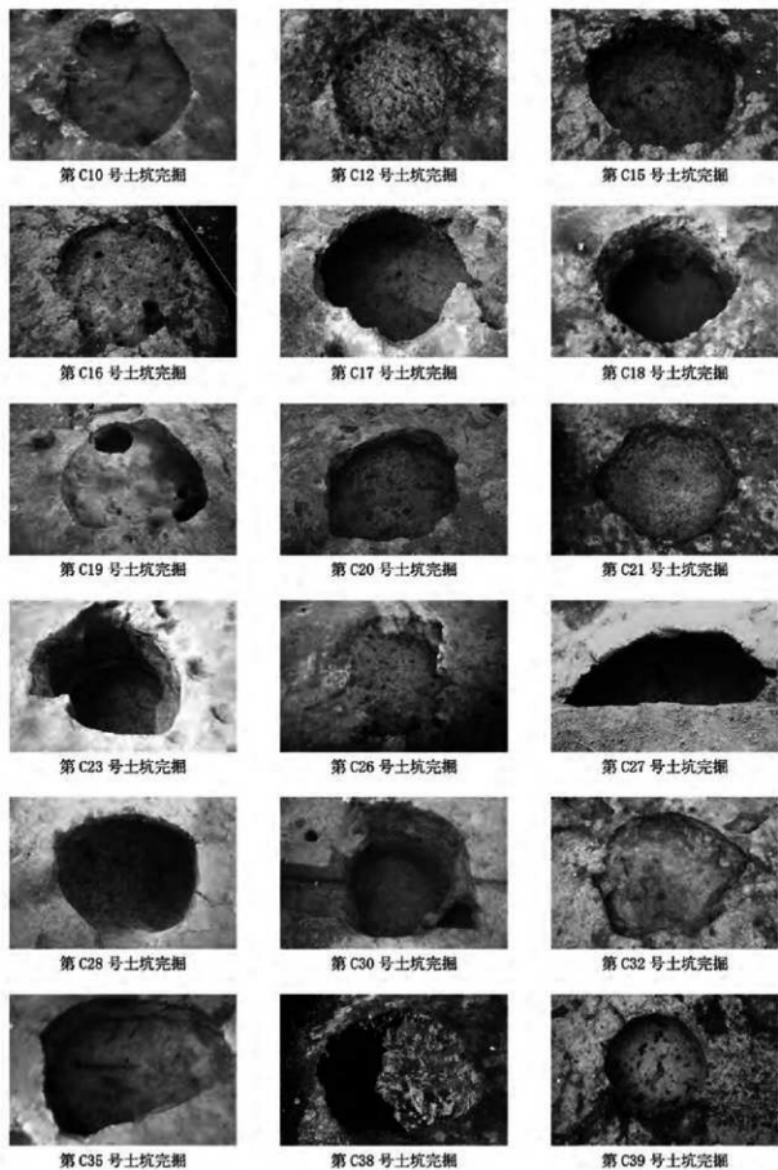
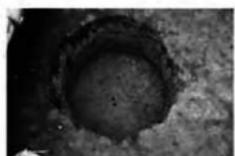
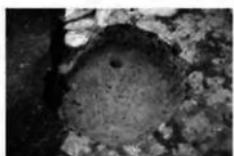


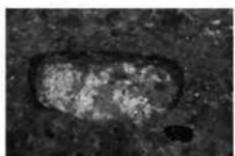
写真5 C区検出遺構(2)



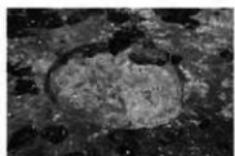
第 C40 号土坑完掘



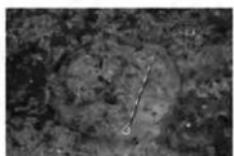
第 C41 号土坑完掘



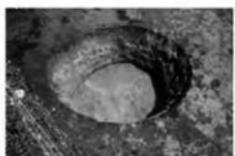
第 C42 号土坑完掘



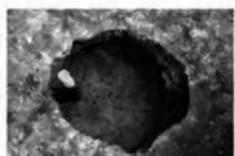
第 C44 号土坑完掘



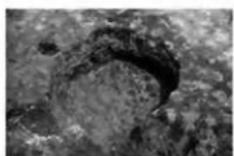
第 C46 号土坑完掘



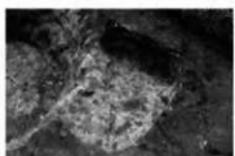
第 C47 号土坑完掘



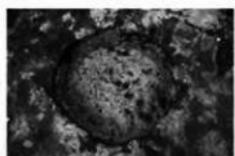
第 C48 号土坑完掘



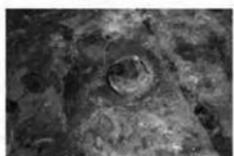
第 C50 号土坑完掘



第 C51 号土坑完掘



第 C52 号土坑完掘



第 C 1 号土器埋設遺構確認



第 C 1 号土器埋設遺構側面



作業風景



C 区全体写真



作業風景



写真 6 C区検出遺構(3)



写真7 B区出土遺物(1)

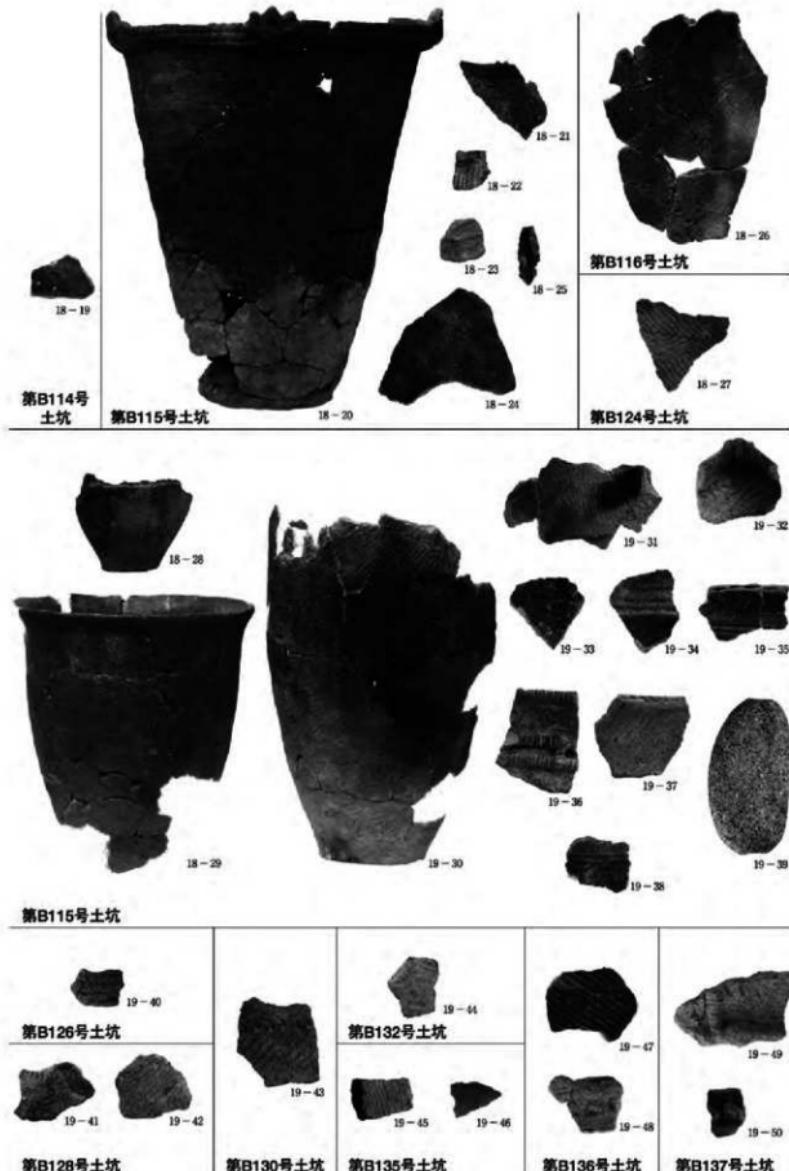
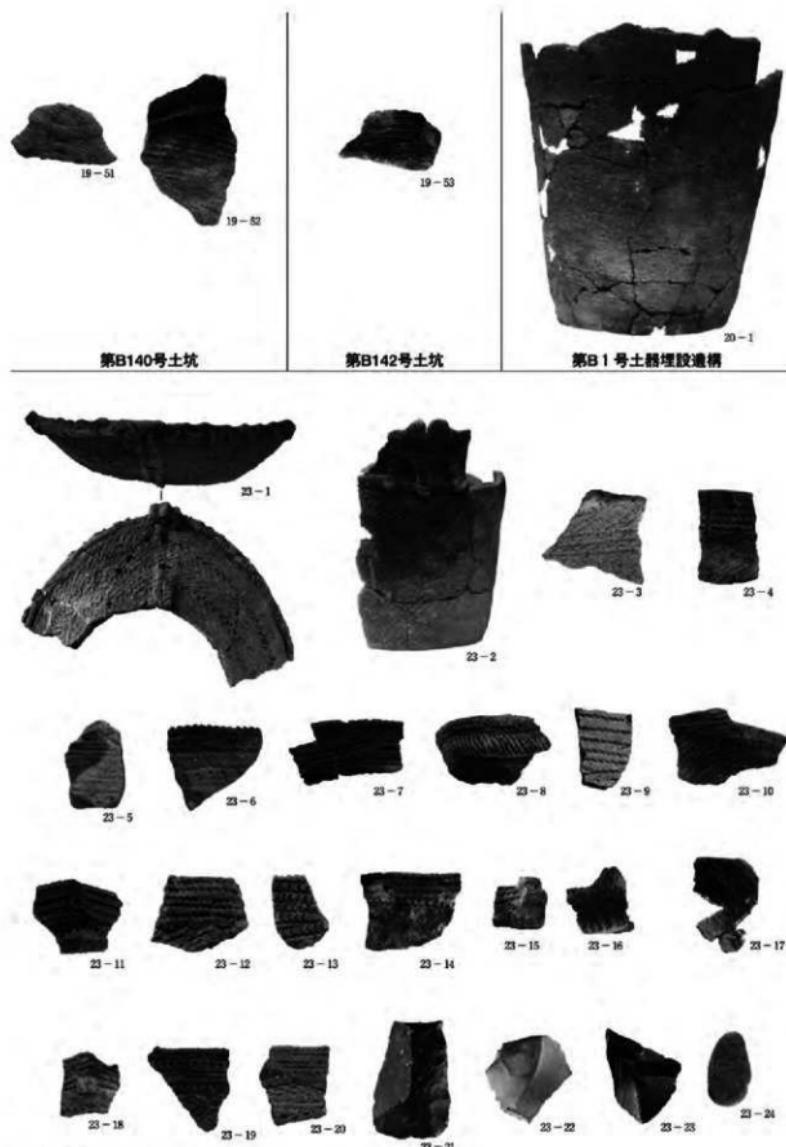


写真 8 B区出土遺物(2)



第B1号性格不明遺構

写真9 B区出土遺物(3)



沢 A

写真10 B区出土遺物(4)

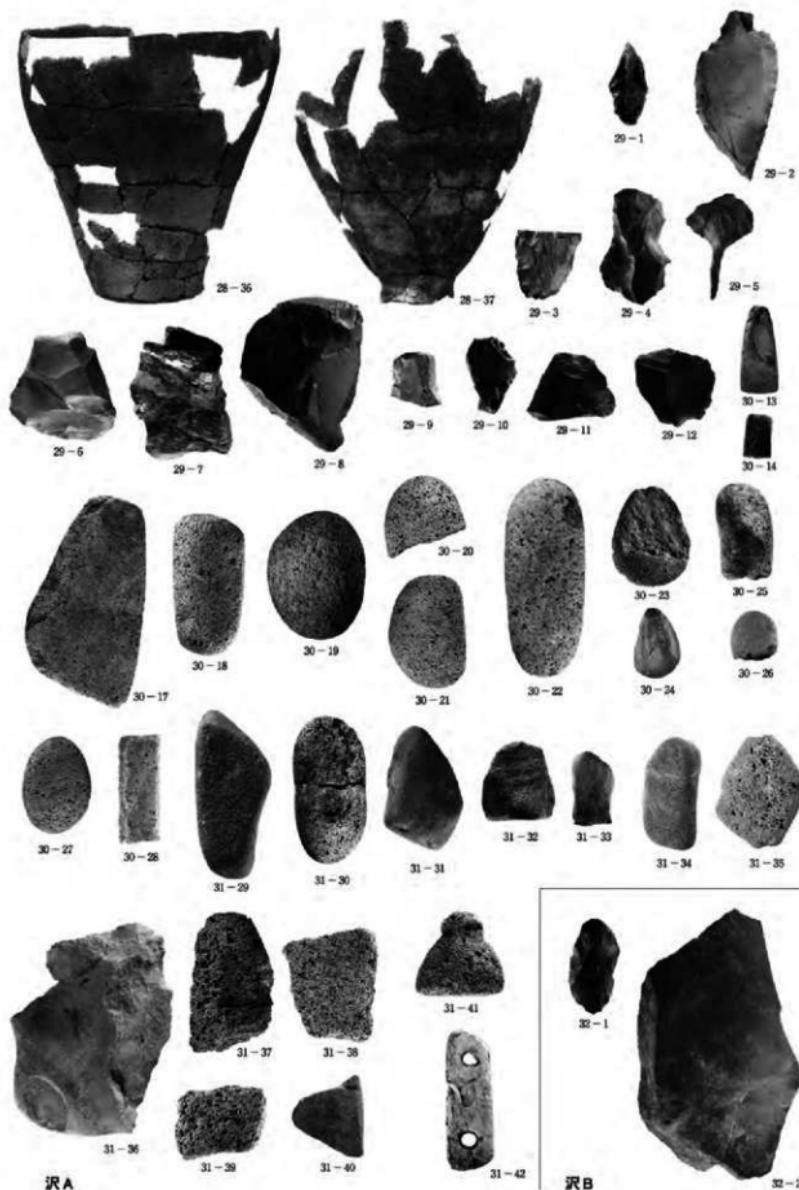


写真11 B区出土遺物(5)

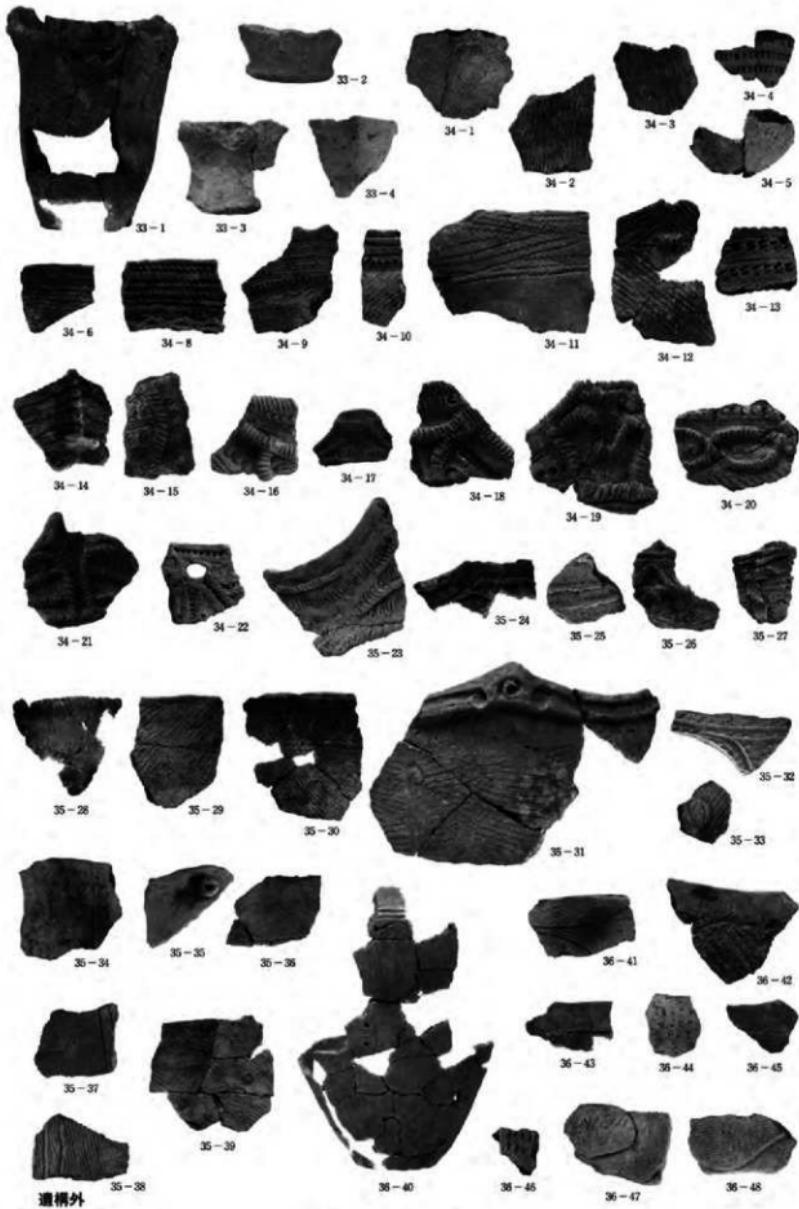


写真12 B区出土遺物(6)



写真13 B区出土遺物(7)



遺構外

写真14 B区出土遺物(8)

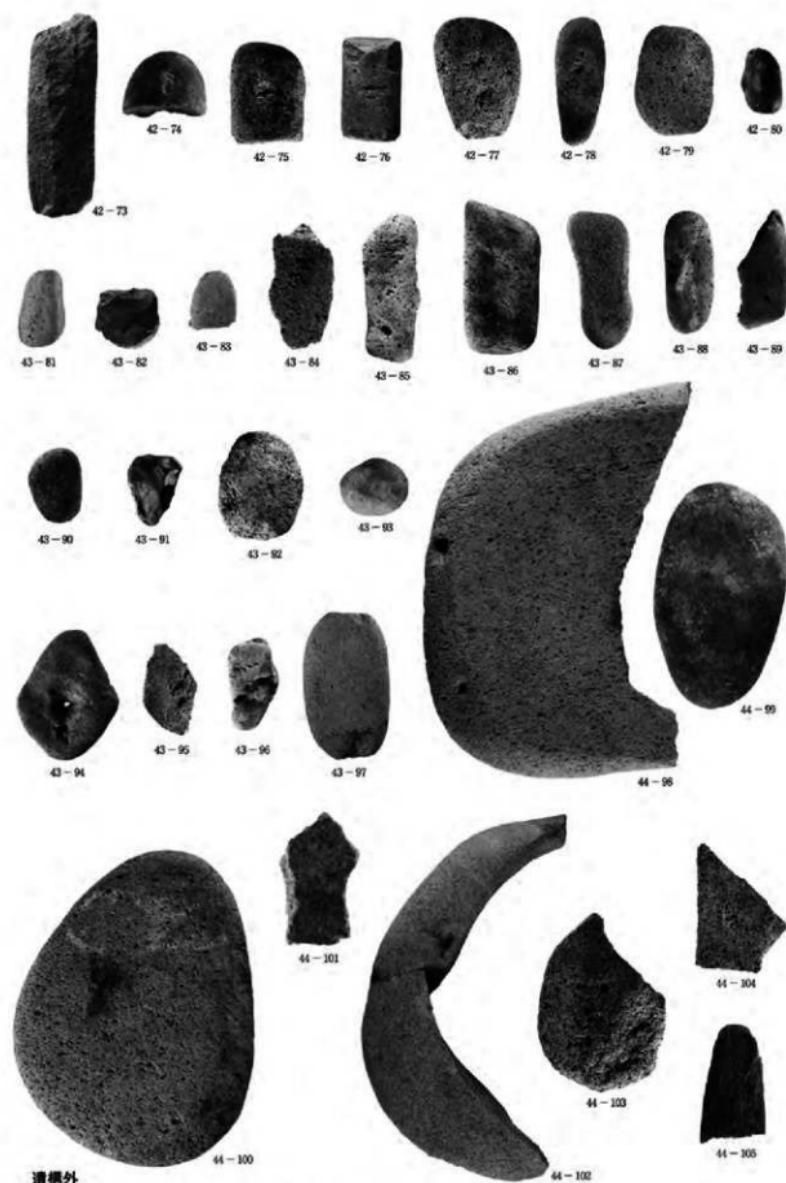
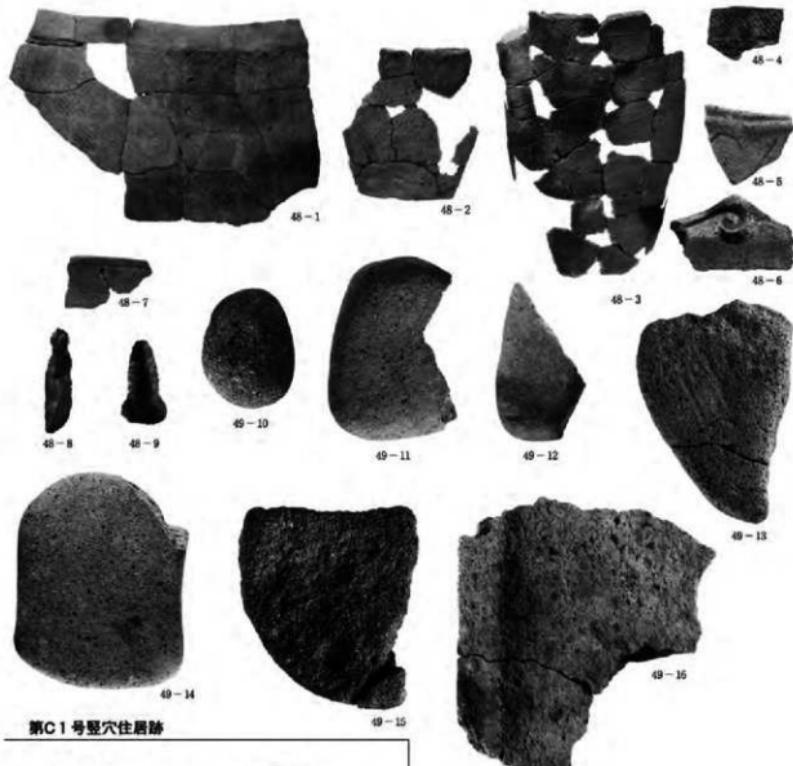
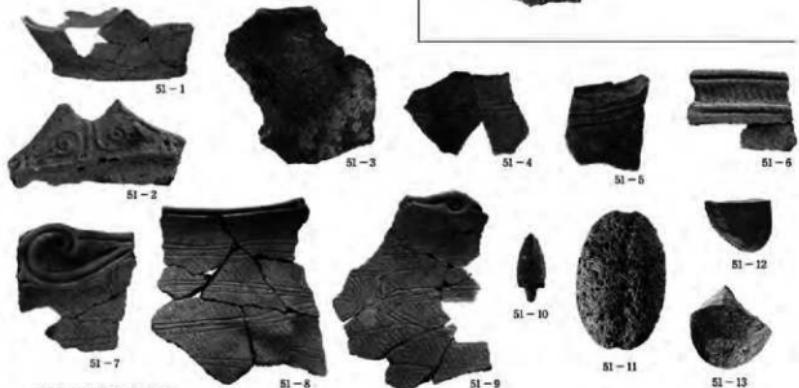


写真15 B区出土遺物(9)



第C1号竪穴住居跡



第C2号竪穴住居跡

写真16 C区出土遺物(1)



写真17 C区出土遺物(2)

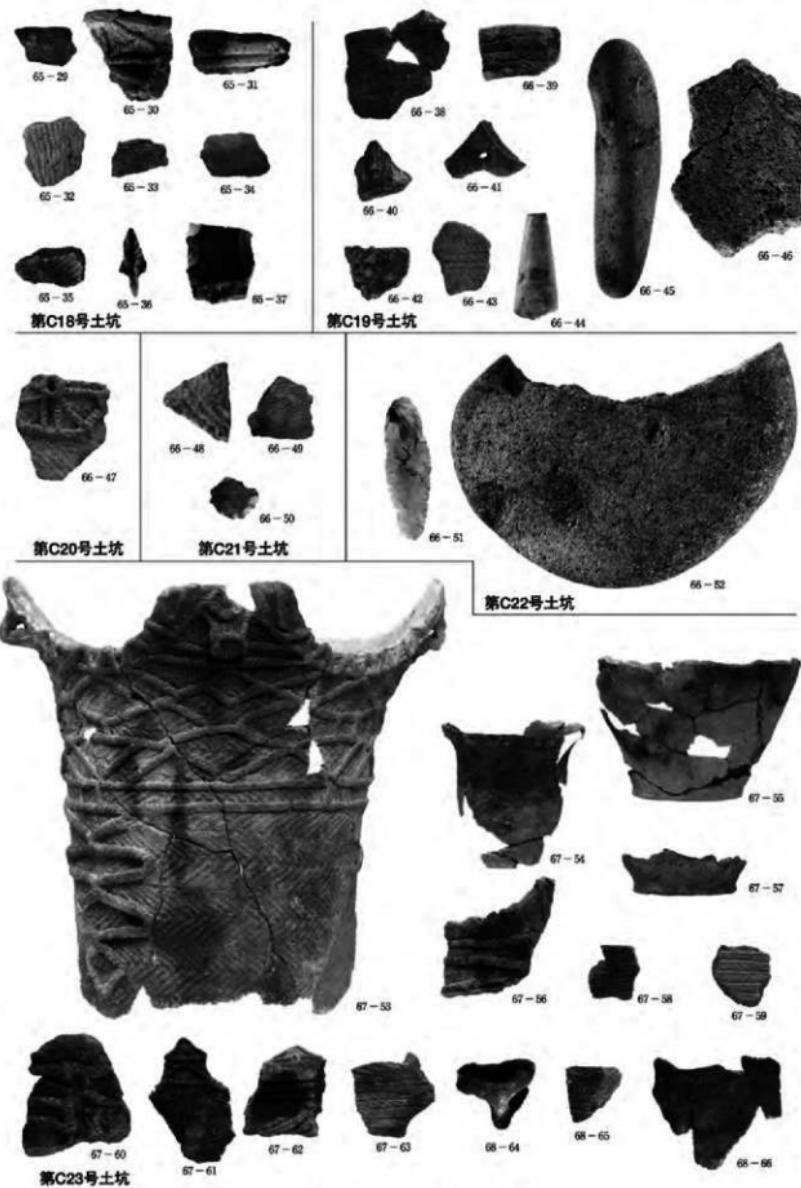
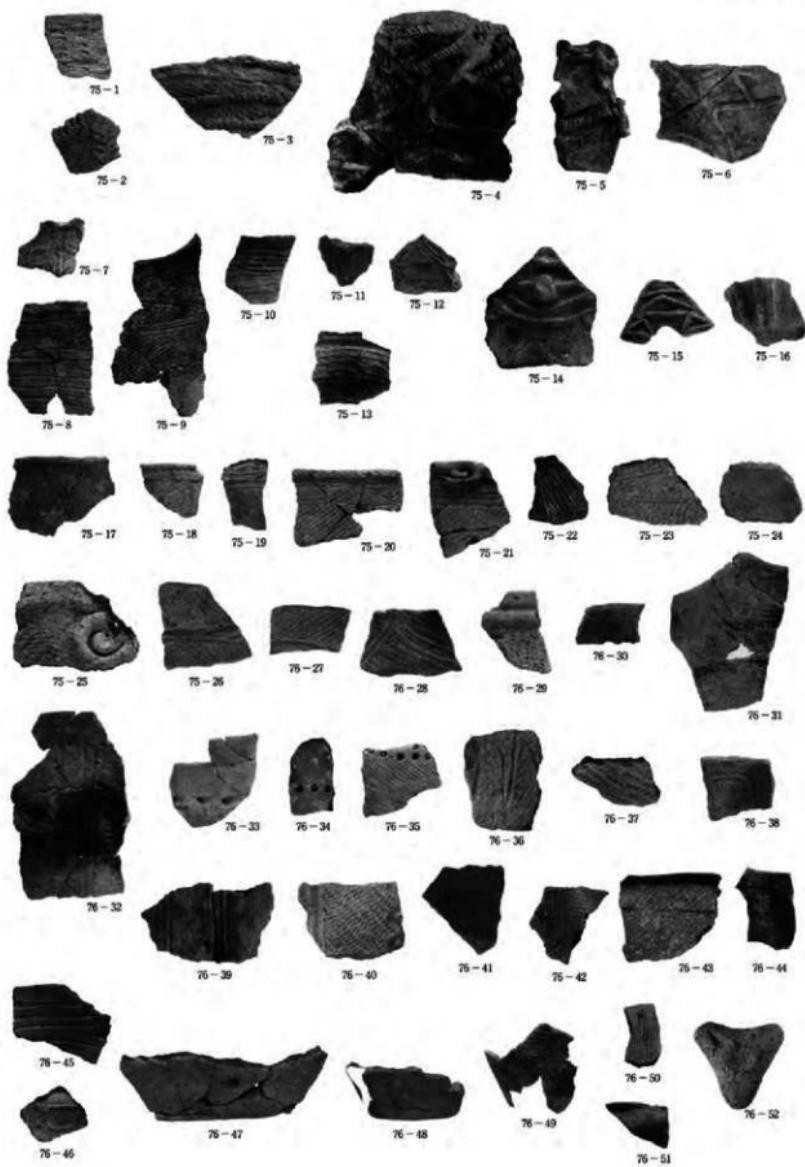


写真18 C区出土遺物(3)



写真19 C区出土遺物(4)



造構外

写真20 C区出土遺物(5)

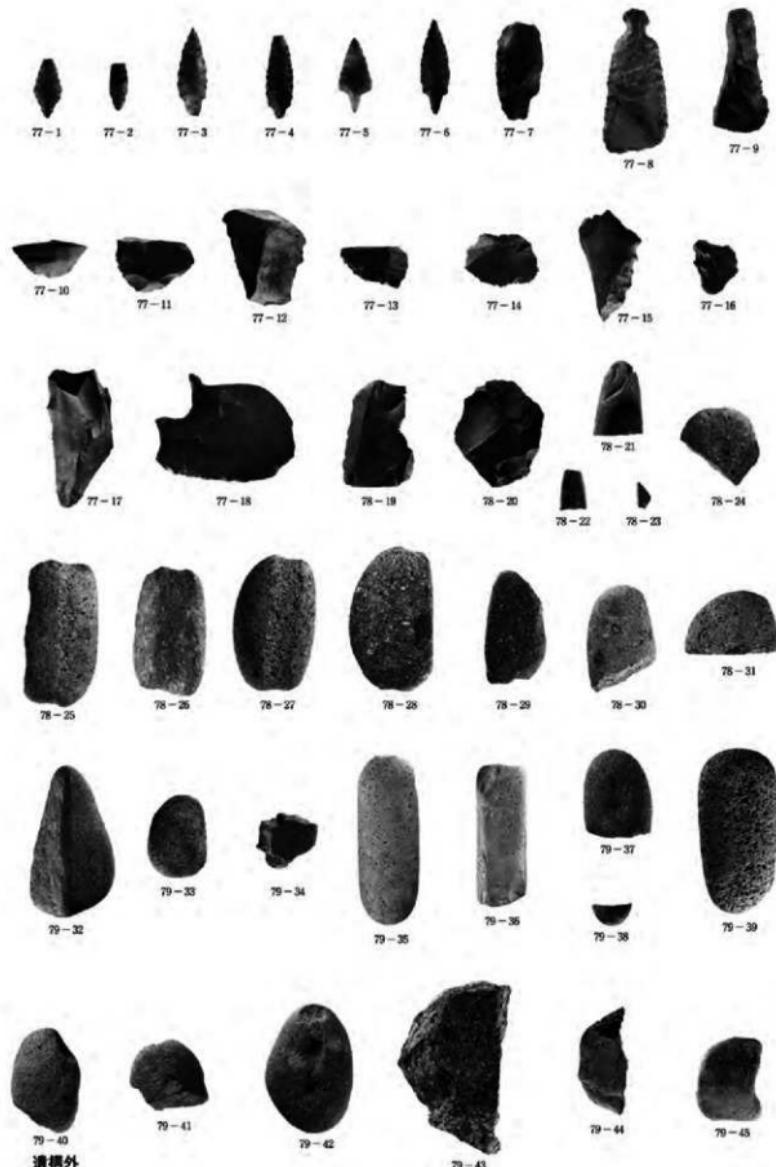


写真21 C区出土遺物(6)

報告書抄録

青森県埋蔵文化財調査報告書 第426集

三内沢部(3)遺跡Ⅱ

－東北新幹線建設事業に伴う遺跡発掘調査報告－

発行年月日 2007年3月2日

発 行 青森県教育委員会

編 集 青森県埋蔵文化財調査センター

〒038-0042 青森市新城字天田内152-15

TEL 017-788-5701 FAX 017-788-5702

印 刷 所 株式会社 精工プロセス

〒030-0964 青森市南佃1丁目17-41

TEL 017-741-3011 FAX 017-741-2577
